

## 件 名

---

令和6年度埼玉県教科用図書選定審議会の答申（第2次）について

## 提出理由

---

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第11条第1項及び同法施行令第8条の規定に基づき、埼玉県教科用図書選定審議会から答申があったので、別紙のとおり報告します。

## 概 要

---

### 答申事項

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

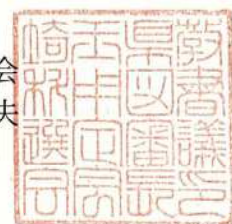
（義務教育指導課）



令和6年5月29日

埼玉県教育委員会 様

埼玉県教科用図書選定審議会  
会長 柿沼 光夫



教科用図書採択に関する答申（第2次）

令和6年4月17日付け教義指第39号で諮問のありました事項について、下記のとおり答申いたします。

【諮問事項】

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

記

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方のうち「参考資料」については、別添「調査資料」を参考に、採択の対象となる教科用図書の特徴を示したものになるようにするとともに、公正中立を欠くことがないよう留意すること。

(別添)

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査の観点及び調査資料

埼玉県教科用図書選定審議会

教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
6 教 図	教育図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
50 大修館	株式会社大修館書店
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
81 山 川	株式会社山川出版社
104 教 研	数研出版株式会社
116 日 文	日本文教出版株式会社
224 学 研	株式会社 Gakken
225 自由社	株式会社自由社
227 育鵬社	株式会社育鵬社
229 学び舎	株式会社学び舎
232 あか図	あかつき教育図書株式会社
233 日 科	日本教科書株式会社
236 令 書	令和書籍株式会社

資料に記載している「QRコード」は、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

## 国語科（国語）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 0.5em;">○○○○ ○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○社会生活に必要な国語の特質（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）を理解し適切に使うことができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>○言語活動を通して、言語能力を育成するためにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する能力の向上を図る態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜言語感覚を豊かにするための工夫＞</p> <p>○生徒の言語感覚（言葉に対する正誤・適否・美醜などの感覚）を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞</p> <p>○自ら進んで読書をし、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○漢字・用語・記号などの使い方にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の言語能力の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新編 新しい国語</h1>	2 東 書
内 容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○情報の整理や関係について学ぶ「情報と論理の学び」が設定されている。学んだことを活用する教材が前後に配置され、情報を活用する力を身に付ける工夫がされている。                      ○古典に親しませるために、作品を解説する折り込み資料や朗読動画、コラム「資料」が掲載されている。巻末資料で古典作品や関係する文章が取り上げられている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○「話すこと・聞くこと」について各学年三つの教材で構成されている。「学習の流れ」によって学習の見通しがもてるように工夫されている。また、言語活動に取り組みやすくするために各項目で活動例を示すなど言語活動の充実が図られている。                      ○「読むこと」の教材文から学んだ表現や構成等を生かして書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的な思考を促している。書く活動では、テーマに対して学習者同士がそれぞれの立場で交流しやすいよう工夫されている。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○学習内容の関連性をもたせるよう、教材ごとの「てびき」に「言葉の力」が掲載されている。巻末に一覧表を設け、「言葉の力」を系統的に学べるように示されている。                      ○「未来への扉」「学びを支える言葉の力」では、未来を考えるテーマや日常生活での言葉の使い方や話の聞き方・伝え方、情報の扱い方がイラスト等でまとめられている。                 </p> <p>                     &lt;言語感覚を豊かにするための工夫&gt;                      ○我が国の言語文化について扱う「日本語探検」「文法の窓」「漢字道場」や、巻末の「資料編」により、多くの語に出会い、言葉の使い方を判断したり、言葉の味わいを捉えたりすることができるように工夫されている。                 </p> <p>                     &lt;読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫&gt;                      ○「読むこと」の教材ごとに「読書案内」が配置されている。「読書への招待」、資料編では学習した教材と読み比べられる本や中学生へのお勧めの本が紹介されている。                      ○1年で図書館の活用やポップ作り、2年でビブリオバトル、3年で読書会や私のベストブック紹介などに取り組み、社会生活とつながる読書活動が取り入れられている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○巻頭で領域別に色分けをして、教材や身に付けたい言葉の力を掲載し、「未来への扉」では、3領域の学習と関連させた未来を考えるための九つのテーマを示されている。                 </p> <p>                     ○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「資料編」と「言葉の力」の一覧が掲載されている。                 </p> <p>                     ○各教材にあるQRコードから、授業中の言語活動や家庭での予習・復習での活用を想定したデジタルコンテンツを閲覧、利用することができるよう工夫されている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○長文の行数が「5、10、15」と「・」で表記されている。新出漢字は脚注に1字で示され、掲載された行数と漢字の読み方が示されている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○1年では小学校での既習事項の復習となる内容や、3年を中心に、社会生活に生かせる言語活動や評論文などの教材が掲載されている。                 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の国語</h1>	15 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">三省堂</span>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の扱い方について、自分の考えを深める「情報を関係づける」という単元が設定されている。複数の資料を用い情報を関連付けて考える力を養う工夫がされている。</li> <li>○古典に親しませるために、写真、図版を用いた資料や朗読音声、コラムが掲載されている。巻末資料で古典芸能や古典作品が取り上げられている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」について各学年三つの教材で構成されている。「話し合いのこつ」によって、グループでの話し合いが進みやすくなるような工夫がされている。また、「書くこと」と「話すこと」が関連しており、言語活動の充実が図られている。</li> <li>○「読むこと」の教材文に関連した内容を「書くこと」の内容に反映させるなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的な思考を促している。書く活動では、学習者が自身の体験を振り返りながら、思考を深められるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しがもてるよう教材ごとに「学びの道しるべ」を設けられている。巻末の「読み方を学ぼう」により、学んだことの振り返りができるよう工夫されている。</li> <li>○各学年の巻末資料に、対義語や慣用句などテーマを設けた語彙の資料や、手紙の書き方・話し合いの仕方といった日常生活で必要な内容が一覧で掲載されている。</li> </ul> <p><b>&lt;言語感覚を豊かにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の言語文化について扱う「言葉発見」「文法の窓」「漢字のしくみ」や、巻末の「資料編」により、多くの語に出会い、言葉の使い方を判断したり、言葉の味わいを捉えたりすることができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」の教材ごとに「私の本棚」が配置されている。資料編「読書の広場」が設けられ、小説や説明文、古文などが紹介されている。</li> <li>○1年で私が選ぶ一文の紹介、2年でビブリオバトル、3年でブックトークに取り組み、社会生活とつながる読書活動が取り入れられている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭で領域別の教材や言葉の力を身に付けるための学習の進め方が示されており、「思考の方法」では、思考の方法を手助けするチャートと使い方が例示されている。</li> <li>○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「資料編」が掲載され、「読み方を学ぼう」で、文章読解の方法が示されている。</li> <li>○各教材にあるQRコードから、学習の参考となる資料や動画での解説を閲覧したり、漢字と文法のデジタルドリルを利用したりすることができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の行数が「5、10、15」で表記されている。新出漢字は脚注に1語単位で掲載行数とともに示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年では小学校での既習事項の復習となる内容が扱われている。全体として、社会生活に生かせる言語活動や評論文などの教材が掲載されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>伝え合う言葉</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や広告等を扱う「情報・メディアと表現」を設け、文字と文字以外の表現を合わせて読解することで、情報の扱い方や活用する力を身に付ける工夫がされている。</li> <li>○古典に親しませるために、絵巻、写真等の資料が掲載されている。巻末資料で、その学年で学んだ教材の他の場面や様々な古典作品、伝統芸能が取り上げられている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」では、1・2年は四つ、3年は五つの教材で構成されている。「学習活動の流れ」の中でポイントを示すことによって、学習が深まるように工夫されている。また、言語活動の充実を図るため、思考ツールが掲載されている。</li> <li>○「読むこと」の教材文で学んだ知識や技能を基に書く活動を行うなど「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的な思考を促している。また、書く活動では、課題の内容や書き方の例が示され、学習者が取り組みやすくなるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「言葉の地図」に学習の流れと身に付けさせたい言葉の力が掲載されている。各教材の「学びナビ」「みちしるべ」で学習の関連性が図られている。</li> <li>○巻末資料では現代文学・古典文学の読書教材の他、「話すこと」「書くこと」のテーマや、日常生活で文章を書くときの注意点や表現に役立つ言葉がまとめられている。</li> </ul> <p><b>&lt;言語感覚を豊かにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の言語文化について扱う「言葉の小窓」「文法の小窓」「漢字の広場」や、巻末の「言葉の自習室」により、多くの語に出会い、言葉の使い方を判断したり、言葉の味わいを捉えたりすることができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○单元ごとに「広がる本の世界」が配置されている。「読書への招待」という教材を設定し、読書活動につながる本が紹介されている。</li> <li>○1年で本の帯やポップ作り、2年で図書館の活用、3年でビブリオバトルなどに取り組み、社会生活とつながる読書活動が取り入れられている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「言葉の地図」において、この教科書での学び方を紹介し、1年間で学ぶ内容と身に付けたい言葉の力がSDGsと関連付けて示されている。</li> <li>○巻末に、言葉と文法の学習内容をまとめた「解説編」と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「言葉の自習室」が掲載されている。</li> <li>○各教材にある「まなびリンク」（QRコード）から、教材の補足資料や情報活用能力の育成を手助けするコンテンツを閲覧、利用することができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の行数が「5、10、15」と「・」で表記されている。新出漢字は脚注に掲載箇所に対応して1字で掲載されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年では小学校での既習事項の復習となる内容が扱われている。全体として、社会生活に生かせる言語活動や評論文などの教材が掲載されている。</li> </ul>	



書名 項目	<h1 style="margin: 0;">国語</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光村</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」で、文章における情報の扱い方が示されている。情報活用能力を養うよう「情報×SDGs」という教材が設定されている。</li> <li>○古典に親しませるために、作品の全体像を解説するコラムや絵巻・地図、朗読音声に掲載されている。巻末資料で古典芸能や古典作品が取り上げられている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」について1年は七つ、2・3年は六つの教材で構成されている。また、言語活動の充実を図るために、3年間を通して系統的に学べるように課題が設定されている。</li> <li>○「読むこと」の教材文で学んだ知識や技能を生かして書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的な思考を促している。また、書く活動では、学習者が実践した内容を交流したり、自己評価したりしやすいよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材ごとに「学びへの扉」を設け、学習の見通しをもたせている。また、巻末に『学びのカギ』一覧を設け、基本的な観点を示し、振り返りができるようになっている。</li> <li>○巻末の資料「豊かに表現するために」では、日常生活に生きるテーマを設け、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で1年間で学習した言語活動が掲載されている。</li> </ul> <p><b>&lt;言語感覚を豊かにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の言語文化について扱う「言葉」「文法への扉」「漢字」や、巻末の「語彙ブック」「資料編」により、多くの語に出会い、言葉の使い方を判断したり、言葉の味わいを捉えたりすることができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」の教材ごとに「広がる読書」が配置されている。読書単元が二つ設定され、テーマ別の本の紹介、読み比べにつなげられるように構成されている。</li> <li>○1年でポップ作りや読書会や読書記録、2年でブックトークやポスター作り、3年でブックレビューなどに取り組み、社会生活とつながる読書活動が示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭で領域別に色分けをして、教材と身に付けたい言葉の力を他教科・SDGsと関連付けて示され、「思考の地図」では、場面や目的に応じた思考法が紹介されている。</li> <li>○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる資料や文章を読んだり豊かに表現したりするための「学びのカギ」一覧が掲載されている。</li> <li>○教科書の該当ページに示されているQRコードから、学習の参考となる資料を閲覧したり、解答を書き込めるコンテンツを利用したりできるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長文の行数が「5、10、15」と「・」で表記されている。新出漢字は脚注に1字で載せ、掲載された行数と漢字の読み方が用例とともに示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年では小学校での既習事項の復習となる内容が扱われている。3年を中心に、社会生活に生かせる言語活動や評論文などの教材が掲載されている。</li> </ul>	

国語科（国語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	306	366	357	344
	2年	310	366	373	344
	3年	322	366	357	340
2 巻末資料、付録等の総ページ数 ※ ページ番号のない部分も含む	1年	68	136	73	89
	2年	72	124	73	83
	3年	98	136	67	99
3 単元数	1年	8	9	9	8
	2年	8	9	9	8
	3年	8	8	8	8

○領域別教材数等について ※（ ）内は、資料編等の中の教材及び資料数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村	
1 教材数 ※扉の部分の詩も教材数に含む	1年	55(17)	52(29)	65(22)	78(18)	
	2年	54(13)	53(27)	61(24)	72(18)	
	3年	49(15)	45(27)	61(25)	72(20)	
2 領域別教材数	① 言葉の特徴や使い方に関する事項	1年	18(2)	20(9)	18(13)	21(6)
		2年	17(2)	18(8)	16(14)	20(5)
		3年	14(4)	16(8)	16(15)	18(7)
	② 情報の取り扱いに関する事項	1年	5(3)	1(0)	2(1)	5(2)
		2年	5(3)	1(0)	2(2)	5(4)
		3年	4(2)	1(0)	2(1)	4(3)
	③ 我が国の言語文化に関する事項	1年	10(6)	8(7)	16(3)	12(2)
		2年	8(1)	9(7)	16(2)	13(2)
		3年	9(2)	6(7)	15(4)	16(2)
	④ 話すこと・聞くこと	1年	3(0)	3(2)	4(1)	7(1)
		2年	3(0)	3(2)	4(1)	6(2)
		3年	3(0)	3(2)	5(1)	6(2)
	⑤ 書くこと	1年	5(3)	6(5)	5(1)	13(3)
		2年	5(2)	6(5)	6(1)	10(1)
		3年	4(2)	4(5)	4(1)	7(0)
	⑥ 読むこと	1年	14(3)	14(6)	20(3)	20(4)
		2年	16(5)	16(5)	17(4)	18(4)
		3年	15(5)	15(5)	19(3)	21(6)

○文種別教材数について ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 説明的文章 ※新聞記事等を含む	1年	8(1)	6(3)	7(0)	7(1)
	2年	8(3)	8(2)	8(0)	7(0)
	3年	10(3)	7(2)	10(0)	8(0)
2 物語・小説・随筆 ※古典は除く	1年	6(2)	6(2)	6(2)	7(1)
	2年	6(2)	4(2)	5(2)	8(2)
	3年	9(2)	5(2)	8(3)	10(3)
3 詩・短歌・俳句 ※巻頭詩等を含む	1年	12(0)	3(0)	7(1)	12(0)
	2年	13(0)	4(0)	8(2)	8(0)
	3年	14(0)	4(0)	10(1)	10(0)
4 古典 ※漢文・和歌・川柳等を含む	1年	4(4)	2(4)	5(2)	3(2)
	2年	6(0)	6(3)	4(2)	7(2)
	3年	6(0)	5(5)	6(1)	6(2)

○その他 ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
学校図書館等の活用に関する教材数 (読書案内・読書活動を含む)	1年	8(1)	3(2)	9(0)	6(0)
	2年	8(1)	3(2)	9(0)	6(0)
	3年	8(1)	3(2)	8(0)	6(0)
QRコードの数	1年	66	94	50	93
	2年	66	95	52	84
	3年	59	85	48	70

## 国語科（書写）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○目的や必要に応じて、文字を選んで効果的に書かせる学習について、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○生徒が主体的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <p>○毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜各教科や日常生活との関わり＞</p> <p>○書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料の内容には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料の配置や手本との関連には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○用語・記号などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材の内容や解説・説明の仕方について、生徒の言語能力の発達の段階に応じて、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新しい書写</h1>	2 東 書
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○六つの過程が設けられ、単元が展開されている。「目標」が示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。</li> <li>○毛筆では、穂先の動き等の基本点画の筆使いを朱墨と淡墨を用いて示されている。「書写のかぎ」という注意点を踏まえて、毛筆で課題に取り組むよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つけよう」で書体を比較し説明させたり、指でなぞって考えさせたりすることで、学習のポイントを意識できるよう構成されている。</li> <li>○「生活に広げよう」で、効果的な文字の選択や場面・相手の設定等、単元ごとの学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう題材が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が見通しを立てて主体的に学べるよう、基本単元は「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」で構成されており、ポイントが「書写のかぎ」で示されている。</li> <li>○「振り返ろう」で、学習目標と連動した自己評価について、自分の言葉で説明し、話し合い活動を通して自らの学びを深められるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本点画を学ぶ際、「見つけよう」という項目で硬筆から課題を意識させ、「確かめよう」という項目で毛筆の点画の書き方を確かめる流れになっている。</li> <li>○「生かそう」という硬筆教材を設定し、毛筆で学んだ文字の配列や点画の連続・変化等を、硬筆で生かせるように毛筆と硬筆の関連が図られている。</li> </ul> <p><b>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年、「生活に広げよう」という項目が設けられており、依頼状・お礼状の書き方等、生活の様々な場面を通して、日常生活との関わりが示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「姿勢と筆記具の持ち方」について写真を使って解説されている。また、「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体が併記されている。</li> <li>○巻末の「書写活用ブック」で様々な書式や漢字表が取り上げられている。また、随所に写真図版と解説を交えたコラム「文字といっしょに」が設けられている。</li> <li>○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。姿勢と筆記具の持ち方・書写テスト・運筆動画等が見られるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字が配されている。中心事項について色を変えて記され、指でなぞって書く練習が加えられている。「始筆・送筆・終筆」が「とん・すう・ぴたっ」と示されており、運筆指導に対応している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書写での学びを生活に生かすことができるよう題材が設定されている。</li> <li>○書写の知識や技能を身に付けられるよう、行書に特徴的な動きをパターン化し、「行書のまとめ」や「書写テスト」で繰り返し確かめ、定着を図るよう構成されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の書写</h1>	15 三省堂
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○七つの過程が設けられ、単元が展開されている。具体的な字形例を基に、書き方のポイントが示されている。</li> <li>○毛筆の筆使いに、筆圧・穂先の動きを朱墨・淡墨で示されている。行書の横に楷書の手本が並べて示され、学びの定着を図ることができるような工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つけよう」の問いによって、書体を比較しながら学習のポイントを見つける等、単元の課題を意識できるよう構成されている。</li> <li>○「やってみよう」で、場面に応じた効果的な文字の選択等、学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体的にポイントを捉え、見通しを立てて学習に臨めるよう基本単元が「書き方を学ぼう」「書いて身につけよう」で構成されている。</li> <li>○「振り返ろう」で、学習目標と連動した課題により、学んだことが実際に活用できるか書いて確認し、自らの言葉で記述できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○点画の種類と筆使いを毛筆で学んだ後で、「書いて身につけよう」という硬筆教材が設定され、毛筆と硬筆の関連を図られている。</li> <li>○毛筆で学んだことを硬筆に生かそうということで、古典や身の回りの様々な書式を硬筆で書く学習が取り入れられている。</li> </ul> <p><b>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年、「やってみよう」という項目が設けられており、情報誌や名言集等を作る取組を通して、日常生活との関わりが示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「姿勢と構え方」で姿勢や用具の持ち方等について写真を使って解説されている。また、「楷書・行書一覧表」では楷書体と行書体が併記されている。</li> <li>○巻末の「資料編」は「日常の書式」と「書写の広場」に分かれ、書き初め手本等が取り上げられている。また、随所に写真図版と解説を交えたコラムが記載されている。</li> <li>○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。硬筆・毛筆の姿勢・運筆・コラム関連動画等が見られるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字が配されている。学習の中心事項が文章で記されており、学習課題に結びつくような工夫がされている。運筆指導に対応し「穂先」の説明では、筆の動きが見て分かるように示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材が見開きで構成され、書き方のポイントや学習内容が一覧で示されている。</li> <li>○「書いて身につけよう」では、学習したことを多様な場面で主体的に活用できる力を身に付けることができるよう構成されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○八つの過程が設けられ、基礎・基本の定着を目指して単元が展開されている。「目標」が示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。</li> <li>○毛筆では、基本的な点画や穂先の動きを2色の薄墨で示されている。硬筆で「試し書き」をして「まとめ書きと応用」で熟語も一緒に学べるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えよう」の問いで書体や文字同士を比較したりその差異を考えたりしながら、学習のポイントを意識できるよう構成されている。</li> <li>○「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」で、各教科の書く活動と連動させ、学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本単元は「考えよう」「生かそう」で構成され、学習手順を明確化させることで、生徒自身がどのように学ぶか見通しが立てられるようになっている。</li> <li>○「振り返ろう」で、学習目標と連動した自己評価を「○=できた」「△=もう少し」の記号を書き込み、自らの学びを確認できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「試し書き」という項目で硬筆、「考えよう」という項目で毛筆の課題を発見・確認し、それを生かして硬筆の書き方を改めて学習する流れになっている。</li> <li>○基本点画を学習する単元の終末に、これまで毛筆で学習したことを硬筆で生かして書く学習を取り入れている。</li> </ul> <p><b>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校生活に生かして書く」等の項目で、本の帯やポスターの書き方等の学習を紹介し、日常生活との関わりが示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「姿勢と用具の使い方」について写真を使って解説されている。また、「漢字一覧表」は常用漢字を小・中学校ごとの部首別に楷書体と行書体が併記されている。</li> <li>○巻末で日常の書式を紹介した「書式の教室」や、「書き初め」手本等が取り上げられている。また、随所に写真図版と解説を交えたコラムが設けられている。</li> <li>○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。用具の準備や運筆等学習に役立つ動画が見られるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの片方のページに学習目標と教材文字、もう一方に学習の流れが配されている。学習の中心事項について書き込み欄が設けられ、学習課題に結びつくよう工夫されている。筆圧が「1の力、2の力、3の力」と示され、運筆指導に対応している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○半紙形を維持した紙面で教材文字に中心点を入れている。</li> <li>○各教材で、授業のはじめに「試し書き」で自分の課題に気付き、授業の終わりに「まとめ書き」で振り返り、「書く力」を身に付けるよう構成されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光 村</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○六つの過程が設けられ、知識や技能の定着を目指して単元が展開されている。「目標」が示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。</li> <li>○「書写ブック」を用いて硬筆課題に取り組み、毛筆での学習の定着につなげている。毛筆では、筆使いや穂先の動きが濃淡のある朱墨と薄墨で示されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えよう」の活動を通して、文字を観察・比較することで、自ら学習のポイントを発見、意識できるよう構成されている。</li> <li>○「生かそう」で、場面や目的に応じた効果的な文字の選択について、演習を交えながら実生活に生かせるよう構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本単元は「考えよう」「確かめよう」「生かそう」で構成され、ポイントが「学びのカギ」で示され、生徒が見通しを立てて主体的に学習に取り組めるようになっている。</li> <li>○「振り返ろう」を学習目標の下に配置し、自己評価の内容を意識して振り返ることで、自らの変容を確かめられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本点画を毛筆で学習した後で、学習したことを生かして硬筆で書く「生かそう」という教材が取り入れられている。</li> <li>○毛筆の基本点画を学んだ後で、学習したことを日常に生かして硬筆で書く「書写ブック」という教材が設けられ、毛筆と硬筆の関連が図られるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「日常に役立つ書式」や「国語・学校生活」の項目で、冊子の書き方や職業ガイド新聞等の活用例が示され、日常生活との関わりが示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「姿勢・筆記具の持ち方」について写真を使って解説されている。また、「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体が併記されている。</li> <li>○巻末で「日常に役立つ書式」「書き初め手本」等が取り上げられている。また、随所にコラムが設けられ、写真図版と解説を交えて掲載されている。</li> <li>○QRコードを読み取ることで、用具の準備や運筆等学習に役立つ動画が見られるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで学習目標と学習の流れ、次ページに教材文字が配されている。学習の中心事項が文章で記され、学習課題に結びつくよう工夫されている。「始筆・送筆・終筆」が「トン・スー・トン」や「ぴよん、ぴたっ」で示され、運筆指導に対応している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「書き初めマスターブック」で、書き初めの由来やポイントが掲載されている。</li> <li>○「書写ブック」で、毛筆での学習を硬筆に生かし、定着できるよう工夫されている。国語教科書と連動した教材が全学年で掲載されている。</li> </ul>	

国語科（書写） 調査資料2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※目録に記載されたページ数	1年	145	120	146	165
	2年				
	3年				
2 単元数	1年	3	3	3	2
	2年	2	3	3	2
	3年	1	1	2	2
3 QRコードの数	1年	13	17	15	19
	2年	9	10	12	12
	3年	4	3	6	9

○指導事項等の教材数について

内容		学年	東書	三省堂	教出	光村	
1 総教材数 ※本編中における主たる手本の数		1年	12	11	11	9	
		2年	10	9	6	8	
		3年	5	3	3	6	
2 手本の種別数	毛筆	漢字の楷書及び調和した仮名	1年	5	4	5	5
			2年	1	2	0	2
			3年	0	1	0	2
	硬筆	漢字の行書及び調和した仮名	1年	4	4	4	4
			2年	8	6	6	6
			3年	5	2	3	4
3 教材の扱い種別数	硬筆と毛筆との関連を図った教材数	1年	4	5	6	3	
		2年	4	2	4	3	
		3年	0	1	1	0	
	目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書く教材数	1年	0	0	0	0	
		2年	2	2	1	1	
		3年	2	2	1	1	
	社会生活に役立つ学習のための教材数	1年	3	1	2	1	
		2年	2	2	3	3	
		3年	3	2	2	5	



## 社会科（地理的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できるように、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めるために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の配置、数、種類などに、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○事例の選択、資料の取り上げ方など、学習効果を高めるために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい社会 地理</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           2 東 書         </div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&amp;トライ」の流れで構造化し、学習内容を定着できるように工夫されている。</li> <li>○資料の読み取りなどの地理学習の基礎的な技能を系統的に習得する「スキル・アップ」と、身に付けた技能を活用するコーナーを設け、定着できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の章末部には「ベン図」「ウェビング」といった、多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を設け、思考を整理し、学びを深められるように工夫されている。</li> <li>○1単位時間の学習内容をまとめる「チェック&amp;トライ」を設け、全編を通して「地理的な見方・考え方」を意識して学習できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の諸地域の学習の導入や各州のまとめ、コラム「未来にアクセス」、「持続可能な地域の在り方」の学習等で「持続可能な開発目標」を取り上げ、現代的な諸課題を意識・理解しながら、学習を進められるように工夫されている。</li> <li>○「持続可能な地域の在り方」の学習では、学習していたことを振り返りながら、地域の課題や変容に注目したり、地域の将来像を提案したりする活動を充実させ、主体的に社会の形成に参画する資質や能力を養えるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入部で単元全体を貫く「探究課題」を立て、「まとめの活動」でその解決を補助する「探究のステップ」に取り組むことで、課題解決的な学習ができるように工夫されている。</li> <li>○小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」や「導入の活動」、「まとめの活動」などを設け、対話的な学習を実践することによってより深い学びにつながるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「もっと知りたい」「もっと解説」「未来に開設」を掲載し、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○導入・展開・まとめの学習段階に応じて、多彩なQRコードが設けられ、学習効果が高まるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての文字に、UDフォントを使用している。色覚特性がある生徒にも見やすい色が使用されている。難解な用語について、巻末に用語解説を設けている。</li> <li>○見開きページごとに学習課題が設けられている。導入部、展開部、終結部の形で構造化されたレイアウトとなっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「導入の活動」で単元全体を貫く「探究課題」を立て、1単位時間ごとに「学習課題」を解決し、思考ツールを使った「まとめの活動」で「探究課題」を解決するという学習の流れで構成されている。</li> <li>○他分野と関連している資料や特設ページには、「分野関連マーク」が設定され、歴史・公民や他教科との関連を図った学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 地理 地域にまなぶ</h1>	<div style="text-align: center;">17 教 出</div>
内 容	<p><b>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで1単位時間を原則とすることで学習の見通しが立てやすく、本文と資料とのバランスを考え、資料を読み解く手掛かりを示す工夫がされている。</li> <li>○生徒の興味・関心を広げる学習コラム「地理の窓」や地理的な技能が確実に定着するコーナー「地理の技」を設け、「地理的な見方・考え方」を働かせた学びができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○三分野間の関連箇所を示すことで、各分野それぞれの「見方・考え方」の違いに気付かせ、更に深い総合的な理解へ導く工夫がされている。</li> <li>○「身近な地域の学習」では、生徒自らが地域調査に臨めるような工夫だけでなく、地域の伝統文化を大事にしている事例や、地域で進んでいる多文化共生の事例を取り上げ、学習を深めていく工夫がされている。</li> </ul> <p><b>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界・日本地誌では、地域で進んでいる多文化共生の姿や地域の伝統文化を大事にしている事例を取り上げ、これからの社会の在り方に関連付けて考察することができるよう工夫されている。</li> <li>○「地域のあり方」の単元における地域の課題の見つめ直しや課題の解決方法の考察、「特設・クロスワード」で取り上げられる話題についての考察を通して、社会への関心を高め、自ら行動していこうとする態度を養えるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章の学習を見通す「導入ページ」、「本時ページ」、章・節の学習を振り返る「学習のまとめと表現」、視点を変えて学習内容を捉え直す「特設ページ」と単元が構造化されており、「問い」を軸にして課題解決的に追究していくよう工夫されている。</li> <li>○「確認／表現」コーナーでは、学習したことの整理や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返り、生徒が他者と意見交流したり、自ら学び、自ら考える学習に取り組んだりすることにより、学びが深まるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や地図、グラフ等が大きく提示され、地理への興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○世界地誌の学習では、SDGsの17の開発目標と関連する地球的課題を扱っており、持続可能な視点を意識しながら学習が進むように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はUDフォントによる黒文字を使用している。難解な用語や補足説明の必要な箇所について、側注・巻末に用語解説を設けている。</li> <li>○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文と資料の関連を番号で示すことで、本文と資料が結びつきやすくなるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入部で「学習の見通し」や「見方・考え方」を提示し、学習の見通しが立てやすく、各章末での「学習のまとめと表現」では、基礎・基本の定着や意見をまとめて表現し話し合う活動を行い、段階的に学習が進められるように工夫されている。</li> <li>○三分野の学びを関連付けるために「関連マーク」が設定されており、三分野の学びを関連させ、系統的な学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>社会科 中学生の地理</h1>	4 6 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           帝 国         </div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの1単位時間を、導入、学習課題、本文、「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化され、基礎的・基本的な知識及び技能が理解できるよう工夫されている。</li> <li>○資料の読み取りやグラフの作成等の力を伸ばすために「技能をみがく」のコーナーが設けられ、「地理的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や図版、本文が密接に関連しているため、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「地理的な見方・考え方」を自然と働かせられるよう工夫されている。</li> <li>○各章・節末の「学習を振り返ろう」では、章・節の学習で得た知識を生かして、「地理的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考ツールを用いて、自分の考えを整理・構造化できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コラム「未来に向けて」が掲載され、持続可能な社会を実現するための人々の取組を示すことで、SDGsへの関心を高め、社会に対し生徒自身がどのように参画していくかを発展的に考えることができるよう工夫されている。</li> <li>○「地域のあり方」の単元では、地域の課題の分析とその解決に向けた構想に取り組むことで課題を「自分ごと」として捉え、主体的に社会参画する態度を養えるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元を貫く「章・節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「学習を振り返ろう」というように問いが構造化されており、課題解決的な学習ができる構成になるよう工夫されている。</li> <li>○「アクティブ地理」において、地域に見られる課題を考察し、解決への取組を考えるパフォーマンス課題が設定されており、学習した知識・技能を多面的・多角的に活用することができるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現地の人の「声」では様々な立場の人の考えが紹介されており、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。</li> <li>○学習内容の習得や調べ学習を支援するコンテンツが設けられており、生徒の個別最適な学びを支援できるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はUDフォントを使用している。用語解説や関連資料について、本文のページの側注に設けている。</li> <li>○学習内容の変化や関連性を考察しやすいよう、写真や地図、雨温図などの位置が固定化されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○章・節・各本文ページそれぞれの冒頭に「単元を貫く問い」が設けられており、学習の見通し・振り返り活動の基本的な流れが示され、見通しをもった学習活動につながるよう工夫されている。</li> <li>○「関連マーク」で三分野や他教科と関わりや、「地図帳活用マーク」で地図帳も活用した学習を行い、より深い学びが得られるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学社会 地理的分野</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで1単位時間とし、学習課題が明示されている。基礎的な知識及び技能の定着をねらいとした「確認」コーナーや「表現」コーナーが設けられ、文章化・言語化できるように工夫されている。</li> <li>○スキルUPでは、地理的分野の学習に必要な地理的技能を6種類に整理し、生徒の発達段階に応じて地理的技能を系統立てて習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○トライ・スキルUP・資料活用のコーナーで、思考力、判断力、表現力等の向上を図る場面を設定し、随所で生徒が自分の言葉で表現できるように構成されている。</li> <li>○まとめと振り返りでは、習得した知識を活用し、生徒が単元を貫く問いについて自分の考えをまとめ、「議論してみよう」で地理的な諸課題について考察したことを論理的に説明したりするなど、言語活動に関わる学習ができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の諸地域や日本の諸地域の章（節）の最後にある「議論してみよう」や「持続可能な地域を目指して」のコラムの設置など、教科書全体を通して持続可能な社会について考えることができるよう工夫されている。</li> <li>○教科書全体を通して、現代的な諸課題や伝統・文化、多様性などについて世界や日本で「今」起きている出来事を掲載しており、多様な地理的事象に対する理解を深めることができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入ページで単元全体を貫く探究課題を立て、「まとめと振り返り」のページでは、その解決を補助する思考ツールの活用や段階を踏まえた思考の整理に取り組むことで、課題解決的な学習ができるように工夫されている。</li> <li>○「資料活用コーナー」や「議論してみよう」など、読み取ったことを発表し合う場面や、生徒の多様な回答が可能な問いや活動に「学び合いマーク」がつけられており、主体的・対話的な活動ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や地図、グラフ等を大きく掲載することで、地図への興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○ICT機器を活用して利用できる「教科書QRコンテンツ」が設けられ、学習効果が高まるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はUDフォントを使用している。巻末に用語解説を設け、地理的用語を5種類に区分して解説している。</li> <li>○見開きページごとに学習課題を設けている。導入資料、学習課題、本文図版、確認等が統一されたレイアウトで配置されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「導入の活動」で単元を貫く「問い」を立て、1単位時間ごとに「学習課題」を解決し、単元の終わりには「まとめと振り返り」が設けられ、基礎・基本の定着と学習内容を深められるよう構成が工夫されている。</li> <li>○章の導入ページや「連携コーナー」で小学校での既習事項や他分野の内容を掲載することで相互に連携・関連させて学習できるように工夫されている。</li> </ul>	

社会科（地理的分野） 調査資料 2  
 ○内容別ページ数等

内容	東書	教出	帝国	日文
A 世界と日本の地域構成	26	20	24	24
(1) 地域構成	26	20	24	24
B 世界の様々な地域	110	106	102	104
(1) 世界各地の人々の生活と環境	24	18	19	18
(2) 世界の諸地域	86	88	83	86
C 日本の様々な地域	136	157	160	163
(1) 地域調査の手法	12	14	12	14
(2) 日本の地域的特色と地域区分	27	26	26	24
(3) 日本の諸地域	86	107	117	114
(4) 地域の在り方	11	10	11	11
索引	8	10	4	8
資料ページ	7	8	11	11
総ページ数※目録に記載されたページ数	293	305	310	318
QRコードの数	132	28	69	152

※総ページ数には、中表紙や巻末資料も含まれているため合計と一致しない。

○地域の取り上げ方

B (2) 「世界の諸地域」で取り上げている主題

	東書	教出	帝国	日文
① アジア	経済発展	急速な経済発展	急速な経済成長	人口や経済発展
② ヨーロッパ	国家間の統合	国々の結びつき	国どうしの結びつき	国境をこえた統合
③ アフリカ	国際的な支援	国際協力や国際支援	特定の産物に頼る経済	自立のための開発と国際協力
④ 北アメリカ	移民と経済	先進的で多様な産業	巨大な産業	世界に影響を与える産業
⑤ 南アメリカ	開発と環境保全	自然破壊と都市の人口増加	農地や鉱山の開発	開発と環境保全
⑥ オセアニア	他地域との結びつき	他地域との関係の強化	他地域との関係	多文化社会

C (1) 「地域調査の手法」で取り上げている地域、主題、調査・まとめ

	東書	教出	帝国	日文
地域	神戸市	名古屋市	東京都練馬区大泉地域	京都市伏見区
主題	防災	防災	人口と農業	産業
調査・まとめ	地形図、空中写真、統計資料、インターネット、文献調査、野外観察、聞き取り調査、ルートマップ、スケッチ、写真、表、図、班による発表	地形図の読み取り・比較、現地の観察、聞き取り調査、統計資料、文献資料、博物館や資料館、主題図やグラフ、イラストマップ、班による発表	野外観察、聞き取り調査、地形図や地図、統計資料、景観写真、インターネット、グラフ、主題図、班による発表	地形図、デジタル地図、野外観察、聞き取り調査、文献資料、統計資料、インターネット、地図、グラフ、レポート、壁新聞、プレゼンテーションソフト、班による発表

C (3) 「日本の諸地域」の考察の仕方とページ数 ※ ( ) はページ数

	東書	教出	帝国	日文
九州地方	自然環境 (12)	自然環境とその保全 (14)	自然環境 (16)	自然環境 (16)
中国・四国地方	交通や通信 (12)	人口集中や人口減少 (14)	交通や通信 (16)	交通・通信 (16)
近畿地方	人口や都市・村落 (12)	歴史的な視点 (14)	環境保全 (18)	歴史的背景 (16)
中部地方	産業 (12)	産業 (14)	産業 (16)	産業 (16)
関東地方	交通や通信 (12)	交通・通信 (14)	人口や都市・村落 (16)	人口や都市・村落 (16)
東北地方	生活・文化 (12)	地域の伝統文化と産業の変化 (14)	生活・文化 (16)	持続可能な社会づくり (16)
北海道地方	自然環境 (12)	自然環境と関連する産業 (14)	自然環境 (16)	自然環境 (16)

C (4) 「地域の在り方」における地域的な課題の扱い方

	内容
東書	広島市を例に、地域の課題を捉え、将来像を考え、発信する。
教出	水俣市を例に、地域の課題を調査し、その解決方法について考え、伝える。
帝国	神戸市を例に、地域の疑問を調査し、地域の課題や解決策を考え、提案する。
日文	宮崎市を例に、地域の課題を捉え、自分たちにできることを考え、伝える。

○埼玉県地理的事象 ※県名のみの場合を除く

	内容
東書	過密地域（川口市）と過疎地域（東秩父村）の人口ピラミッド、内陸型の工業地域の写真（久喜市）、高速道路沿いに広がる畑作地域の写真（三芳町）、多くの観光客でにぎわう花畑の写真（秩父市）、近郊農業のコラム（熊谷市）
教出	さいたま新都心の写真（さいたま市）、ブルーベリー狩りを楽しむ観光客の写真（美里町）、首都圏外郭放水路の写真（春日部市）
帝国	川越の町並みのイラスト（川越市）、日本最大級のショッピングセンターの写真（越谷市）、最高気温を示す看板の写真（熊谷市）、首都圏外郭放水路の写真と地図（春日部市）
日文	なし

○北方領土・竹島等の領土に関する記述

	北方	竹島	尖閣	東西南北端	内容
東書	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道東方の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方領土とよばれ、根室市などに属する日本固有の領土です。しかし、現在はロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔竹島〕竹島は、島根県隠岐の島町に属し、隠岐諸島の北西、約 150 km に位置する日本固有の領土です。しかし、韓国が不法に占拠しているため、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土で、中心である魚釣島は、石垣島の北、約 170 km に位置します。日本が有効に支配をしているため、領土問題はありますが、中国や台湾が領有権を主張しています。</p> <p>コラム「変化し続ける国土面積（西之島）」コラム「水産資源にめぐまれた竹島」コラム「貴重な自然が残る北方領土」コラム「資源が期待される尖閣諸島」</p>
教出	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を北方領土と呼びます。北方領土は 1945年の第二次世界大戦の終結後にソ連に占領されました。終戦時には北方領土には約17000人の日本人が生活していましたが、強制退去させられました。北方領土はソ連の解体後も現在に至るまで、ロシア連邦によって不法に占拠されています。日本政府は、ロシア連邦政府に対し、日本固有の領土である北方領土の返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。一方で、1992年に始まった北方領土へのビザなし交流など民間での友好的な結びつきは続いています。1922年から続く北方領土へのビザなし交流は2022年9月以降、ロシアにより停止されています。</p> <p>〔竹島〕竹島周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁業を行ってきました。1905年に政府は、竹島を閣議決定に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、1985年に沖縄に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後には、アメリカ合衆国の施政の下に置かれたことが、1971年に沖縄返還協定が結ばれ、翌年日本に復帰しました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐり、中国が領有を主張し始め、2012年、日本は島々の大半を国有化しました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じています。</p> <p>写真「面積が拡大した西之島」コラム「日本の最南端をめぐる問題」写真「ビザなし交流で根室港に到着したロシア側からの訪問団」年表「北方領土に関する主なできごと」</p>
帝国	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道北東部にある歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島は、北方領土とよばれ、北海道根室市などに属する日本固有の領土です。1855年に、日本とロシアの国境を択捉島とウルップ島の間で確認してから、北方領土をほかの国の領土とする条約が結ばれたことはありません。北方領土の近海は水産資源が豊かで、かつて多くの日本人がこれらの島に住んでいました。しかし、北方領土は1945年に、日本との条約を無視して一方的に侵攻してきたソビエト連邦に占領され、日本人は立ちのくかされました。ソビエト連邦は、サンフランシスコ平和条約に署名せず、現在までロシアが不正に占拠した状態となっています。日本は、北方領土の返還に向けてロシアと平和条約を結ぶため、交渉を続けています。</p> <p>〔竹島〕日本海にある竹島は、島根県隠岐の島町に属する日本固有の領土です。17世紀には現在の鳥取県の人々が漁を行っており、1905年に明治政府が島根県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。しかし、サンフランシスコ平和条約で竹島に対する主張を退けられた韓国は、1952年に海洋への権利を唱えて一方的に公海の上に境界を設け、竹島に海洋警察隊や灯台を置いて、不法に占拠しています。日本は国際法に基づいて抗議し、国際司法裁判所での話し合いをたびたび呼びかけていますが、韓国が応じていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕東シナ海にある尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土です。明治政府が、ほかの国の支配が及んでいないことを慎重に確認したうえで、1895年に沖縄県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。その後、一時は島で 200人以上が暮らし、かつおぶし工場もつくられました。サンフランシスコ平和条約でも、南西諸島の一部として日本の領土とされました。尖閣諸島をほかの国の領土とする条約が結ばれたことはなく、日本政府による管理も及んでいないため、ほかの国との間で解決すべき領有をめぐる問題はあります。尖閣諸島では、1960年代には、原油などの資源が周辺の海底にある可能性が注目され、1970年代に入ると、中国などが領有権を主張するようになりました。日本は尖閣諸島を平穩に維持、管理するために、2012年にその大半を国有地化しました。</p> <p>コラム「護岸工事によって守られた沖ノ島」写真「活発な噴火を続ける西之島」写真「日本国民と北方領土に住むロシア人との交流」コラム「漁業が盛んだった昔の竹島」</p>



	北方	竹島	尖閣	東西南北端	内容
日文	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北方領土は、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島からなる日本固有の領土です。面積は合計約5000km<sup>2</sup>もあり、福岡県や千葉県とほぼ同じ広さです。日本は18世紀ごろから本格的な開発を始め、1855年の日露通好条約で、日本の領土であることが確認されました。周辺の海域は、こんぶやかになどの水産資源が豊富で、かつては多くの日本人が漁業をしながら生活していました。しかし、1945年の第二次世界大戦後にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが不法に占拠しています。ソ連に占領されるときに、当時住んでいた日本人はふるさとを追われ、現在、北方領土に日本人は住んでいません。日本は、北方領土の返還をロシアに強く要求していますが、いまだに実現していません。</p> <p>〔竹島〕竹島は、本州から約200km 離れた日本海にある日本固有の領土です。竹島周辺は豊かな漁場で、17世紀初めには日本人が漁業などに利用していました。1905年には国際法に従って島根県に編入されました。ところが1952年から、韓国が、一方的に自国の領土であると主張して竹島を取り込み、警備隊員を常駐させたり、施設を作ったりして、不法に占拠しています。日本は、韓国に対して何度も厳重に抗議しています。</p> <p>〔尖閣諸島を取り巻く情勢〕尖閣諸島は、石垣島から約170kmはなれた東シナ海にあります。1895年に日本が自国の領土であることを宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本の領土とされ、このことに周辺の国々からの反対はありませんでした。その後も、日本固有の領土として管理されてきており、尖閣諸島には領土問題は存在していません。ところが、東シナ海に石油が埋蔵されている可能性が指摘され、1970年代になって、中国が尖閣諸島の領有権を主張するようになりました。最近では中国の船が日本の領海にたびたび侵入してくるため、日本は、中国に厳重に抗議し、領土の保全に取り組んでいます。</p> <p>コラム「沖ノ島島を守るために」地図「北方領土付近の国境の変化」写真「竹島に関する資料を展示する「竹島資料室」」写真「尖閣諸島の日本の領海に侵入する中国の船」写真「北方領土・竹島・尖閣諸島などに関する資料を展示する国立の施設「領土・主権展示館」」</p>

## 社会科（歴史的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発行者名</span>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解できるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などについて、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <p>○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料の配置、資料と本文との関係には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>（全体的な特徴、その他）</p>	

書名 項目	<h1>新しい社会 歴史</h1>	2 東 書
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○見開きを1単位時間とし、ページに導入資料、学習課題が記されている。また、語句の意味を確認するための索引ページが記載されている。            ○学習した知識を活用する「チェック&amp;トライ」が設けられている。また、身に付けた技能を活用するため、「確かめよう」のコーナーが設けられている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○章末「まとめよう」では、ステップチャートやフィッシュボーン図等の思考ツールを活用した学習活動が用いられている。            ○章末の「ふり返ろう」では、探究課題を確認しながら、歴史的な見方・考え方を働かせて思考・判断できるように工夫されている。            ○1単位のまとめ「チェック&amp;トライ」では、学習内容の説明や要約ができるように設問の工夫がされており、自分の言葉で表現できる工夫がされている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○1単位時間の学習の流れを分かりやすく視覚的にデザインし、全ての生徒が見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。            ○生徒が主体的に学習に取り組めるように人物コラムを豊富に掲載し、人物を中心とした小学校からの歴史学習との接続が図られている。         </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>            ○各時代の導入に小学校の振り返りとグループでの協働的な活動が設けられ、単元全体を貫く「探究課題」を立てて、学習に見通しをもたせるように工夫されている。            ○章末「まとめの活動」では、「探究のステップ」が設けられ、見開きごとの活動が段階的に「探究課題」の解決へとつなげられるように構成されている。            ○「みんなでチャレンジ」では、個人とグループ活動の相互作用で学びを深め、積極的に社会参画したり、他者と協働したりしながら、よりよい社会を築こうとする意識や態度を養えるように工夫されている。         </p>	
資 料	<p>           ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や探究の中心となる資料が写真等で大きく掲載されている。            ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵のほか、資料の大きさが記されている。            ○DマークやQRコードを掲載し、インターネットを使った学習ができるように工夫されている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○本文等には、UDフォントが使用されている。            ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。            ○見開きの右端に時期を示すスケールが入れられている。また、地理や公民の学習と関連が深い内容には、関連マークが付けられている。            ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。         </p>	
総 括	<p>           ○教科書の紙面は、A B判が採用されている。            ○各章ごとに「①課題をつかむ」、「②課題を追究する」、「③課題を解決する」というステップが構成されていて、それを基に学習を進められるよう工夫されている。また、「主体的・対話的な学びから深い学びにつなげる活動・コーナー」等で学習を深めることができるように配慮されている。         </p>	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学社会 歴史 未来をひらく</h2>	<div style="text-align: center;">17 教出</div>
内 容	<p> <b>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</b>            ○見開きを1単位時間とし、ページに導入資料、学習課題が記されている。また、語句の意味を確認するための索引ページが記載されている。            ○1単位時間の中に「確認！」が設けてあり、学習に必要な知識を身に付けやすくなる工夫がされている。         </p> <p> <b>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</b>            ○導入資料等に「THINK！」が設けてあり、主体的に考え、表現するための工夫がされている。            ○見開きのまとめ「表現！」では学習内容を自分の言葉で説明し、対話することで、思考を深め、表現できるよう工夫されている。            ○章末の「HOP・STEP・JUMP」では学習した内容を判断して活用する能力を高め、歴史的な見方・考え方を深める工夫がされている。         </p> <p> <b>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</b>            ○「歴史学習の終わりに」のページでは社会的な課題の解決に向けてSDGsの目標を参考にテーマを設定する等の工夫がされている。            ○ページの下段には、そのページの学習内容と関わりのある他分野の学習内容を示して、生徒が自発的に学習に取り組みやすいように工夫されている。         </p> <p> <b>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</b>            ○各章の導入「学習のはじめに」では、その時代を象徴するような資料とそれに関わる問いが示され、見通しをもって学習が進められるように工夫されている。            ○本文とは視点を変えて捉え直す「特設ページ」が設けられ、現代社会の諸課題と照らし合わせ、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。            ○巻末「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、これからの社会を築いていくため、自分たちには何ができるかを考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。         </p>	
資 料	<p>           ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や探究の中心となる資料が写真等で大きく掲載されている。            ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。小学校での既習事項を生かせる工夫がされている。            ○教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることができる「まなびリンク」が設けられている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○本文等には、UDフォントが使用されている。            ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。            ○見開きに「時代スケール」として学習する時代の範囲を色で表し、小学校で学習した人物・中学校で学習する人物が識別できるように工夫されている。            ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。         </p>	
総 括	<p>           ○教科書の紙面は、AB判が採用されている。            ○教科書全体を通して、見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすい内容となっており、より深い理解ができるように工夫されている。また高等学校での近現代史中心の「歴史総合」に向けて、通史学習の充実が図られていて、小学校・中学校・高等学校の学びのつながりが意識できるように配慮されている。         </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">社会科 中学生の歴史</h1>	4 6 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">帝 国</span>
内 容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題が記されている。また、知識の定着を図るために「確認しよう」が見開きのまとめに設けられている。                      ○「地域史」というコラムを通じて、多面的・多角的に歴史を学ぶ工夫がされている。また、「解説」が設けられていて、知識の定着のための工夫がされている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○章のはじめに設けられた「タイムトラベル」では、資料から判断して、論理的に説明できるよう工夫されている。                      ○見開きのまとめにある「説明しよう」では、1単位の学習をまとめ、習得した知識を活用し、自分の言葉で表現できるように工夫されている。                      ○章のまとめにある「学習を振り返ろう」では、歴史的な見方・考え方を働かせ、表現・説明することで学びを深められる工夫がされている。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○単元のはじめに、各時代の政治・経済・文化の内容について、イラストで視覚的に示すことによって生徒が見通しをもてるように工夫されている。                      ○地図とイラストによる世界地図「世界とのつながりを考えよう 地図編」では、日本の歴史的な事象や人物が世界の中に位置付けて見られるように提示されている。                 </p> <p>                     &lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;                      ○「章の問い」、「節の問い」、「見開きの問い」（学習課題）と単元のまとまりを見通し・振り返ることで課題解決的な学習、深い学びにつなげられるように工夫されている。                      ○「学習を振り返ろう」では、見開きから節、節から章へと段階的に振り返りを行い、学習を積み重ねて課題追究ができるように構成されている。                      ○巻末「これからの社会を構想しよう」への準備として、各章で「現在・SDGs」とのつながりを考え、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。                      ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しを付け、学習の手掛かりが示されている。                      ○QRコードを読み込むことで、「タイムトラベル」コンテンツにアクセスしたり、学習の理解を助ける動画等を閲覧できたりするように工夫されている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○本文等には、UDフォントが使用されている。                      ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と学習内容を確認・説明するための課題が二つ示されている。                      ○見開きの右端に「時代インデックス」が掲載され、巻頭の日本の歴史年表・巻末の世界史年表と照らし合わせて確認するように工夫されている。                      ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○教科書の紙面は、A B判が採用されている。                      ○全体を通して、「小学校・地理・公民・他教科の関連」を「小・地・公の関連アイコン」で示すことで既習事項やつながりを確認することができる。また、その時代の舞台の解説や現在との共通点や違いを確認できるので、多面的・多角的な視点をもって学習に入ることができるように配慮されている。                 </p>	

書名 項目	<h1>中学歴史 日本と世界</h1>	8 1 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">山 川</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きを1単位時間とし、導入資料、本文、補足資料が記されている。また、世界史と日本史の関連が多く、歴史の流れをつかめるように記載されている。</li> <li>○見開きのまとめ「ステップアップ」では、1単位時間で行った内容を整理し、歴史的知識の定着が図れる構成となっている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域からのアプローチ」では、資料やグラフから自分の考えを表現させ、歴史的事象を多面的・多角的に考察できるように工夫されている。</li> <li>○「歴史へのアプローチ」では、1単位時間で行う内容の中で、テーマを絞ることで、歴史的な見方・考え方を深められるよう工夫がされている。</li> <li>○章末「まとめ」では時代全体を俯瞰して考えるための問いかけがあり、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きのページ内に様々なパターンの発問を提示し、図やグラフ等資料を活用して考察させ、生徒の主体的な学びを促す工夫がされている。</li> <li>○高等学校の歴史学習とのつながりを意識して、歴史的事象の要因と結果を詳細に記述し、コラムと合わせてより深い理解を出来るように工夫している。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しをもてるように、各章の冒頭に視覚的に歴史の流れをつかめるような資料を用いたり、見開きの冒頭に学習課題が明示されたりしている。</li> <li>○「身近な地域を調べよう」では、実際の中学生を想定し、調査の順序や注意事項を示して、生徒が主体的に課題を追究することができるように工夫されている。</li> <li>○「歴史を考えよう」や「地域からのアプローチ」では、史料の細部をクローズアップしたり、発掘調査の結果を踏まえたりすることで、様々な角度から課題を追究できるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。</li> <li>○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。</li> <li>○QRコードを付し、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見る等、課題を追究した学習ができるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地図・グラフ等は、UDに配慮されている。</li> <li>○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と課題追究のための「ステップアップ」の発問が示されている。</li> <li>○各章のはじめに、章で学ぶ時代の日本と世界の出来事の帯年表が掲載されている。また、章に関係する写真が上下に分けて時代順に示されている。</li> <li>○本文は常体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面は、A B判が採用されている。</li> <li>○歴史を学ぶ力を養うために、豊富で多様な発問で考える力を養えるように工夫されている。また因果関係を重視した詳しい記述や世界の歴史に関する充実した内容となっている。さらに高等学校の歴史学習につながる教科書として中学生の段階として必要なことが身に付くように配慮されている。</li> </ul>	

書名  項目	<h1>中学社会 歴史的分野</h1>	1 1 6 日 文
内 容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「確認」、「表現」で構成され、「確認」「表現」では、考えを説明させる問いが示されている。                      ○小学校で履修した人物や出来事が欄外に記載され、新たな知識と紐づけるように工夫がされている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○1単位時間のまとめとして「表現」を行うことで、自分の考えを説明することで学習内容を理解できるよう工夫されている。                      ○「チャレンジ歴史」では、習得した知識を生かし、対話することにより、歴史的表現力を高める工夫がされている。                      ○各章の振り返りでは、STEP 1から3と分けられていて、思考ツールを活用することで思考、判断、表現ができるよう工夫されている。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○現代的な諸課題の歴史的な背景や先人の取組に学ぶことができるようにテーマ別コラムや歴史的な事象を掘り下げる特設ページが設けられている。                      ○歴史について「考える活動」を充実させるため、資料を読み取り、資料を選択させて生徒の興味に応じた活動ができるような取組が提示されている。                 </p> <p>                     &lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;                      ○各時代の導入では、年表や世界地図を使った時間軸と空間軸から時代を概観し、「単元を貫く問い」を明示して学習の見通しをもてるように工夫されている。                      ○歴史の学習の最後「『歴史との対話』を未来に活かす」では、課題の解決に向けて歴史を踏まえて未来を考える学習活動が設けられている。                      ○「『歴史との対話』を未来に活かす」や「先人に学ぶ」では、現代の課題の背景や人権、環境、平和、防災、減災への先人たちの取組を学び、解決の手立てについて生徒が歴史を踏まえて考えることができるように工夫されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○見開きの上部に学習の導入となる写真資料や関心を高めるための地図が大きく掲載されている。                      ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料の内容を読み取ったり、読み取ったことを基に表現したりする活動が示されている。                      ○教科書内容の理解を助ける動画やワークシート等の教科書QRコンテンツをウェブサイトで公開し、教科書には「デジタルワーク」が表示されている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○本文等には、UDフォントが使用されている。                      ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と手がかり、学習内容を理解するための問いが示されている。                      ○見開きの右端に学習している「時代」を色で示した年表が掲載されている。見開きの下部には小学校で学習した人物や地理・公民との連携が示されている。                      ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○教科書の紙面は、A B判が採用されている。                      ○教科書全体を通して、「歴史を楽しく、深く学び、未来を考えるコラム・特設ページ」が設定されており、「人物コラム」「各時代の女性」「地域に学ぶ」「歴史+α」等、時代に沿って学ぶだけではなく、未来のためのヒントや様々な視点で歴史を捉えることができるように配慮されている。                 </p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;"><b>新しい歴史教科書</b></p>	<p style="text-align: center;">225 自由社</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きを1単位時間とし、ページに導入資料、学習課題が記されている。また、語句の意味を確認するための索引ページが記載されている。</li> <li>○学習した知識を活用する「チャレンジ」では、本時で学んだ内容を整理できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「調べ学習のページ」では、各単元で学習した内容を、資料を基に更に深めることができ、思考・判断・表現ができるように工夫されている。</li> <li>○「時代の特徴を考えるページ」では、『「ミニ辞典」の作成』や『「ひとこと」作文』等を活用することで、深く思考・判断できるよう工夫されている。</li> <li>○「対話とまとめ図のページ」では、相互の関連や現在のつながり等に着目し、歴史的事象に対する思考力・判断力・表現力を深める工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生のキャラクターが発問や気付き等学習の手がかりや示唆を提示することで、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○人物コラムを多数掲載している。また「人物を通して時代をとらえる」では生徒が人物の伝記を作ることで人物を通して歴史を捉えさせる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各時代の導入では、小学校の振り返りから時代を概観し、その時代を象徴するような資料を明示して学習の見通しをもてるように工夫されている。</li> <li>○章末では、時代や人物を比較し、「ひとこと作文」により、時代ごとの特徴を大づかみにすることで、学習を積み重ねて課題追究ができるように構成されている。</li> <li>○日本の歴史の特色は何かを捉えるために「調べ学習」や「対話とまとめ図」が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。</li> <li>○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料ごとに吹き出しを付け、資料を読み取る視点が示されている。</li> <li>○本文を補足し、発展させるための様々なカテゴリーの教材が配置されており、また、資料に通し番号を付け、見やすい工夫がされている。</li> </ul>	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文等には、UDフォントが使用されている。</li> <li>○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。</li> <li>○見開きで学習している時期を示すスケールが入れられている。また、地理や公民の学習と関連が深い内容には、関連マークが付けられている。</li> <li>○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面は、A B判が採用されている。</li> <li>○全体を通して、「もっと知りたいコラム」が掲載されており、その時代の人物や時代背景をさらに掘り下げることで理解を深めることができるように工夫されている。また、高等学校の歴史学習につながる教科書として中学生の学習として必要なことが多面的・多角的に身に付くように配慮されている。</li> </ul>	



書名  項目	<h1 style="margin: 0;">新しい日本の歴史</h1>	227 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">育鵬社</span>
内 容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成されている。資料活用のコラムもあり、知識を深める工夫がされている。                      ○「確認」・「探究」では、学習した内容を整理し、習得した知識を表現しやすくなる工夫がされている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○「見方・考え方」のコラムでは、グラフを読み取る力や論述する力を高めるため、発問の工夫がされている。                      ○「資料活用」では、資料の特徴をまとめる判断力や知識をまとめ表現する力を養う工夫がされている。                      ○章末「学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分の言葉や図で表現する学習活動が設けられている。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○各章の冒頭に時代の流れを大きくつかむための「歴史絵巻」を掲載し、学習する章のイメージを視覚的につかめるように工夫されている。                      ○「私の歴史博物館をデザインしてみよう」では、生徒自身が博物館の学芸員になったつもりで展示方法を考え、時代の特色がつかめるように工夫されている。                 </p> <p>                     &lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;                      ○見通しをもちながら学習を進めることができるように、見開きごとに資料を使い問題解決できるような学習課題が明示されている。                      ○各章冒頭の「○○の世界へようこそ！」では、課題と主体的に向き合うための設問が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。                      ○巻末「歴史学習のまとめ」では、学習した内容を活用して、日本の歴史を大観し、表現する学習活動が設けられている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○見開きの上部に学習の導入となる写真資料や関心を高めるための地図が大きく掲載されている。                      ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。導入資料には発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。                      ○「日本の美の形」「歴史絵巻」等のページは、生徒が視覚的に興味をもって取り組めるように工夫されている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○図版は、色覚特性を踏まえた判別しやすい色が使用されている。                      ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習のまとめの二つの課題が示されている。                      ○各章の章扉に「歴史絵巻」「歴史モノサシ」が掲載され、歴史の大きな流れと現在の学習範囲が確認できるように工夫されている。                      ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○教科書の紙面は、A B判が採用されている。                      ○教科書全体を通して、問題解決型の学習を実現する構成となっている。1時間の授業や単元の流れで、「課題をつかむ」「課題について調べる」「課題についてまとめる・表現する」という流れが示されており、主体的・対話的な学びを通して学習の定着が図れるように配慮されている。                 </p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>ともに学ぶ人間の歴史</h1>	<p>229</p> <p>学び舎</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成されている。欄外には資料の補足があり、理解を深める工夫がされている。</li> <li>○「章の扉ページ」では、知識・技能の定着を図るために、ポイントが絞られ、歴史的事象と地理を結び付ける工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「歴史を体験する」では、体験的な活動を行うことで、思考力・表現力を高めるための問いが設けられている。</li> <li>○「章をふりかえる」では、学習した歴史的な知識を表現できるように、設問が用意され、知識を活用できるよう工夫がされている。</li> <li>○「部の学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせ、各時代の特色を考察し、深い思考や表現につながる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の冒頭では世界地図中に学習する時代の各地の様子や遺跡の写真、資料を掲示して、時代の概観を見渡して学習できるように工夫されている。</li> <li>○指導的な人物の紹介だけでなく、様々な分野・階層の人々の生活、社会的な業績を叙述し、市井の人々の労働や生き方を学べるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各時代の導入として、扉ページで各時代の「学習課題」が示されており、世界地図、写真等の資料から、時代の特色を考えていく構成になっている。</li> <li>○現代史を充実させ、歴史を今日の課題と結びつけ、よりよい社会の実現に向けて考え、公民学習につなげられるように工夫されている。</li> <li>○現代史の学習では、21世紀までテーマを設定し、歴史的な事象を今日の社会と結びつけ、よりよい日本の社会と世界の実現を視野に、様々な社会の課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。</li> <li>○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典や所蔵が掲載されている。</li> <li>○側注・グラフ・資料等から、歴史的な事象や課題について多面的・多角的に考えられるように工夫されている。</li> </ul>	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地図・グラフは、色覚特性に配慮されている。</li> <li>○見開きの見出し・資料名は、フォントを変えて表記されている。見開きに生徒の関心を引き出すタイトルと見通しをもつための学習課題が示されている。</li> <li>○巻末の年表では、日本の社会・政治・経済の動きと日本の文化・宗教が世界の出来事と関連付けて掲載されている。</li> <li>○本文は敬体で記され、学年に応じた文章表現や漢字が使用されている。資料には、見開きで通し番号が付けられている。</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面は、A判が採用されている。</li> <li>○全体を通して、疑問や問いが生まれやすいように図版や記述が工夫されている。また、主体的な学習を妨げないよう、本文の中の太字をなくす配慮がされている。歴史の中の女性に光を当てる、世界や東アジアから歴史を見る等多様な視点で歴史を学ぶことができるように配慮されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">国史教科書</h1>	236 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           令書         </div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○1 単位時間がそれぞれの単元により、2～6 ページとし、学習課題、本文、文献史料で構成されている。欄外には資料の補足があり、理解を深める工夫がされている。            ○巻末に資料がまとめられていることで、時代による地域の変化や芸術作品の違い等が把握しやすくなるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○「考えよう」では、問いを設定し、ヒントも記載することで生徒間の対話を通じ、思考力・判断力・表現力を育む工夫がされている。            ○章のまとめでは、文章を作成する問いを設定することで時代区分の特色を表現できるように工夫されている。            ○思考チャートを活用し歴史的事象を多面的・多角的に捉え、思考を深められるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○大まかに時代の概観をつかめるような章立てになっている。生徒がイメージをもちやすいようなイラストや記述が多く、歴史を体感的に学べるように工夫されている。            ○日本の歴史や地域史に重点が置かれ、参考文献や地域の特産品の紹介等、生徒が地域や日本の文化伝統に興味を湧くような工夫がされている。         </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>            ○各時代の導入では、学習の見通しをもてるように年表から時代を概観し、「政治・外交・文化・産業」の問いを示し、時代の特色を考えていく構成になっている。            ○「field work」では、生徒が主体的に課題を追究し、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。            ○巻末「ディスカッション」では、これからの社会を築いていくため、自分たちには何ができるかを考察・構想し、様々な角度や立場、多様性を踏まえた社会の成長を構想することを促すように工夫されている。         </p>	
資 料	<p>           ○1 単位時間ごとにコラムや文献資料が掲載されており、探究的な学習がしやすい工夫がされている。            ○毎時、学習課題が提示してあり、思考を促すための様々な形式の「ヒント」が明記されている。            ○天皇の継承図、世界王朝の年表、時代ごとの政治史や美術史等が一覧になっており、分野ごとに見やすい工夫がされている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題が提示されている。            ○章末の年表では、日本の社会・政治・経済の動きと日本の文化・宗教が世界の出来事と関連付けて掲載されている。            ○本文は敬体で記され、開きごとに重要語句の解説が付いている。            ○読書する楽しみを提示するため縦書きを採用し、小見出しにも「いろは順」が用いられている。         </p>	
総 括	<p>           ○教科書の紙面はA5版が採用されている。            ○歴史の連続性を実感できるように配慮されている。また、縦書きを採用しているので、教科書として歴史の真理を追い求める姿勢を育成する視点と、読書をするような感覚で歴史を楽しく学べる一冊の本という側面もあり、様々なアプローチで歴史を捉えることができるように配慮されている。         </p>	

社会科（歴史的分野） 調査資料2

○内容別ページ数等 ※教科書に記されているページ数の内訳を数えたもの

内容		東書	教出	帝国	山川	日文	自由社	育鵬社	学び舎	令書
A	(1) 私たちと歴史	10	24	6	3	4	7	12	6	9
	(2) 身近な地域の歴史	16	7	6	13	6	4	10	2	3
B	(1) 古代までの日本	40	39	46	44	46	50	40	44	102
	(2) 中世の日本	32	35	42	38	40	36	32	32	64
	(3) 近世の日本	44	47	54	50	50	44	50	50	86
C	(1) 近代の日本と世界	93	105	113	99	103	105	85	109	142
	(2) 現代の日本と世界	29	34	31	29	33	32	35	35	49
その他（資料ページ・索引）		23	7	16	12	25	25	28	21	7
総ページ数		287	298	314	288	307	303	292	299	462
QRコードの数		135	18	58	29	146	0	7	0	1

※総ページ数は目録に記載されたページ数

○基礎・基本の定着

(1)取り上げている主な歴史上の人物数

	東書	教出	帝国	山川	日文	自由社	育鵬社	学び舎	令書
古代まで	32	39	35	55	40	40	49	35	115
中世	67	85	79	110	65	65	56	34	85
近世	108	91	53	94	62	62	38	39	123
近代	101	94	85	93	70	70	71	40	115
現代	24	61	56	51	34	34	17	92	41
合計	332	370	308	403	271	271	231	240	479

(2)我が国の歴史的背景として取り上げている世界の歴史のページ数

	東書	教出	帝国	山川	日文	自由社	育鵬社	学び舎	令書
古代まで	10	12	10	12	12	10	8	16	15
中世	4	4	0	2	0	4	4	4	8
近世	4	8	6	10	4	8	8	12	5
近代	32	26	28	32	24	22	24	36	18
現代	4	6	8	6	10	2	4	8	11
合計	54	56	52	62	50	46	48	76	57

(世界の歴史を中心に構成されたページを数えたもの)

## ○言語活動の充実

### (1)各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現する学習

東書	○各章：○○○の学習をふり返り、まとめよう（確かめよう。/ふり返ろう。/節の問いを解決しよう。/探求課題を解決しよう。）
教出	○各章：学習のまとめと表現（○○の時代の移り変わりを確かめよう。/○○の政治や文化について説明しよう。/資料を読み解いて、○○の時代の特色を考えよう。）
帝国	○各章：章の学習を振り返ろう（節の振り返り/「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。/「これからの社会を構想しよう」への準備）
山川	○各章：まとめ（節に対する問い）
日文	○編の学習を確認し、「○○○」の特色をつかもう
自由社	○時代の特徴を考えるページ 対話とまとめ図のページ
育鵬社	○各章：学習のまとめ（○○○の時代をふり返って考えてみよう）
学び舎	○各章：第○章をふりかえる/学習のまとめ/歴史を体験する
令書	○各章：まとめ学習（古代：表/中世：年表/近世：新聞/近代：ディベート/現代：ディスカッション）

## ○社会に参画する資質・能力の育成

### (1)身近な地域の歴史を調べる活動（具体的な事項）

	内容
東書	「地域の歴史を調べよう」（大陸への玄関口 福岡/藩の政治と産業 会津/幕末を生きた先人たち 福井/明治維新のまちづくり 新潟/被爆建造物の保存と継承 広島）
教出	「身近な地域の歴史を調べよう」（東北地方の歴史を調べよう/中世の要塞都市を歩こう/沖縄の歴史を調べよう/北海道の歴史を調べよう/建造物から時代の特色を考えよう/移り変わる戦後の街を訪ねて）
帝国	「歴史を探ろう」（東アジアに開かれた窓口 博多/琉球とアイヌ民族の暮らし/昆布ロードと北前船/世界有数の百万都市 江戸/世界に開かれた港 横浜/移住と開拓が進む北海道/「絹の道」と日本の製糸業/発展する産業都市 大阪・神戸/長野県から見る満州移民/戦場となった沖縄/日本の領土確定と近隣諸国）
山川	「地域からのアプローチ」（奈良/福岡/平泉/金沢/札幌/広島）
日文	「出かけよう！地域調べ」（史跡見学に行こう 平城宮跡を歩く－奈良県奈良市－/歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる－広島県福山市－/城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる－兵庫県姫路市－/近代にかかわる遺産を訪ねよう 手宮線跡地から町の発展を探る－北海道小樽市－/戦争遺跡を訪ねよう 多摩地域の空襲を調べる－東京都立川市・東大和市－/地域の環境の歴史を調べよう 公害克服の歴史を調べる－福岡県北九州市－）
自由社	「調べ学習のページ」（修学旅行で行く 奈良と京都/日本人の名字の由来を訪ねてみた/歩いてみよう！ 江戸の町/日本の近代産業発祥の地 長崎/原子爆弾の被害を考えよう！/新幹線の歴史を調べよう）
育鵬社	「地域の歴史を調べてみよう」（大阪の歴史・ワクワク調査隊/横浜の歴史・ワクワク調査隊）
学び舎	「地域の博物館で調べる」/「歴史を体験する」（地域の歴史を歩く/一人ひとりの歴史・家族の歴史）
令書	「field work」（身近な歴史を年表にまとめよう/展覧会に行こう/市町村歌を調べてみよう）

○埼玉県の歴史的事象 ※資料の出典が、埼玉県内の博物館等に所蔵されているものを含む。

	内容
東書	埼玉古墳群／金錯銘鉄剣／ホフマン輪窯六号窯／吉見百穴／見沼通船堀／ワカタケル大王（武）の名を刻んだ鉄剣（稲荷山古墳出土）／男衾三郎絵詞／長善館（川越藩校）／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一／1号機関車（鉄道博物館）／秩父事件／増税に泣く国民（さいたま市立漫画会館）／旧国名地図（武蔵）／
教出	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／木の桶を作る職人（「職人尽絵」喜多院）／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／増税に泣く国民（さいたま市立漫画会館）／渋沢栄一／原爆の図（丸木美術館）／昔の国と、都道府県の対照図（武蔵）／各地の主な遺跡・史跡・できごと（稲荷山古墳・鉢形城・菅谷館跡・吉見百穴・秩父事件・高麗神社）
帝国	稲荷山古墳出土の鉄剣／稲荷山古墳／男衾三郎絵詞／結桶師（「職人尽絵」喜多院）／主な大名の配置（阿部）／江戸時代の交通（栗橋）／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／鉄道と生糸の輸出（熊谷・秩父鉄道）／渋沢栄一／重税に苦しむ国民（さいたま市立漫画会館）／東京停車場の図（さいたま市鉄道博物館）／歴史の舞台を訪ねよう（武蔵・稲荷山古墳・秩父）
山川	稲荷山古墳出土鉄剣／古代の行政区画（武蔵）／後醍醐天皇の宴会（「太平記絵巻」埼玉県立歴史と民俗の博物館）／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一／
日文	稲荷山古墳／「獲加多支鹵大王」と刻まれた鉄剣（埼玉県稲荷山古墳出土）／男衾三郎絵詞／主な大名の配置（岩槻）／黒船を見物する民衆（「黒船来航風俗絵巻」埼玉県立歴史と民俗の博物館）／渋沢栄一／秩父事件／100年ほど前の田園調布（渋沢栄一らによって開発）／国県対照と五畿七道／主なできごと・史跡・関係地（秩父事件・稲荷山古墳）
自由社	旧国名と都道府県名（武蔵）／稲荷山古墳鉄剣銘文／復習問題のページ地図問題1（稲荷山遺跡）／鍛冶職人（「職人尽絵」喜多院）／大名たちの治水（北条氏房の荒川堰）／江戸初期の主な大名の配置（阿部）／廃藩置県による新しい府県（入間・埼玉）／渋沢栄一／日本人のノーベル賞受賞者（梶田隆章）
育鵬社	人形埴輪（埼玉県大里郡）／稲荷山古墳から出土した鉄剣／男衾三郎絵詞／機織り（「職人尽絵」喜多院）／江戸初期の主な大名の配置（阿部）／宗門改め帳（埼玉県立文書館）／大工職人たち（「川越三芳野天神縁起絵巻」川越氷川神社）／各地の主な特産物（川越そうめん）／主な藩校・私塾と寺子屋の数（長善館）／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一／秩父事件
学び舎	稲荷山古墳出土の鉄剣／平城京までかかる日数（武蔵）／千早城に立てこもる楠木正成軍（「太平記絵巻」埼玉県立歴史と民俗の博物館）／綿花の主な生産地（武蔵）／黒船を見物する人（「黒船来航風俗絵巻」埼玉県立歴史と民俗の博物館）／武州世直し一揆／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／歴史地図（秩父事件・稲荷山古墳）
令書	稲荷山古墳出土鉄剣銘／さきたま古墳・行田古代米カレー／和同開珎（武蔵国秩父郡）／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一／我が国出身のノーベル賞受賞者（梶田隆章）／大名の配置 寛文4年（阿部）

## 社会科（公民的分野）調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発行者名</span>
項目		
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深められるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるため、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <p>○分野の学習において適切な課題を設定し、その課題の追究のための枠組みとなる多様な視点（概念など）に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	○学習効果を高めるために、資料には、どのような工夫が見られるか。 ○資料の配置、資料と本文との関係には、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新しい社会 公民</h1>	2 東 書
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章のはじめに身近な生活をテーマにした「導入の活動」が示されており、各章ごとに設定される「探究課題」は、社会との関わり方を考えるものにするすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、資料の読み取り方・収集方法等を紹介する「スキルアップ（9テーマ）」や、それを活用する「活動コーナー」が適宜設定されており、技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、思考ツール等を用いて考えを整理し、探究課題解決につなげる「深めよう」や、小集団の協働的な活動を行う「みんなでチャレンジ（21テーマ）」が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○章の最初に「探究課題」を示し、「まとめの活動」において思考ツールを使った学習内容の整理・解決により何を学んだのかを捉えられるよう工夫されている。          ○持続可能な社会の形成を意識できるように、現代的な諸課題を五つの視点で捉える3年間の社会科学学習を貫くテーマが設定されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>          ○各章が課題解決的な学習のプロセスを可視化した、導入・展開・まとめの単元構成となっている。また、「探究課題」「探究のステップ」「学習課題」の3段階の問いを設定し、課題を追究・解決しやすくなるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、各章の導入等に他分野・他教科との関連を示すマークが付され、多面的・多角的に学習を進められるよう工夫されている。また、QRコードやURLのリンクから、他分野・他教科の紙面確認や補習用のシミュレーション、動画が活用できるようになっている。さらに、学習内容を深化させるための「18歳へのステップ」コーナーや、対話的な活動「みんなでチャレンジ」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○全体の書体はUDフォントを採用し、資料の部分は本文との区別を視覚的に分かりやすくする地色を敷いて区別する等、見やすくなるような工夫がされている。          ○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「未来にアクセス」等のコラムを活用し、課題解決に必要な情報を収集できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○「単元の構成」で課題解決的な学習のプロセスが可視化され、学習課題、本文、資料、チェック&amp;トライ等、紙面の要素を定位置に配置することで1時間の学習の流れが分かりやすい工夫がされている。評価の観点に対応した「まとめの活動」が設定されている。単元の導入、展開、まとめにおいて学びを支えるQRコンテンツが活用できるようになっている。</p>	



書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学社会 公民 とともに生きる</h2>	<div style="text-align: center;">17 教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章の導入で学習テーマに関連する身近な例を写真やイラストで示して学習する際の視点を捉え、章末の「学習のまとめと表現」を行うことで個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、技能や表現力を養うためのグループ活動等を紹介する「公民の技（9テーマ）」や、資料を読み取る手掛かりとなる「THINK！」が適宜設定されており、技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、ディベート等の表現活動を行う「TRY（13テーマ）」や、各章の最後に、思考ツールを活用して考察して表現する「STEP」が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○各章の「学習のまとめと表現」では、資料を基にした話し合い活動を通して課題解決に取り組むことで何を学んだのかを捉えられるよう工夫されている。          ○実社会の課題と向き合い、探求していくことで社会参画の意識が高まるように各章末の「学習のまとめと表現」に「JUMP！」が設定されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>          ○各章の導入では、生徒の生活体験から出発する「ウォーミングアップ！公民」が設けられ、単元を貫く課題を捉え、見通しをもたせている。また、1時間の授業ごとの追究課題を提示し、課題を追究・解決していくよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、「まなびリンク」からウェブサイトを紹介して関連サイトから情報や資料を収集することができるよう工夫されている。また、見開きの左ページ上部に導入・中心資料が掲載され、資料と解説、キャラクターのコメントで資料の見方を示している。さらに、学習内容を深化させるために「公民の窓（39テーマ）」「SDGs（17テーマ）」と関連付けた特設ページ等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○全体の紙面は色覚等の特性を踏まえた配色や表現方法であるユニバーサルデザインを、書体にはUDフォントを採用し、学びやすくなるよう工夫されている。          ○1単位時間の内容理解の補助として本文の周りに用語解説を設け、「公民の技（9テーマ）」でグループ学習を通して技能や表現力を養えるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○各章の学習のはじめに課題を捉え、見通しを立て、課題解決的な学習を積み重ね、まとめの学習で振り返り、考察する流れとなっている。各章で意識させたい現代社会の「見方・考え方」をそれぞれの導入ページで示し、「まとめと表現」のページで章の「問い」について「見方・考え方」を働かせながら考察できるよう工夫されている。SDGsが、公民の学習全体に関わる大切な視点として紹介されている。</p>	

書名 項目	<h1>社会科 中学生の公民</h1>	4 6 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           帝 国         </div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章の導入として「学習の前に」で日常の社会生活を鳥瞰したイラストを示し、そこから学習を開始するとともに、章末の「学習を振り返ろう」でもそのイラストを再度活用してまとめを行うことで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、思考ツール等の技能を紹介する「技能をみがく（6テーマ）」や、資料を読み取る手掛かりを示した「資料活用」の問いが適宜設定され、技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、対話を通して学びを深める「アクティブ公民（10テーマ）」や、単元を貫く問いを思考ツールを活用して考察する「学習を振り返ろう」が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○各章の「学習の前に」では学習内容を概観する導入や視点がイラストとともに示されており、章全体の見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。          ○問いを軸とした構造化された単元構成であり、章末の「学習を振り返ろう」では、章の問いについて協働的に学習する場面が設定されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>          ○章・節・各本文ページそれぞれの冒頭で学習する内容の問いを、末尾に課題を設けている。それぞれの問いと課題では、協働的に学習する場面が設定され、課題の追究・解決に向けて取り組めるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、QRコンテンツを利用することで、PC等での資料の閲覧や関連動画の視聴、振り返り問題の解答確認ができるようになっている。また、見開き左ページ上部に生徒の身近な事例等の写真やイラストが導入資料として掲載され、資料活用の視点とともに示されている。さらに、学習内容を深化させるため「公民プラス」やSDGsへの意識を高める「未来に向けて」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○全体の紙面は色覚等の特性を踏まえ、カラーユニバーサルデザインに配慮した色調、書体にはUDフォントを採用し、見やすく分かりやすい工夫がされている。          ○内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「確認しよう」「説明しよう」を活用して、学習内容の確認と振り返りができるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○単元のはじめに、イラストを読み解く学習活動を通して単元の学びを見通し、単元のまとめで、思考ツールや「対話的な学び」を通して、節の問いや章の問いに取り組み、単元の学習を振り返る流れとなっている。主体的・対話的で深い学びと指導と評価の一体化が実現しやすいように工夫されている。「アクティブ公民」では、社会参画を疑似体験できるシミュレーション学習が設定されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学社会 公民的分野</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章の導入にある「学習のはじめに」で身近な生活の例を示し、章の問いを立て、章末の「まとめとふり返り」でその問いに答える活動をすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるよう工夫されている。また、情報の読み取り等を行う「情報スキルアップ（2テーマ）」や、資料を読み取る手掛かりを示している「資料活用コーナー」が適宜設定されており、技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、現代社会の見方・考え方を働かせながら学習理解を深める「アクティビティ（41 テーマ）」や、現代社会の課題について考察・構想をする「チャレンジ公民（5テーマ）」が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○各章の導入では、その章の学習内容を概観する漫画が掲載されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。          ○身近な地域の抱える課題や将来について考え、社会参画を促すための手掛かりとなる「明日に向かって（10 テーマ）」が設定されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>          ○各章の学習内容を活用し、現代社会の課題について考察、構想する活動として「チャレンジ公民」が設定されている。争点を明確にした資料を提示することで全ての生徒が議論に参加し、課題を追究・解決できるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、「QR コンテンツ」から、ポートフォリオ、イントロダクションムービー、確認小テスト等を利用できるようになっている。また、見開きの左ページ上部に写真やイラスト、グラフ等の資料が掲載され、キャラクターのコメントで資料の見方が示されている。さらに、学習内容の理解を深めたり、発展して考えたりするために「公民+α（22 テーマ）」や「チャレンジ公民」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○全体の紙面はカラーユニバーサルデザインへ対応し、グラフ・地図等の図版の配色に配慮され、書体はUDフォントを採用し、学びやすくなるよう工夫されている。          ○1 単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「見方・考え方」では働かせるべき視点を示し、学習内容を深く理解できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○構造的に「章の問い」や「節の問い」が設定され、その回答を行うコーナーやページがあり、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。教科書「QR コンテンツ」には、構造的な問いに沿ったワークシート「ポートフォリオ」が用意されている。公民を学ぶ楽しさを感じられるように、新しい事例や、生徒が身近に考えられる事例が掲載されている。</p>	

書名 項目	<h1>新しい公民教科書</h1>	225 自由社
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○単元最後の「ここがポイント！」において、授業で押さえるべき確認事項を示し、「アクティブに深めよう（9テーマ）」という特設ページで社会の仕組み等について考察することによって、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、学習内容を深めるための調べ学習や話合いの視点を示す「やってみよう」が適宜設定され、終章では「論文の書き方」等が示されており、技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○思考力・判断力・表現力等を効果的に育成するため、各章最後にテーマを選択・考察し、表現する「学習の発展」や、現代社会の見方・考え方を働かせて考察する「アクティブに深めよう（9テーマ）」が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○各章の「学習のまとめと発展」では章の学習を発展させるためにテーマを選択し、既習事項を生かしてまとめることで何を学んだのかを捉えるよう工夫されている。                  ○重要な事柄を深く理解するために関連する単元に特設ページとして「もっと知りたい」というコラムが設定されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                  ○各単元の最初に学習課題が設定され、最後に授業で押さえるべき確認事項をまとめた「ここがポイント！」が示されている。これらの学習過程を通して基礎的・基本的な知識を習得させることを目指した学習に取り組めるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、各単元の見開きには「ミニ知識」というコラムを設け、学習内容の理解をより深めようと工夫されている。また、重要な事柄を深く理解するために「もっと知りたい」という大きなコラムも関連する単元に特設ページとして掲載されている。さらに、学習内容を深化させるための調べ学習や話合い活動の視点を示した「アクティブに深めよう」や「やってみよう」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○全体の紙面は、ゴシック体を採用した重要語句が関連した単元に複数掲載されているなど、全体のつながりを意識して学習を進められるよう工夫されている。                  ○1 単位時間の内容理解の補助として本文の周りに用語解説を設け、1 単位時間の最後に内容を総括する記載があり、学習課題を解決できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○各章の最後に「学習のまとめと発展」、終章のレポート、卒業論文、ディベート等が設定され、様々な表現活動に取り組めるよう工夫されている。重要語句は太字で示し、巻末の索引に記載され、補足も側注に記載されているため、基礎的・基本的な知識の習得に取り組めるようになっている。「アクティブに深めよう」では、自ら考え、表現する活動が設定されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しいみんなの公民</h1>	227 育鵬社
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○各章の導入「入り口」では、学習内容の大筋を捉えさせる言語活動を示し、各章の章末「これから」では、社会に見られる課題について考察・構想をすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、ディベートの仕方等を示した「スキルアップ（7テーマ）」や資料について取り組む課題を示す「資料活用」が適宜設定されており、技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、見開きごとに学習内容を自分の言葉でまとめる鉛筆マークや、現代社会の見方・考え方を働かせ討論や考察等の小集団での協働的な活動を促す「やってみよう（11テーマ）」等が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○各章の導入の「入り口」では、章全体の学習内容の趣旨を捉えさせる言語活動が設けられ、学習内容の見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。                  ○各章の章末には、章で学習した内容を踏まえて、社会に見られる課題を自分事として考えさせ、社会参画への態度を養えるように「これから」が設定されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                  ○各章及び見開き1単位時間の紙面では、「つかむ」・「調べる」・「まとめる」の問題解決型学習の構成となっており、学習内容を深く理解し、課題を追究・解決する学び方の工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、目次と各章の冒頭にあるQRコードから、学習内容に関連する動画を閲覧したり、情報を収集したりすることができるよう工夫されている。また、章の冒頭では「どうして学ぶの？」コラムを設け、自らの日常生活や将来に向けてどう役立つかが示されている。さらに、学習内容を深化させるための「学習を深めよう」や、学習を発展させるため「TRY！（16テーマ）」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○全体の紙面は色覚特性を踏まえて、図版は判別しやすい色や表示にする等、見やすくなるように、書体はUDフォントを採用し分かりやすいよう工夫されている。                  ○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「学習を深めよう」では、発展的な資料を示し、学習内容を深められるような工夫がされている。</p>	
総 括	<p>○各章の導入で学習内容の趣旨を捉え、章末には、その章で学習した内容を踏まえて、課題解決的な学習に取り組む工夫がされている。問題解決できるような課題設定と、1時間で資料を効果的に使えるような工夫がされている。発表や議論の仕方、ロールプレイング、ディベート、KJ法等、公民の基礎的な技能を身に付ける「スキルアップ」が設定されている。</p>	

社会科（公民的分野） 調査資料 2

○内容別ページ数等

※教科書に記されたページ数を数えたもの

内容		東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
A	私たちと現代社会	31	26	28	32	42	28
(1)	私たちが生きる現代社会と文化の特色	21	16	20	18	22	17
イ	現代社会を捉える枠組み	10	10	8	14	20	11
B	私たちと経済	52	64	66	60	44	54
(1)	市場の働きと経済	38	29	44	42	21	39
(2)	国民の生活と政府の役割	14	35	22	18	23	15
C	私たちと政治	92	90	86	90	78	80
(1)	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	40	44	41	46	43	40
(2)	民主政治と政治参加	52	46	45	44	35	40
D	私たちと国際社会の諸課題	43	45	44	44	60	43
(1)	世界平和と人類の福祉の増大	35	36	34	10	42	36
(2)	よりよい社会を目指して	8	9	10	34	18	7
その他（資料ページ・索引）		28	39	46	47	44	51
総ページ数※目録に記載されたページ数		246	270	262	274	269	262
QRコードの数		110	21	38	90	0	6

※総ページ数には、目次や中表紙も含まれているため合計と一致しない。

○項目別取り上げた事項

(1)現代社会を捉える枠組み（「対立」と「合意」、「効率」と「公正」など）を養う学習

内容	
東書	部活での体育館利用規則を作る事例/公約から判断する市長選挙の事例/アイドルグループのファン投票の事例/議員になって条例を作る事例など
教出	合唱コンクールの練習場所の割り振りを考える事例/ゴミ収集所の設置場所を考える事例/子どもたちが暮らしやすいまちづくりを考える事例/給食の作り方から考える事例など
帝国	マンションの騒音問題の解決を考える事例/民主主義のあり方を考える事例/パン屋の起業を考える事例/赤字路線バスに税金を使うべきか考える事例など
日文	合唱コンクールの練習スケジュールを考える事例/地域の公園づくりから考える事例/道路の拡張計画から考える事例/自分たちのまちの首長を選ぶ設定から考える事例など
自由社	部活での体育館使用規則を作る事例/魅力ある「まちづくり」から考える事例/家事方法の進歩が社会にもたらした影響から考える事例/お店を出店する設定から考える事例など
育鵬社	部活動の平日のグラウンド割りを考える事例/マンションでのペットの飼育をめぐる問題の解決を考える事例/物々交換ゲームから考える事例/救急車の「不要不急」の利用問題を議員になって考える事例など

(2)法や金融に関する学習

内容	
東書	ちがいのちがい/私の選ぶ自由は/プライバシーの権利と表現の自由について考えよう/先住民族としてのアイヌ民族/模擬裁判をやってみよう/需要量・供給量・価格の関係について考えよう など
教出	ともに生きる社会の実現へ/死刑制度について考えよう/ネット社会で人権を守ることとは/「新しい人権」を考える/日本国憲法の”最も大切な考え方”とはなんだろう/なぜ裁判員裁判の制度があるのだろうか など
帝国	防犯カメラを巡って/有名人の個人情報無断で公開することについて/青果店を営む男性はどうなる？/裁判の判決を考えよう/もしも無人島に漂着したら？/ライフプランから金融を考えよう など
日文	人間らしく生きるために必要なものは？/ビッグデータと防犯カメラ/ネット社会とつき合う方法/15歳は「子ども」？それとも「大人」？/裁判員裁判シミュレーション/為替相場の変化の影響 など
自由社	立憲主義の大切さについて考えよう/基本的人権のどの項目にあたる行為でしょうか/権利の平等に関する問題/新しい人権/犯罪被害者の人権保障の動き/裁判員制度 など
育鵬社	世界の人権問題/新聞の社説を比べてみよう・ディベート/裁判員になって判決を考えよう/最高裁判所裁判官の模擬審査をしてみよう/革新的な金融サービス/人生をデザインしようーシミュレーション など

### (3)国家主権・領土に関する学習

	内容
東書	主権国家/沖ノ鳥島/国際法/国旗・国歌/領土をめぐる問題の現状（竹島問題、北方領土問題、尖閣諸島への対応）/特設ページ「もっと知りたい」沖縄復帰/拉致問題
教出	主権国家/国旗・国歌/国際法/北方領土/竹島/尖閣諸島/特設ページ「持続可能な社会に向けて」なぜ、外交の役割は重要なのだろう（中国との外交関係、北朝鮮との外交関係、ロシアとの外交関係）/拉致問題
帝国	主権国家/国際法/国旗・国歌/拉致問題/北方領土/竹島/尖閣諸島
日文	主権国家/国旗・国歌/国際法/沖ノ鳥島/北方領土/竹島/尖閣諸島/特設ページ「日本の領土をめぐる問題の解決に向けて」（北方領土、竹島、尖閣諸島、世界の領土問題とその解決）/拉致問題
自由社	主権国家/北方領土/竹島/尖閣諸島/沖ノ鳥島/天然ガス採掘施設/国旗・国歌/特設ページ「もっと知りたい」国旗と国歌を考えてみよう/特設ページ「もっと知りたい」わが国の領土問題（北方領土、竹島）/特設ページ「もっと知りたい」海をめぐる国益の衝突（尖閣諸島、EEZの広さ）/特設ページ「もっと知りたい」日本人拉致問題/巻末「わが国の領域」
育鵬社	国旗・国歌/主権国家/国際法/拉致問題/特設ページ「拉致問題と私たち」/北方領土/竹島/尖閣諸島/沖ノ鳥島/特設ページ「日本の領土をめぐる問題」

### (4)「よりよい社会を目指して」に関する学習

	内容
東書	持続可能な社会の形成者として/持続可能な社会を実現するために/課題の設定/資料の収集と読み取り/意思決定/提案参加/探究を続ける
教出	私の提案「自分を変える、社会を変える」をつくろう/テーマを選ぶ/表現方法の選択/テーマ設定の根拠/自分自身の変化と社会の変化/自分にとっての持続可能な未来とは/私の提案「持続可能な未来への対話」
帝国	巻頭「未来に向けて よりよい社会を目指して」/私たちと持続可能な社会/「学習の前に」地域的課題を探してみよう/持続可能な国際社会に向けて/特設ページ「脱炭素社会に向けて地方公共団体の挑戦」「持続可能な社会に向けて大阪・関西万博」
日文	持続可能な社会をめざして/テーマの設定/資料の収集と読み取り/考察と構想/まとめと評価
自由社	持続可能な社会を目指して/レポートと卒業論文をつくろう/「持続可能な日本社会をつくるために私たちは何ができるか」を考え、「卒業論文」を作成してみよう
育鵬社	よりよい社会をめざして/テーマを決めよう/課題探求の計画を立てよう/プレゼンテーションをしよう/内容の見直し/レポート作成 私は内閣総理大臣「国づくり計画書」を作成/巻末「持続可能な社会をめざして」

## 社会科（地図）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できるようにするため、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的技能を身に付けられるようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○社会的事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察したり、諸課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○地図や統計などに平素から親しみ、課題の追究・解決のための教材として効果的に活用する意欲を育むために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <p>○多様な視点に着目し、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるようにするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○作業的・体験的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料を活用しやすいように、検索にどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○学習効果を高めるために、表記・表現にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○読み取りやすいように地図中の地名表記や彩色・配色、土地利用や等高線などに、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>(全体的な特徴、その他)</p>	



<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>新しい社会 地図</h1>	<p>2</p> <p>東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○判型をA4判とし、広い範囲の地図を大きく表示する等、多くの情報を掲載できるよう工夫されている。</li> <li>○世界の各州・日本の各地方には、地域の概観に役立つ、自然・産業・人口などの主題図を共通して掲載しており、基本的な知識が習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地理的分野の学習のほかに、歴史的分野、公民的分野の学習とも連携した資料も掲載され、社会的事象を多面的・多角的に考察できるように工夫されている。</li> <li>○「Bee's eye」問いに取り組むことで、複数の図を比較、検討し、資料活用能力や思考力を高められるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の各州の自然環境や生活・文化、産業などのイラストを配した鳥瞰図を掲載したり、関連するコンテンツに接続するためのQRコードが設置されたりするなど、主体的に地図帳を活用できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Bee's eye」において自ら調べたり考えたりする問いや、SDGsに代表される現代社会の諸課題に関する資料やアイコンが掲載され、課題を追究・解決する活動が展開できるように工夫されている。</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SDGsをテーマとしたページや現代社会の諸課題に関する資料を掲載し、様々な諸問題が扱われている。</li> <li>○世界、日本、統計、索引でインデックスを大きく色分けし、世界は州、日本は地方ごとに細かく色分けされている。</li> <li>○世界の各州や日本の各地方に関連する地図や資料を閲覧できるデジタルコンテンツに接続するためのQRコードが掲載されている。</li> </ul>	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本図は等高段彩表現にレリーフ（陰影）表現を合わせた立体感のある地図表現であり、文字もUDフォントが使用されている。</li> <li>○基本図で示した地域を位置図で示されている。</li> <li>○折り込みページを設けられ、地図記号を確認しやすくなっている。巻頭で地図の見方が示されており、資料の見方や他分野での活用方法が掲載されるなど、地図が使いやすくなるよう工夫されている。</li> <li>○歴史的分野や公民的分野に関連するページが設けられ、分野の枠を超えた「社会的な見方・考え方」を基に、学習テーマを深められるように工夫されている。</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○A4判にすることで、地図をより広域に表せるようになったり、複数の主題図を掲載できるようになったりして、その地域を捉えやすくする工夫がされている。</li> <li>○防災への意識を高めながら、防災をテーマとした学習を深められるように、防災に関する地図や資料が掲載されている。</li> <li>○歴史的分野や公民的分野に関連するページを位置付け、3年間の社会科の学習全体で活用できるように工夫されている。</li> <li>○3種類の質の異なる問いを使い分けた「Bee's eye」を見開き1ページに1問以上設定し、地図や資料を読み取る力を身に付けさせる工夫がされている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学校社会科地図</h1>	4 6 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           帝 国         </div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○巻頭の「地図帳の使い方」により、方位、地図記号、縮尺、さくいんの使い方など、地図帳の基本的な見方・使い方を生徒が主体的に活用できるよう工夫されている。          ○要所に配置された問い「地図で発見！」から、地図の読み取りなどの地理的スキルが身に付けられるようになっている。       </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○資料図は、比較を通して地域の特色が考察できるように、自然や人口などの主要素については縮尺が統一されている。          ○要所に配置された問い「地図で発見！」は「社会的な見方・考え方」を働かせるように作成され「思考力、判断力、表現力」の育成につながる工夫がされている。       </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○世界の各州の自然環境や生活・文化、産業などのイラストを配した鳥瞰図や、関連するコンテンツに接続するためのQRコードが掲載され、主体的に地図帳を活用できるように工夫されている。       </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>          ○社会的な見方・考え方を働かせた学習に活用できるように、問い「地図で発見！」や、持続可能な社会の実現に向けてSDGsに関する資料やアイコンが掲載され、課題を追究・解決する活動が展開できるように工夫されている。       </p>	
資 料	<p>         ○SDGsの特設ページ「地図で考える持続可能な社会」が新設され、「持続可能な社会の実現」に向けて考察できるように工夫されている。          ○左上にタイトル、右上にページ番号、右端にインデックスが配置され、レイアウトが統一されている。          ○世界の各州や日本の地方ごとに、主体的な学びを助ける様々なコンテンツに接続するためのQRコードが掲載されている。       </p>	
表記・表現	<p>         ○基本図は等高段彩表現にレリーフ（陰影）表現を合わせた立体感のある地図表現であり、文字も読みやすいUDフォントが使用されている。          ○基本図で示した地域を位置図で示され、同緯度・同縮尺の日本が示されている。          ○折り込みページを設けられ、地図記号を確認しやすくなっている。巻頭の「地図帳の使い方」では、内容について丁寧な解説が示されるなど、地図が読みやすくなるように工夫されている。          ○基本図や資料図に「地図で発見！」を示し、読図等のスキルが身に付くだけでなく、「社会的な見方・考え方」を働かせた問題解決的な学習につながるよう工夫されている。       </p>	
総 括	<p>         ○大判の紙面により、各州の地域的特色を大観したり、他州や他地域とのつながりを捉えやすくしたりする工夫がされている。          ○防災や環境をテーマとした学習を深められるように、防災や環境に関する地図や資料が掲載されている。          ○歴史アイコンや公民アイコンが設けられ、歴史的分野や公民的分野の学習と関連付けて学習できるよう工夫されている。          ○多くのページに設けられた「地図で発見！」の「問い」を追究することで、「社会的な見方・考え方」が身に付けられるように工夫されている。       </p>	

社会科（地図） 調査資料 2

○内容別ページ数・地図数

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		QRコードの数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
地域構成（世界）	3	3	0	0	1	1	1	1	0	0
地域構成（日本）	3	4	0	3	1	2	1	9	1	2

【世界の様々な地域】

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		QRコードの数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
世界各地の人々の生活と環境	8	15	24	79	1	1	0	0	4	1
アジア	16	22	8	33	4	5	3	4	8	2
ヨーロッパ	12	12	5	4	3	3	0	0	6	2
アフリカ	4	4	9	4	1	1	0	0	2	2
北アメリカ	8	8	2	4	2	2	1	1	4	2
南アメリカ	3	5	3	5	1	2	0	0	2	2
オセアニア	6	4	1	3	2	1	0	3	3	2
その他	1	3	0	0	1	2	2	5	0	0

【日本の様々な地域】

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		QRコードの数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
九州地方	8	8	0	1	3	2	13	6	4	2
中国地方	6	8	0	0	2	2	1	1	3	3
四国地方	6	8	0	0	2	2	0	0	3	3
近畿地方	12	14	4	6	3	3	1	3	6	5
中部地方	8	12	0	6	3	5	1	2	4	3
関東地方	14	12	3	6	3	3	2	2	7	2
東北地方	5	5	1	0	1	1	1	2	2	2
北海道地方	9	9	0	0	3	3	3	3	4	2

【日本の地域的特色と地域区分】

内容	ページ数		QRコードの数		写真の数					
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国		
自然環境	6	8	3	4	11	23				
人口	2	2	1	1	0	1				
資源・エネルギーと産業	6	6	3	2	3	5				
交通・通信	2	2	1	1	0	1				
生活・文化等	1	2	1	1	16	33	東書	帝国		
世界の統計表	3	4	2	2	統計表の項目数		12	13		
日本の統計表	2	3	1	1	統計表の項目数		27	18		
索引	9	11	1	0						
総ページ数	176	198	※総ページ数には、中表紙等も含まれるため合計と一致しない。							

※総ページ数は目録に掲載しているページ数

【日本の諸地域の考察の仕方に関する資料数】

内容	資料数	
	東書	帝国
自然環境	8	9
人口や都市・村落	6	13
産業	6	23
交通や通信	1	2
その他の事象	2	6

※「一般図」のうち、1ページ以上のサイズのものを「基本図」とし、それ未満のものを「部分図」とした。

※統計については、表題のあるものを数えた。

## 数学科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解できるようにするために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができるようにするために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数学を活用して事象を論理的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数学的活動を通して、上記3つの観点で示された資質・能力をバランスよく育成するために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挿絵・写真・図表等の扱いに、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○学習効果を高めるために、統計資料等には、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすいレイアウトや読みやすい表現にするために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○記号、用語、単位等の表現には、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<b>新編 新しい数学</b> ~MATH CONNECT 数学のつながり~	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○章の学習は、「Q」、「例」、「問」で構成され、「例」と似た問題に「♡」マーク、典型的な誤答を「×まちがい例」、既習事項の確認を「ちょっと確認」、一授業の境目に「クイックチェック」が設けられている。節末「基本の問題」、巻末「補充の問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○各節にある『Q考えてみよう』は働かしてほしい数学的な見方・考え方を問う問題が示されている。各節の終わりの『学びをふり返ろう「見方・考え方」』では各節で働かしてほしい数学的な見方・考え方がまとめられている。章末の「深い学び」では大切にしたい数学的な見方・考え方が示されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○各節の最初に、学習意欲を高めるための導入課題が設定されており、身の回りの問題を解決する活動から学習につながるように工夫されている。「数学のまど」や章末「数学×社会」では、社会で数学を活用している人や職業を紹介し、学習した数学の有用性を実感しやすいように工夫されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○「学びをふり返ろう」で、生徒が自ら働かせた数学的な見方・考え方を意識し、そのよさが分かるよう、内容のまとめりごとに学習を振り返る場面を設けられている。巻末に、章の学習後にその章で働かせた見方・考え方を振り返る「数学の目でふり返ろう」が設定され、同じ数学的な見方・考え方を前の学習や先の学習でも働かせていることを、具体例を通して確認できるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「数学とスポーツ栄養士」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「D」マークが付けられている。</p>	
表記・ 表現	<p>○単元の始めに、身の回りとの関連ページが、学習課題として「Q」、発展課題「数学のまど」が枠囲みで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが黄色とピンク色で交互にある。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「デジタルコンテンツの使い方」、「大切にしたい数学の学び」、「数学マイノート」、「この本の構成と使い方」が掲載されている。</p> <p>○章の導入には、主体的な学びのために、「章とびら」や「Q」、「学習課題」が設けられている。章末には、章の基本的な学習内容を確認するための「章の問題」が設けられている。巻末には、深い学びを振り返ることができるように、「もっと数学をつなげよう」が設けられている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">数学の世界</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大日本</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○章の学習内容を「活動」、「例」、「例題」、「Q」で身に付け、「プラス・ワン」で補充することができるように構成されている。「補充問題」では、自主的に取り組める問題を設けている。節末「たしかめよう」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○巻頭「数学の世界へようこそ」では、問題発見・問題解決の流れ、数学的な見方・考え方が示されている。節内には、他者の考えが妥当かを判断する問題「判断しよう」や、他者の考えの内容を説明する問題「伝えよう」、学習を振り返ったり、ひろげたり、活用したりする問題「学びにプラス」が設けられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○導入では、新しい学習への興味・関心を引き出すように、身近な題材が扱われている。また、数学の面白さや楽しさを味わえるように、読み物「MATHFUL」が設けられている。巻末「課題学習」、「活用・探究」では、各章の学習が総合したり、日常生活や社会、他教科の学習と関連付けたりする課題が取り上げられている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○巻頭「数学の世界へようこそ」で問題発見・問題解決の流れを示し、見いだした問題の解決の仕方が身に付くように工夫されている。また、「ノートの作り方」では、学習を振り返ることができるノートの書き方の工夫が紹介されている。章末「社会にリンク」では、仕事の中の数学を紹介している。巻末「課題学習」では、各章の学習を総合したり、生活や他教科の学習に関連したりする問題が扱われている。</p>	
資 料	<p>○6人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。</p> <p>○「フード・マイレージ」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p>	
表記・表現	<p>○学習を始める手掛かりとなる問題として「考えよう」が、学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、必要に応じてルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に節ごとのインデックスがあり、内容領域で色分けされている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「この教科書の使い方」、「数学の世界へようこそ」、「ノートの作り方」が掲載されている。</p> <p>○各章に1箇所ずつ、問題発見、問題解決の流れが示されている。本文や章の終わりには、家庭学習に取り組めるように、「力をのばそう」、「活用・探究」、「社会にリンク」などが設けられている。巻末には、生活や学習との関連を図るために、「課題学習」、「MATHFUL」などが設けられている。</p>	

書名 項目	<h1>中学校 数学</h1>	1 1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学 図</span>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○「Q」では生徒キャラクターの対話を、「例」では適宜ノート形式の解答を示し、「問」で構成され、「計算力を高めよう」を通して、基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。典型的な誤答を「正しいかな？」で示されている。節末「確かめよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○巻末「見方・考え方をまとめよう」では、問題解決の際の思考の流れが整理されている。各節にある「どんなことがわかったかな」では各節で働かせてほしい数学的な見方・考え方がまとめられており、また「見方・考え方」では育成してほしい見方・考え方の問題が示されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○各節の最初には、学習する内容への興味・関心を引き出すために身近な題材が扱われている。章末「できるようになったこと」で学習を自己評価し、「さらに学んでみたいこと」で自分の言葉で記入できるように工夫されている。章末「数学へのいざない」では、身の回りで活用されている数学が掲載されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○章全体が「具体的な事象」→「疑問・問題発見」→「数学的に表現した問題・焦点化した問題」→「数学的な見方・考え方を活用した予想」→「問題の解決」→「まとめ」→「生徒自身の新たな疑問」で構成されている。「数学的活動のページ」では、話し合いをベースに、生徒が主体的に疑問の発見から新たな疑問を発見する過程を協働的に行えるように工夫されている。</p>	
資 料	<p>○2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「カーボンニュートラル」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○単元の始めに、学習につながる課題のページが、学習課題としての「Q」、「目標」が枠囲みで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが緑色と橙色で交互にあり、章と節がある。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「この教科書を使った数学の学び」、「ノートの使い方」、「単位の書き方」、「QRコードの使い方」が掲載されている。</p> <p>○各領域の始めに、既習事項をまとめた「ふりかえり」のページがある。章の学習の中に「どんなことがわかったかな」が適宜設けられ、これまでの学習のまとめが示されている。章末には「深めよう」のページが設けられ、より発展的な問題が掲載されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学数学</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章の入口に「○章を学習する前に」、出口に「学習のまとめ」を設け、「たしかめよう」で基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。章の学習は「Q」、「例」、「たしかめ」、「問」で構成されている。節末「基本の問題」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○各節に登場するキャラクターの吹き出し部分には働かせたい見方・考え方が示されている。巻頭「大切にしたい数学的な見方・考え方」では数学の学習で働かせたい見方・考え方が紹介されている。各節にある「見方・考え方」では育成したい数学的な見方・考え方がまとめられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○章のはじめに、「Let's Try」で学習意欲を高める導入課題が身の回りの問題から設定されている。章末「数学の広場」、「数学しごと人」では、各章での発展的内容や知識、数学の歴史や社会で数学を活用している職業や考え方を紹介し、生徒が興味・関心をもちやすい話題が掲載されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○「みんなで数学をはじめよう！」や「学びのプロセスページ」で問題発見・解決の過程を示すことで主体的・対話的な学び方が意識できるように工夫されている。「はてな？」(生徒の疑問)から、主体的・対話的な学びを通して、「なるほど！」(わかったこと、解決のしかた)を見だし、さらに「だったら！？」(新たな疑問)へつなげる数学的活動のサイクルを位置付け、学習が展開されている。</p>	
資 料	<p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「地球温暖化問題」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「まなびリンク」マークが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○単元の始めに、学習につながる課題「Let's Try」のページがあり、新しい学習のきっかけとして「Q」が枠囲みで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとにインデックスが青色と緑色で交互にあり、章と節がある。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「教科書の使い方」、「みんなで数学をはじめよう!」、「大切にしたい数学的な見方・考え方」、「工夫してノートを書こう」が掲載されている。</p> <p>○章の始めに、既習事項を振り返る「学習する前に」のページがある。章の学習の中に学習のプロセスのページが適宜設けられ、問題を見だしで解決し、振り返るプロセスが示されている。章末には章の基本的な学習内容を確認するための「学習のまとめ」が設けられている。</p>	



書名 項目	<h1 style="margin: 0;">未来へひろがる数学</h1>	6 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">啓林館</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章の本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」や、既習事項から新しい学習につなげる「ひろげよう」が設けられている。章の学習は「例」、「例題」、「問」、「練習問題」で構成されている。章末「学びをたしかめよう」、巻末「もっと練習しよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○巻頭「たいせつな考え方」では、働かせたい数学的な見方・考え方が説明されており、各節にある働かせたい数学的な見方・考え方の箇所に色下線で示されている。巻末にある「学びをいかそう」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○節のはじめの「節とびら」では、QRコンテンツが配置されており、その章での学習内容にまつわる内容の理解が深められるように工夫されている。章末「数学ライブラリー」では、数学の歴史や社会で数学を活用している場面など、数学への興味・関心が高まるような話題が掲載されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○利用場面に「ステップ方式」を導入し、「問題を設定する、解決する、解決の過程を振り返って改善を図ったり新たな問題を設定したりする」といった数学的な問題発見・解決の過程を意識できるように工夫されている。わかったこと、できるようになったことを振り返り、育まれた資質・能力を確認して更に学びたいことに目を向けられるよう、「○章のあしあと」を設けられている。</p>	
資 料	<p>○2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「AEDと救命率」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○節の学びがはじまる場面は「節のとびら」で、新しい学びのきっかけとなる問題は「ひろげよう」のマークで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は茶色枠で囲われている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが青色で示されている。</p>	
総 括	<p>○巻頭見返しで「ICTの活用でひろがる数学の学習」、巻頭で「構成と使い方」、「ノートのかふう」が掲載されている。</p> <p>○各節に「学習のとびら」（導入課題）を設け、主体的・対話的で深い学びのために、言語活動のコーナー「説明しよう」、「話し合おう」が配置されている。学んだことにまつわる読み物「数学ライブラリー」や、学んだことを身の回りで活用する課題「学びをいかそう」が設けられている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">これからの数学</h1>	104 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">数 研</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章の前や本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」が設けられている。章の学習は「Q」、「TRY」、「例」、「問」、「練習問題」を通して、基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。節末「確認問題」、巻末「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○巻頭「数学的な見方・考え方」や各節に登場するキャラクターの吹き出し部分は働かせたい数学的な見方・考え方が示されている。節内にある「考えよう」や章末にある「学んだことを活用しよう」や巻末にある「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○各節の最初では、身の回りの題材を扱うことで、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるように工夫されている。また「やってみよう」や「調べよう」など、その章で学習した内容にまつわる活動的な話題が設けられ、興味・関心に応じた取扱いができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○新たな内容を学ぶ活動の中で、「見いだしたことがら」、「解決するための方法」、「成り立つ理由」といったことを説明する機会が設けられている。キャラクターが対話を通して学習内容の理解を深めていく姿が見えることで、授業における問題解決のプロセス部分（一般化、部分に着目、関係を考える、同じように考える、条件を変える）に焦点が当たるように工夫されている。</p>	
資 料	<p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「ポリオワクチン」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「L i n k」マークが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○活動を通して解決する課題を「TRY」マークで、学習の中で大事にしたい問いかけを「Q」のマークで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に節ごとのインデックスが青色で示されている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「この教科書について」、「学習の進め方」、「ノートづくり方」が掲載されている。</p> <p>○章の始めには既習事項をまとめた「ふりかえり」のページがある。章末には、生活と学習の関連を図るために、「学んだことを活用しよう」が設けられている。巻末「数学旅行」では、社会との関わり方を考えることができる話題が掲載されている。後見返りに学び方の意識を高めるための「学びの自己評価」が設けられている。</p>	

書名 項目	<h1>中学数学</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○章のはじめに「次の章を学ぶ前に」、本文中に「確かめ」で既習事項を確認できるように工夫されている。章の学習は、「Q」、「例」、「問」で構成され、基礎・基本の定着のために、「まちがえやすい問題」が設けられている。節末「基本の問題」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○章の扉で示されている問題に対するキャラクターの対話や吹き出し部分には、働かせたい数学的な見方・考え方が示されている。節末にある「学びに向かう力を育てよう」や巻末「数学研究室」、「活用の問題」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○章末「学びに向かう力を育てよう」では、別冊の「ふり返しシート」を使って、更に発展した問題を考えることができるように工夫されている。章末「数学のたんけん」、巻末「数学マイトライ」では、数学への興味が高まるように学習内容に関連したコラムや課題が扱われている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、数学的活動を通じた問題発見・解決の過程と学び方のポイントが示されている。巻頭の「数学的な見方・考え方を身につけよう！」で、数学的な見方・考え方を働かせながら学ぶことの大切さが説明されている。各小節の横欄に「大切な見方・考え方」が示され、生徒が数学的な見方・考え方を働かせられるように工夫されている。</p>	
資 料	<p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「車いすマラソン」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</p>	
表記・ 表現	<p>○小節の始めに「めあて」が橙色のゴシック太字で、導入課題「Q」が緑色枠で囲われている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は水色枠で囲われている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが青色と緑色で交互に示されている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「この本の使い方」、「数学の学習を始めよう!」、「学びに向かう力を育てよう!」、「数学的な見方・考え方を身につけよう!」、「ノートのくふう」、「ICTを活用しよう!」が掲載されている。</p> <p>○章の始めに既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」のページがある。活用の場面では、切り離して使用する「対話シート」が設けられている。「数学のたんけん」や巻末「数学マイトライ」では、数学と社会の関連が図られている。</p>	

数学科 調査資料 2

○分量について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
1	総ページ数	1年	321	324	319	343	299	316	319
	※目録に記載された ページ数	2年	257	250	262	275	235	267	263
		3年	289	302	320	311	279	324	300
2 領域別 ページ数	A 数と計算	1年	106	112	120	126	102	110	104
		2年	46	54	60	58	48	60	50
		3年	82	90	92	94	80	98	78
	B 図形	1年	68	74	72	74	72	74	60
		2年	66	70	74	80	68	68	70
		3年	84	82	100	94	82	92	78
	C 関数	1年	40	40	42	36	34	36	38
		2年	38	32	38	36	36	38	36
		3年	34	34	40	32	30	34	34
	D データの 活用	1年	24	26	33	32	27	26	34
		2年	32	32	37	37	29	34	34
		3年	14	18	19	17	17	18	14
	課題学習等	1年	83	72	52	75	64	70	83
		2年	75	62	53	64	54	67	73
		3年	75	78	69	74	70	82	96

○領域別教材数等について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文	
1	総単元数 (章の数)	1年	8	7	7	8	7	7	7	
	2年	7	7	7	7	7	7	7		
	3年	8	8	8	8	8	8	8		
2 領域別 教材数	(章の 数／節 の数／ 小節の 数)	A 数と計算	1年	4/10/22	3/12/36	3/8/20	4/11/26	3/8/20	3/9/23	3/9/36
			2年	2/4/8	2/6/17	2/4/8	2/4/10	2/4/7	2/4/10	2/4/18
			3年	3/8/17	3/8/30	3/7/17	3/8/19	3/7/15	3/8/19	3/7/28
	B 図形	1年	2/6/13	2/8/30	2/4/11	2/6/12	2/7/12	2/5/12	2/6/20	
		2年	2/5/12	2/5/25	2/4/11	2/5/15	2/6/13	2/5/13	2/4/24	
		3年	3/7/14	3/9/32	3/7/15	3/8/16	3/8/14	3/6/14	3/6/26	
	C 関数	1年	1/4/9	1/4/13	1/4/6	1/4/7	1/4/7	1/3/7	1/4/14	
		2年	1/4/9	1/3/9	1/3/6	1/3/7	1/3/7	1/3/7	1/3/12	
		3年	1/3/5	1/2/10	1/2/5	1/3/5	1/3/6	1/2/5	1/2/11	
	D データ の活用	1年	1/3/4	1/3/9	1/2/4	1/2/5	1/2/3	1/2/4	1/2/9	
		2年	2/3/4	2/4/8	2/2/5	2/2/4	2/3/5	2/3/5	2/2/8	
		3年	1/1/2	1/2/6	1/1/3	1/1/3	1/1/3	1/1/2	1/1/3	

○日常生活や社会のできごとなどを取り扱った例（下記の用語は教科書の表記による）

東 書	1年:現在のチームを分析しよう（データの分析と活用） 2年:スタート位置を決めよう（式の計算） 3年:コピー用紙はどんな長方形？（平方根）
大日本	1年:海外に住む友だちと交流しよう（数の世界のひろがり） 2年:どちらの電球を買う？（1次関数） 3年:パスタメジャーを作ろう（相似と比）
学 図	1年:震源までの距離は？（比例と反比例） 2年:CTスキャンと数学（連立方程式） 3年:丸太からとれる角材は？（平方根）
教 出	1年:1000Wで温めたときの加熱時間は？（比例と反比例） 2年:期待値（確率） 3年:どちらを買うほうが得になるかな？（相似な図形）
啓林館	1年:1日乗り放題のチケットを買った方がいい？（方程式） 2年:AEDの重要性がわかるグラフ（一次関数） 3年:車は急にとまれない（関数 $y = ax^2$ ）
数 研	1年:深海の水圧（比例と反比例） 2年:ダイヤグラム（一次関数） 3年:リレーのバトンパス（関数 $y = ax^2$ ）
日 文	1年:表計算ソフトの活用（データの活用） 2年:猛暑日は増えている？（データの比較） 3年:どこまで見えるか調べよう（三平方の定理）

○その他

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
QRコードの数	1年	241	20	130	124	130	113	172
	2年	192	12	83	78	103	93	123
	3年	215	21	116	83	121	104	117

## 理科調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付くようにするために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫&gt;</b>          ○「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動が充実するために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>          ○理科で学習する規則性や原理などが日常生活や社会で活用されていることに気付かせたり、各教科と関連する内容や学習時期を捉えやすくしたりするために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真、図表などの位置と本文との関連に、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○記号、用語、単位などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階に応じてどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>(全体的な特徴、その他)</p>	

書名 項目	<b>新編 新しい科学</b>	2 東 書
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>  ○各節に「課題」「課題に対する結論を表現しよう」が示されている。各単元の最初だけでなく随所に既習事項が示され、章末や単元末、デジタルコンテンツで重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では手順がステップに分けられ、図や写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の前及び巻末資料に「基本操作」が掲載されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>  ○巻頭のマンガや各節のフローチャートで探究の進め方が示されている。また、観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で結果・考察の視点が示されている。さらに、各節で振り返らせたり考えをまとめさせたりすることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>  ○巻頭で探究の流れや考察のコツが示され、教科書の使い方が説明されている。「おてがる科学」や「学びを生活や社会に広げよう」などのコラムがあり、主体的に学びを広げるための工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組として、読み物「私たちのSDGs」において生徒自らが考える場面が設けられ、持続可能な社会を意識できるようになっている。</p> <p><b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫&gt;</b>  ○探究の過程がアイコンと脚注のフローチャートで示されており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「問題発見」から「ふり返り」「活用」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>  ○各種「読み物」（まちなか科学、お仕事図鑑等）において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。各教科で学習した内容について、「〇〇で学ぶこと」のマークが付けられ、教科間の関連が分かりやすいように配慮されている。</p>	
資 料	○デジタルコンテンツとして、章末問題やインタビュー記事、シミュレーション、他教科との関連など、バリエーションが多く、活用しやすいような工夫がされている。 ○「まちなか科学」「なるほどね！」など、日常生活と学習内容を結び付け、個人でも手軽に探究ができるような資料を掲載することで、科学が身近に感じやすくなる工夫がされている。	
表記・表現	○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は下地の色を変え、単位を付けて表記されている。 ○実験の注意事項が、マークと配色を変えた文字で示されている。	
総 括	○巻頭で探究の流れや教科書の使い方などが示されている。単元配列は、各単元の指導時期や内容の関連性を踏まえた配置になっており、生徒の科学的概念の形成に配慮されている。 ○単元末には「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」が掲載されている。 ○巻末には「自由研究」「基礎操作」などがまとめられている。巻末に自分で組み立てる地学単元のペーパークラフトが付けられている。 ○各例題や章末、単元末にQRコードが設けられており、繰り返し学習できるように工夫がされている。	

書名 項目	<h1>理科の世界</h1>	4 大日本
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>  ○各節に課題が示されている。各単元の最初だけでなく随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では、手順が図や写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の近く及び巻末資料に「基本操作」とデジタルコンテンツが掲載されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>  ○巻頭の「理科の学習の進め方」で探究の流れや方法が示されている。また、観察・実験では、「結果の整理」と「結果から考えよう」で結果・考察の視点が示されている。さらに、「振り返ろう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>  ○巻頭で理科の学習の進め方が示され、その中で教科書の使い方が説明されている。「やってみよう」や「つながる」などの項目が掲載され、主体的に学びを広げるための工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組として、資料「Science press」において生徒自らが考える場面が設けられ、持続可能な社会を意識できるようになっている。</p> <p><b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫&gt;</b>  ○探究の過程がマークで示され、重点項目は色分けされており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「問題を見つけよう」から「振り返ろう」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>  ○「くらしの中の理科」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。算数・数学、保健体育、技術・家庭で学習した内容について、「つながる」のマークが付けられ、教科間の関連が分かりやすいように配慮されている。</p>	
資 料	○デジタルコンテンツとして、既習事項の確認や、「理科の世界WEBプラス」での実験解説の充実、自然観察スポットの紹介など、ICTを活用した学びを支援する工夫がされている。 ○「Science press」「科学のあしあと」「くらしの中の理科」など、科学的な知見や歴史、日常生活や社会との関連を取り上げた資料が用意されている。	
表記・表現	○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は色の付いた枠で囲い、単位を付けて表記されている。 ○実験の注意事項が、下地の色を変えて示されている。	
総 括	○巻頭で学習の進め方や教科書の使い方などが示されている。単元配列は、小学校との関連を重視した配置となっており、観察・実験のしやすい時期や、学年による理科室使用の重なりなどに配慮されている。 ○単元末に「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」が掲載されている。 ○巻末には「自由研究」「基礎操作」などがまとめられている。3年巻末の「学習のまとめ」では、1～3年の復習ができるようになっている。 ○「理科の学習WEB」には、WEBテストなどが設けられており、繰り返し学習できるように工夫がされている。	



書名 項目	<b>中学校 科学</b>	1 1 学 図
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>  ○1時間ごとに「この時間の課題」「この時間のまとめ」が示されている。各単元の最初だけでなく随所に既習事項が示され、単元末に「学習のまとめ」を設けられ、重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では、手順の写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の近くに「基本操作」が掲載されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>  ○巻頭のマンガと「理路整然」で探究の進め方が示されている。また、観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点が示されている。さらに、「結果から考察する」では、具体的な表現例が示され、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>  ○巻頭で探究の流れが示され、理科の学習の進め方と教科書の使い方が説明されている。各章の始めと終わりに「Can-Do List」があり、主体的に学習に取り組めるようにするための工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組として各章にアイコンが掲載されているとともに、コラムにおいてSDGsや脱炭素社会に向けた取組が記載され、生徒自らが持続可能な社会を意識できるようになっている。</p> <p><b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫&gt;</b>  ○探究の過程がマークで示され、マークが矢印でつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「気づき」から「考察」「ふり返し」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>  ○「資料」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。「つながり・○○」のマークが付けられ、他教科と関連付けられるよう配慮されている。「SDGsを意識して脱炭素社会へ」において、理科とSDGsとの関連が分かりやすいように配慮されている。</p>	
資 料	○デジタルコンテンツとして、既習事項の確認や、動画や操作系の教材、「ミライ教科書」でWEBページに再構成された教科書の閲覧など、ICTでの学びに幅広く対応できるようになっている。 ○「理路整然」では学びの内容に対する着眼点や、探究の組み立て方が掲載され、探究を深めるための工夫がされている。	
表記・表現	○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は下地の色を変え、単位を付けて表記されている。 ○実験の注意事項が、下地と文字の配色を変えて示されている。	
総 括	○巻頭で理科を学ぶ意義や教科書の使い方などが示されている。単元配列は、想定する年間指導計画に沿って系統的に配置されている。あらかじめ余裕のある時間数で計画されており、探究等に時間を使えるよう配慮されている。 ○単元末に「学習のまとめ」などが掲載されてある。 ○巻末には、「読解力問題」「思考をさらに深める」「基礎操作」などがまとめられている。 ○各ページに設けられたQRコードから「ミライ教科書」が利用でき、他学年の教科書を参照できるように工夫がされている。	

書名 項目	<b>自然の探究 中学理科</b>	17 <b>教 出</b>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>  ○各節に「課題」「結論」が示されている。各章の最初だけでなく随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では手順がステップに分けられ、図や写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の近く及び巻末資料に「基礎技能」が掲載されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>  ○巻頭の「探究の進め方」で探究の流れや方法が示されている。また、観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点が示されている。さらに、「活用しよう」や「考えよう」、「話し合おう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>  ○巻頭で探究の進め方が示され、理科の学習の流れが説明されている。「やってみよう」や「チャレンジ」などの項目があり、主体的に学習が進められるような工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組として、「ハローサイエンス」で生徒自らが考える場面が設けられ、生徒自らが持続可能な社会を意識できるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫&gt;</b>  ○探究の過程がマークで示され、折り込みページで探究の流れをいつでも参照できるようになっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「疑問」から「結論」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>  ○「ハローサイエンス」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。算数・国語で学習した内容について、「ブリッジ〇〇」のマークが付けられ、他教科と関連付けられるよう配慮されている。特に、巻末資料「理科で使う算数・数学」では、教科間の関連が分かりやすいように配慮されている。</p>	
資 料	○デジタルコンテンツとして、既習事項の確認や、実験操作等の説明、「まなびリンク」での習熟度に合った個別最適な学びの保障など、ICTでの学びをサポートする資料がある。QRコードはどのページも共通して、ページ番号の横に配置されている。 ○「ハローサイエンス」や「広がる科学の世界」では、日常生活や社会との関連、高等学校への接続や発展を意識した資料が掲載され、科学を身近に感じやすく、理科の有用性を伝える工夫がされている。	
表記・表現	○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は下地の色を変え、単位を付けて表記されている。 ○実験の注意事項が、マークと配色を変えた文字で示されている。	
総 括	○巻頭で理科を学ぶ意義や探究の進め方などが示されている。単元配列は、各単元の指導時期や学習内容のつながりを考慮した配置となっており、地域や学校の実態に応じた指導計画を立てられるように配慮されている。 ○単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」「活用問題」が掲載されている。 ○巻末には「学年末総合問題」「基礎技能」などがまとめられている。「学年末総合問題」では、1年間の学習の復習ができるようになっている。 ○各単元の章末には、QRコードが設けられており、繰り返し学習できるように工夫がされている。	

書名 項目	<h1>未来へひろがるサイエンス</h1>	61 啓林館
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>  ○各節に課題が示されている。デジタルコンテンツや各章の最初だけでなく随所に既習事項が示され、章末や単元末、デジタルコンテンツで重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では手順がステップに分けられ、図や写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の近くに「観察・実験のスキル」とデジタルコンテンツが掲載されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>  ○巻末の「探Qシート」で探究の進め方や方法が示されている。また、観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点が示されている。さらに、「探Q実習」「探Q実験」「Action活用してみよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>  ○巻頭で探究の過程が示され、その中で教科書の使い方とICTの活用事例が紹介されている。各単元の一つ「探Q実験」が設定され、巻末の「探Qシート」を活用して主体的に学習させるための工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組には「SDGsマーク」が付けられ、裏見返しで日本各地の取組を紹介することで、生徒自らが持続可能な社会を意識できるようになっている。</p> <p><b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫&gt;</b>  ○探究の過程がマークで示され、マークが1本のラインでつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「疑問」から「考察」「探究のふり返し」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>  ○科学コラム「○○ラボ」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性が実感できるように工夫されている。各教科で学習した内容について、「○○と関連」のマークが付けられ、他教科と関連付けられるよう配慮されている。特に、サイエンス資料「理科で使う算数・数学」では、教科間の関連が分かりやすいように配慮されている。</p>	
資 料	○デジタルコンテンツとして、既習事項の確認や、動画、触って動かせるコンテンツなど、ICTを活用した学びがサポートされている。 ○「お仕事ラボ」「部活ラボ」など、日常生活や社会との関連、生徒の興味関心に働きかけるような資料を掲載し、科学を身近に感じやすく、理科の有用性を伝える工夫がされている。	
表記・表現	○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は下地の色を変え、単位を付けて表記されている。 ○実験の注意事項が、マークと配色を変えた文字で示されている。	
総 括	○巻頭で探究の過程や教科書の使い方、ICTの活用などが示されている。単元配列は、同一学年内での単元指導順序の入替えが自由に行えるような配置になっており、2学期制や3学期制にも対応できるように配慮されている。 ○単元末に「学習のまとめ」「力だめし」「みんなで探Qクラブ」が掲載されている。 ○巻末には「学年末総合問題」「サイエンス資料」などがまとめられている。巻末に各単元の「探Qシート」が付けられている。 ○各章末や単元末にはQRコードが設けられており、繰り返し学習できるように工夫がされている。	

## 理科 調査資料 2

### ○分量について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	262	294	264	291	300	
	2年	314	318	304	315	324	
	3年	326	374	304	347	356	
2 個人研究課題等の例示数	1年	9	9	2	7	4	
	2年	13	8	1	4	4	
	3年	12	8	1	4	4	

### ○領域別教材数等について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 小単元数	1年	13	14	12	15	13	
	2年	15	14	12	14	15	
	3年	18	18	12	20	19	
2 領域別観察・実験等数	1年	身近な物理現象	6	6	8	6	7
		身の回りの物質	7	6	7	6	9
		いろいろな生物とその共通点	5	7	6	5	6
		大地の成り立ちと変化	5	8	6	5	6
	2年	電流とその利用	8	10	8	7	10
		化学変化と原子・分子	9	10	8	7	9
		生物の体のつくりと働き	9	10	7	7	7
		気象とその変化	4	5	5	3	7
	3年	運動とエネルギー	6	7	11	5	9
		化学変化とイオン	8	8	7	6	8
		生命の連続性	2	4	5	2	3
		地球と宇宙	6	6	8	5	5
	科学技術と人間、自然と人間	6	2	3	2	4	

### ○その他

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 読み物などの資料数	1年	27	46	34	48	70	
	2年	46	69	26	64	87	
	3年	49	54	44	70	84	
2 埼玉県に係る資料 (写真・図)の数	1年	2	2	1	2	0	
	2年	0	2	1	4	2	
	3年	1	1	1	3	1	
3 QRコードの数	1年	252	28	194	120	197	
	2年	255	20	222	109	187	
	3年	243	13	222	121	203	

### ○日常生活や他教科等との関連についての記載の例

	記載の数	特徴的な例
東書	140	技術・家庭で学ぶこと 野菜・いもの種類 (1年) 数学で学んだこと 比例式の利用 (2年) 他教科で学ぶこと SDGs (3年)
大日本	132	万葉集から見る植物 (1年) 完全燃焼と不完全燃焼 (2年) 力の分解の活用例 (3年)
学図	69	混ぜるな危険 (1年) 乾湿計と「打ち水」 (2年) 農業を変えた無性生殖「接ぎ木」 (3年)
教出	118	牛乳は水溶液か? (1年) 不完全燃焼 (2年) 情報モラル (3年)
啓林館	96	大地と食材のかかわり (1年) 鉄はどうとり出す? (2年) イオン飲料で水分とイオンの補給 (3年)

## 音楽科（一般）調査資料 作成の観点

書名 項目	○○○○ ○○○○	発行者番号 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発行者名</span>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b> ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b> ○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b> ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</b> ○歌唱教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。 ○創作教材の選択において、無理なく取り組ませるためにどのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</b> ○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していかうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。 ○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。 ○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学音楽 音楽のおくりもの</h1>	<div style="text-align: center;">17 教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Let's try! 指揮をしてみよう」では、指揮をする際の基礎的な知識及び技能について説明があり、発達の段階に応じて習得できるよう工夫されている。</li> <li>○「Sing!Sing!」では、歌唱表現の基礎的な技能や創意工夫して音楽表現するための手がかりが示され、教科書に書き込みながら学習できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ACTIVE!」では音楽を形づくっている要素や感じ取ったこと、雰囲気について直接書き込み、示された他の教材と曲想や音楽の構造などを比較することで学習を深められるように工夫されている。</li> <li>○音楽を形づくっている要素を基に、音楽の魅力を感じ取ったり、思いや意図を生かして表現したりできるよう、教材や扱い方が配慮されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い知識と教養、豊かな情操を培えるように、我が国及び諸外国の音楽から、様々な時代や曲種のもものが掲載されており、音楽のもつ多様なよさや面白さを感じ取ることができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱教材では、表現方法のポイントが示されており、音域、曲の長さ、歌詞の内容が発達の段階に応じて系統的・発展的に学べるように工夫されている。</li> <li>○創作教材「音のスケッチ」では、テーマやことばをリズムと関連付け、創意工夫を生かした表現で音楽をつくることができるように活動の手順を提示するなどの工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○著作権についてQAで具体的に示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発想、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。</li> <li>○SDGsと音楽の関わりやアウトリーチ、音楽を通じた教育活動が示され、生活や社会における音楽の意味や価値を考えられるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の巻末では楽典が教材と関連付けながら掲載されており、様々な楽器や音楽年表が写真と共に整理されている。</li> <li>○我が国や郷土の伝統音楽で実際に使用されている譜面が大きく掲載されている。</li> <li>○QRコードから解説動画を視聴することで指揮や創作などの表現を学び、学習を深めることができるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文などには、UDフォントが使用されている。</li> <li>○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されている。</li> <li>○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」には、掲載ページも示されている。発展として「音の三要素」が掲載されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学習 MAP」で年間の学習内容を関連付けて示されている。</li> <li>○様々な音楽について比較して学習し、共通性と固有性を考え、音楽文化の理解を深めるための工夫がされている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学生の音楽</h1>	27 教 芸
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「指揮をしてみよう！」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して音楽表現するための手立てが示され、音楽の特徴に応じて習得できるように工夫されている。</li> <li>○「My Voice!」では、発達の段階に応じた歌い方が紹介されている。また、民謡・長唄では、絵譜を使って発声の特徴が示されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材では音楽を知覚・感受する際の焦点が示されていたり、譜例と関連付けながら音楽を形づくっている要素が示されていたりするなど、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせられるよう工夫されている。</li> <li>○「学びのコンパス」では学習の手順に番号を付け、各段階で考えること等が示されており、学習の流れが把握しやすいよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を捉えたり、それらを生かして創作の活動を進めたりできるよう、教材が適切に配置され、音楽と豊かに関わりながら、学校での学びと自らの生活をつなぐことができるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱教材では、楽曲の紹介文や考えたいポイントが示されており、様々な音楽表現を学べるように工夫されている。</li> <li>○創作分野における知識及び技能を身に付けられるよう「My Melody」「Let's Create!」では、旋律をつくる活動や様々な楽器や身の回りの音を用いて音楽を構成する活動などが掲載されている。</li> </ul> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽メディアの変化や著作権等を示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発想、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。</li> <li>○「生活や社会の中の音楽」では、音楽の役割、仕事と音楽等を示し、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す工夫がされている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞教材では、音楽の特徴を理解するための書き込み欄や対比表を使い、考えるポイントが掲載されている。</li> <li>○各教材のページに学習目標・音楽を形づくっている要素等が示されている。</li> <li>○QRコードを読み取ることで、学習に役立つコンテンツへアクセスして、閲覧、視聴できるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文などには、UDフォントが使用されている。</li> <li>○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されている。</li> <li>○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末には「音楽の約束」として楽典資料が掲載されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現と鑑賞がバランスよく配置され、目次とは別に年間の学習内容を俯瞰して見通せるよう工夫がされている。</li> <li>○自国や諸外国に伝わる様々な音楽が掲載されており、そのよさを感じ取りながら、表現活動に取り組み、音楽文化の理解を深めるための工夫がされている。</li> </ul>	

音楽科（一般） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	92	98
	2・3年上	92	98
	2・3年下	92	98
2 QRコードの数 ※ 目次と裏表紙も含む	1年	14	46
	2・3年上	13	44
	2・3年下	10	35

○学習活動別教材数について

内容	学年	教出	教芸
1 楽譜の付いた表現（歌唱）教材の数	1年	22	21
	2・3年上	22	18
	2・3年下	18	18
2 表現（創作）教材の数	1年	2	2
	2・3年上	2	2
	2・3年下	2	2
3 主となる鑑賞題材の数	1年	8	7
	2・3年上	9	6
	2・3年下	6	7
4 例示している鑑賞教材の数 ※民謡等はそれぞれカウント ※作曲家紹介や年表等の楽曲は除く	1年	67	69
	2・3年上	12	73
	2・3年下	13	97

○その他

内容	教出	教芸	
我が国や郷土の伝統音楽の扱い（埼玉の伝統音楽の扱いも含めて）	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の民謡は、日本地図を用いて示している。（地図上紹介、「秩父音頭」）「ソーラン節」、「かりぼし切り歌」を表現活動で取り上げている。</li> <li>箏と尺八を取り上げ、箏では表現活動につなげている。</li> <li>日本とアジアの声の表現や、箏と同じ発音原理と構造をもった楽器を写真で紹介している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の民謡は、日本地図を用いて示している。（地図上紹介、「秩父音頭」）「ソーラン節」は表現活動があり、演奏者からのアドバイスが記載されている。</li> <li>雅楽と箏曲が取り上げられ、「越天楽」の唱歌の体験コーナーがある。</li> <li>アジアの諸民族の音楽が、日本の民謡と聴き比べの視点と共に示されている。</li> </ul>
	2・3年上	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭では、笙奏者のインタビューが掲載されている。</li> <li>雅楽と能が取り上げられ、唱歌と謡の体験コーナーがあり、演奏のポイントが記載されている。</li> <li>日本各地の音楽や芸能について取り上げ、写真とともに特徴が示されている。埼玉では秩父夜祭が掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭では、歌舞伎役者のインタビューが掲載されている。</li> <li>歌舞伎と文楽が取り上げられ、長唄と義太夫節の体験コーナーには演奏者のアドバイスが記載されている。</li> <li>日本各地に伝わる郷土の祭や芸能とその特徴が、写真で示されている。（地図上紹介「秩父夜祭の屋台行事と神楽」）</li> </ul>
	2・3年下	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌舞伎と文楽が取り上げられている。歌舞伎では長唄「勧進帳」の体験コーナーがあり、演奏のポイントが掲載されている。</li> <li>舞台芸術である西洋のオペラと日本の歌舞伎を比較して鑑賞するコーナーがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>尺八と能が取り上げられ、謡の体験コーナーには演奏者からのアドバイスが記載されている。</li> <li>郷土の祭や芸能が、中学生が受け継ぐという視点で示されており、久喜市の鷲宮催馬楽神楽が扱われている。</li> </ul>



## 音楽科（器楽）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</b>                  ○器楽教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>                  ○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。 ○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。 ○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学器楽 音楽のおくりもの</h1>	17 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</span>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図で記されると共に、楽器の構え方については複数の角度から掲載され、奏法など分かりやすく説明がされている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「表現の仕方を調べてみよう」では器楽表現や鑑賞を通じて学習した楽器の音の出る仕組みや旋律の特徴に着目し、「話し合おう」を活用して学びを深める工夫がされている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、様々な楽器で多様な音楽表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>○「Let's Play!」や「Let's Try!」で合奏の難易度を示すなど、生徒が主体的・協働的に学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○基礎から始め「深めてみよう」まで、段階的な構成になっており、創作と関連付けて学習できる教材が用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から始められるように工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○音楽を通じて、人と人とのつながりを生み出す取組を紹介し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考えられるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○楽器の名手からのメッセージにより、生徒が音楽的な見方や考え方を働かせるためのヒントが得られるよう工夫されている。</p> <p>○器楽の学習をサポートするための資料（「ギター/キーボードコード表」）が、掲載されている。</p> <p>○QRコードを読み取ることによって、模範演奏を視聴できるなど様々な資料に触れられるよう工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○文などには、UDフォントの使用と色覚特性への配慮がされている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「いろいろな用語、記号」で音符・休符・記号等の解説が示されており、掲載曲に書かれている記号が学習できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○各楽器の掲載する順序をカテゴリーごとに配置されていることで、楽器の表現の仕方について、特徴を踏まえて共通点や相違点を考えられるよう工夫されている。</p> <p>○各楽器の基礎から多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>中学生の器楽</h1>	<p>27</p> <p>教 芸</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図で記されると共に、楽器の構え方については複数の角度から掲載され、奏法など分かりやすく説明がされている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「学びのコンパス」では、活動のヒントがイラストの吹き出しによって示されているほか、思考した内容を記述する場面が設定されており、実際に演奏して確かめることが出来るように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、様々な楽器で多様な音楽表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>○器楽の学習内容を俯瞰することのできるページを設けることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○教材には学習目標や学習内容に即した音楽を形づくっている要素が示されており、また創作活動と関連付けて学習できる内容も用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から練習できるように工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○各界の著名人からのメッセージや同世代の音楽活動の様子を掲載し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考えられるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○クラシック音楽に留まらず、バンドのスコアなど様々なジャンルの楽譜が掲載されている。</p> <p>○器楽の学習をサポートするための資料（「ギター/キーボードコード表」「楽器の図鑑」）が掲載されている。</p> <p>○QRコードを読み取ることによって、音源や資料を活用でき、個別最適な学びをサポートできるように工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントの使用と色覚特性への配慮がされている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「音楽の約束」で音符・休符・記号等の解説が示されており、掲載曲に書かれている記号が学習できるよう工夫されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○学習指導要領に示された三つの資質・能力に対応する学習内容や教材を見開きで示し、学習が見通せる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎から多彩な組合せによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

## 音楽科（器楽合奏） 調査資料 2

### ○分量について

内容	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	107	107
2 QRコードの数 ※ 目次と裏表紙も含む	24	42

### ○学習活動別教材数について

内容	教出	教芸
1 扱っている弦楽器の数（和楽器を除く）	15	13
2 扱っている管楽器の数（和楽器を除く）	12	24
3 扱っている打楽器の数（和楽器を除く）	6	17
4 扱っている和楽器の数	13	26
5 独奏教材の数（練習曲を含む）	71	89
6 二重奏以上の合奏教材の数	29	26

### ○その他

内容	教出	教芸
1 我が国や郷土の伝統音楽の扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の五つを扱っている。</li> <li>○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。</li> <li>○吹く楽器と弾く楽器の共通点や相違点について考えるコーナーがある。</li> <li>○「音のスケッチ」として、和楽器や唱歌を用いた創作が掲載されている。</li> <li>○我が国の音楽文化に関わる演奏家や、伝統音楽の担い手、後継者について紹介されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の五つを扱っている。</li> <li>○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。</li> <li>○「日本の伝統音楽の楽器編成」で、それぞれの日本の伝統音楽の種類で演奏される主要な楽器を一覧で紹介しているコーナーがある。</li> <li>○「MyMelody」として、箏を用いた創作が掲載されている。</li> <li>○巻末の資料では、同世代の中学生による和楽器の演奏写真が掲載されている。</li> </ul>

## 美術科調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対象や事象を捉える造形的な視点を理解できるように、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○創造的に表すことができるように、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているか。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるような工夫が見られるか。</li> <li>○鑑賞において、自分の価値観をもって批評し合うなど、言語活動が充実されるような工夫が見られるか。</li> <li>○単なる知識や理論の学習に偏らないような工夫が見られるか。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりできるよう、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○制作過程や仕組み、材料や用具の安全な使い方などを理解できるよう、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の示し方や説明文には、生徒の興味・関心・意欲を高めたり、学習内容の理解を深めたりするために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1>美術</h1>	9 開隆堂
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材を通して育成を目指す資質・能力の「小見出し」や、「作者のことば」によって造形的な視点を捉えられるような工夫がされている。</li> <li>○作品の制作の様子を段階的に示し、題材の内容に関連した巻末の「学びの資料」によって、より深く技能を理解できるような工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の活動風景やアイデアスケッチ、考えるポイントが示され、どのように主題を生み出し、構想を練っていけばよいか理解できるような工夫がされている。</li> <li>○写真を大きく使った広がりのある紙面構成となっており、生徒の豊かな発想につながるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の意欲が高まるように「図画工作から美術へ」や「私たちに身近な美術」と題した資料を掲載する工夫が見られる。</li> <li>○振り返りができるように「作者のことば」を掲載し、「美術と私と社会」を掲載することで、社会と美術との関わりへの関心を高める工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の冒頭で〔共通事項〕を意識できるように説明文を示し、形や色彩などについて考えられるように工夫がされている。</li> <li>○「小見出し」を示すことで育成を目指す資質・能力が分かり、言語活動が充実されるように鑑賞の観点や手順が示されている。</li> <li>○知識や理論の学習に偏らないように、扉のページで学習に対して意欲を高める内容を示したり、美術を身近に感じられる作品を掲載したりするなどの工夫が見られる。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲を高めるために原寸や部分拡大、見開きの図版が掲載されている。</li> <li>○表紙に凹凸のある印刷を採用することにより、指先で触って作品の質感を想像することができるように工夫されている。</li> <li>○「美術の用語」という別枠があり、図や文章で説明するなどの工夫が見られる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDフォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。</li> <li>○全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。</li> <li>○それぞれの表記に共通したアイコンが用いられ、分類が見やすくなるよう工夫されている。</li> <li>○各題材に登場する共通のキャラクターを使用することにより、生徒の思考ポイントを導けるような工夫がされている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表紙や見開きに写真を大きく掲載するなど、視覚的に生徒の関心・意欲を高める工夫がされており、多様な美術文化と楽しく出会うことができるよう工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>美術</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光 村</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の冒頭に設けた鑑賞の問いかけや、「POINT」などの吹き出しによって、造形的な視点で捉えられるよう工夫されている。</li> <li>○題材の「表現」の項目で、制作途中を段階的に示し、巻末や別冊の「資料」へつなげることによって、より深く技能を理解できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発想や構想の手立てとして、生徒や作家、国内、海外の作品など、多様な参考作品が掲載されている。</li> <li>○参考作品に鑑賞の視点や考える視点を示すことによって、作品の鑑賞から表現活動につなげていけるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の意欲が高まるように「絵や彫刻の世界」や「みんなの工夫」と題した資料を掲載する工夫が見られる。</li> <li>○美術の学びを人生や社会に生かすことができるように「美術の力」や「うつくしい！」と題した資料が掲載されている。</li> </ul> <p><b>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の冒頭に〔共通事項〕を意識できるような問いかけを示し、形や色彩などについて考えられるように工夫がされている。</li> <li>○言語活動が充実されるよう、授業の流れを明確に示し、生徒の活動での心情や考えを吹き出しで紹介するなどの工夫がされている。</li> <li>○知識や理論の学習に偏らないように、生徒が試行錯誤しながら制作する様子を丁寧に紹介し、制作意図や内面性を大切にすることを伝える工夫が見られる。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲を高めるために見開きの図版が掲載されている。</li> <li>○技法などの資料をコンパクトな大きさの別冊にし、3年間の制作に活用できるように工夫されている。</li> <li>○鑑賞図版では用紙の種類を変え、生徒の学習意欲を高められるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDフォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。</li> <li>○全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。</li> <li>○それぞれの表記に共通したアイコンが用いられ、分類が見やすくなるよう工夫されている。</li> <li>○他教科とのつながりが表記されており、教科等横断的な学習の意識を高められるような工夫がされている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○別冊資料やQRコードにより、多くの資料が用意されており、技能や鑑賞など様々な視点から題材を理解できるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>美術</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の冒頭の「鑑賞の入り口」という問いかけや、作品別の「造形的な視点」という吹き出しなどによって、造形的な視点を捉えられるように工夫されている。</li> <li>○題材の「表現のヒント」や「作者の言葉」、巻末の「学びを支える資料」によって、より深く技能を理解できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「鑑賞の入り口」や「造形的な視点」を通して作品を造形的な視点で見つめ、見方や感じ方を深められるように工夫されている。</li> <li>○「表現のヒント」として主題を生み出す視点が示されており、思考力・判断力・表現力等の育成につなげる工夫が見られる。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の意欲が高まるように「美術との出会い」や「学びの探求と未来」、「学びの実感と深まり」と題した資料を掲載する工夫が見られる。</li> <li>○美術の学びが生活や社会につながるように、様々な職業の人物紹介や「社会に生きる美術の力」が掲載されている。</li> </ul> <p><b>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「造形的な視点」や「作者の言葉」で〔共通事項〕や主題を意識できるような問いかけが示され、形や色彩などについて考えられるように工夫されている。</li> <li>○自分の見方や感じ方を大切にしながら、表現の幅を広げ、言語活動が充実されるように、造形活動中に交流する写真を発想や構想の場面で示す工夫がされている。</li> <li>○知識や理論の学習に偏らないように、発想や構想に役立つ資料として、現役アーティストの制作過程と、造形活動に活用できる手立てが紹介されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲を高めるために原寸や部分拡大、見開きの図版が掲載されている。</li> <li>○作者の言葉・表現のヒント・造形的な視点の三つの見出しを設け、学習に活用できるように工夫されている。</li> <li>○題材を通して育成を目指す資質・能力が整理されて示されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDフォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。</li> <li>○全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。</li> <li>○それぞれの表記に共通したアイコンが用いられ、分類が見やすくなるよう工夫されている。</li> <li>○題材タイトルの下に題材内容が短い文で、導入のための発問が設けられており、より深い学びにつながるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の冒頭に鑑賞作品を掲載することで表現との関連が図られ、紙面構成に統一感があるため、各題材の学習の流れが理解できるように工夫されている。</li> </ul>	



## 美術科 調査資料2

### ○分量について

内容		学年	開隆堂	光村	日文
1 総ページ数 ※目録に記載されたページ数		1年	71	69	75
		2・3年上	127	107	65
		2・3年下			61
2 QRコードの数		1年	16	65	34
		2・3年上	25	61	35
		2・3年下			24

### ○題材数等

内容		学年	開隆堂	光村	日文		
1 題材数		1年	12	19	18		
		2・3年上	23	24	17		
		2・3年下			15		
2 領域別	A 表現	感じ取ったこと や考えたこと を基に、絵 や彫刻などに 表現する活動	描く活動の 題材数	1年	4	7	5
				2・3年上	6	5	3
				2・3年下			4
		つくる活動 の題材数	1年	1	2	2	
			2・3年上	2	4	3	
			2・3年下			1	
	B 鑑賞	伝える、使う などの目的や 機能を考え、 デザインや工 芸などに表現 する活動	描く活動の 題材数	1年	2	2	3
				2・3年上	3	5	2
				2・3年下			1
		つくる活動 の題材数	1年	3	5	3	
			2・3年上	4	8	5	
			2・3年下			4	
B 鑑賞	美術作品などのよさや美し さを感じ取り味わう活動の 題材数	1年	12	19	18		
		2・3年上	23	24	17		
		2・3年下			15		

### ○作者等別作品数について

内容		学年	開隆堂	光村	日文
1 生徒の作品数 (作者名等の表示があるもの)		1年	55	57	85
		2・3年上	109	39	62
		2・3年下			48
2 日本人の作品数 (作者名等の表示があるもの)		1年	49	82	54
		2・3年上	65	98	88
		2・3年下			53
3 外国人の作品数 (作者名等の表示があるもの)		1年	24	57	24
		2・3年上	90	75	51
		2・3年下			42
4 伝統的な表現の数 (文化財、民芸品等)		1年	19	13	15
		2・3年上	41	61	10
		2・3年下			49
5 埼玉県に関連した作品数 (作品等の紹介に「埼玉県」や地 名が表記されている作品等)		1年	1	0	1
		2・3年上	0	1	0
		2・3年下			

○その他

内容	学年	開隆堂	光村	日文
1 スケッチの数 (作者名等の表示があるもの)	1年	20	15	9
	2・3年上	4	5	3
	2・3年下			5
2 写真・ビデオ・コンピュータ等の 映像メディアの作品の数 (作者名等の表示があるもの)	1年	7	26	3
	2・3年上	14	13	31
	2・3年下			9
3 日本及び諸外国の独特な表現形式 を扱った題材数	1年	5	6	7
	2・3年上	6	6	4
	2・3年下			3
4 漫画、イラストレーション、図を 扱った題材数	1年	2	1	2
	2・3年上	6	4	3
	2・3年下			3
5 地域の素材を扱った題材等の数	1年	0	1	1
	2・3年上	0	1	1
	2・3年下			1
6 美術館等を活用した題材等の数	1年	1	1	1
	2・3年上	0	0	0
	2・3年下			1
7 共働で行う創造活動の作品数	1年	1	1	0
	2・3年上	6	0	0
	2・3年下			8

## 保健体育科調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○個人生活における健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付けるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○健康・安全について科学的に理解するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○体育分野と保健分野の相互の関連が図られるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○運動やスポーツの意義や多様性について理解するために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習内容を理解しやすくするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○生徒の学習意欲を喚起するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○生徒が学習しやすいよう、レイアウトや表現等にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○脚注、注釈等には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○記号、用語等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新編  新しい保健体育</h1>	2 東 書
内 容	<p> <b>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</b>            ○見開き 1 ページ 1 単位の学習を基本とし、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の 4 ステップが学習の流れとして配置され、章末問題により、知識の習得状況が確認できるよう工夫されている。            ○「巻末スキルブック」が新設され、知識や技能の確認や習得ができるよう工夫されている。         </p> <p> <b>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</b>            ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」では、四つのステップで発問を設け、合理的な課題の解決に向けて、思考し判断するとともに、表現することを通して、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。            ○「活用する」では、習得した知識・技能を用いて他者に説明したり、話し合ったりすることで、思考を深める活動ができるよう工夫されている。         </p> <p> <b>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</b>            ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」と学習が進むことや、写真や表等が効果的に使用されることで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫されている。            ○他教科と関連する学習内容が記載されていることで、教科等横断的に学ぶことができ、生徒が興味や関心をもち意欲的に授業に取り組めるよう工夫されている。         </p> <p> <b>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞</b>            ○各章の扉に「小学校で学習したこと」と「高校で学習すること」、「保健体育の職業」が記載されていることで、生涯にわたる学びにつながるよう工夫されている。            ○生活につながる口絵・章末資料があり、自分たちの生活とのつながりを考えて、SDGs やテクノロジー、情報についても学ぶことができるよう工夫されている。            ○「巻末スキルブック」による健康や安全に関するスキルの手本や詳しい解説があることで、生涯にわたって役立つスキルが身に付くよう工夫されている。         </p>	
資 料	<p>           ○各章末に「章末資料」「キーワード」「章末問題」「日常生活に生かそう」「SDGs について考えよう」が設けられ、理解が深められるよう工夫されている。            ○充実した口絵に加え、「教科書の使い方」「保健体育の学習方法」「巻末スキルブック」が示され、よりよく学習できるよう工夫されている。            ○「D マークコンテンツ」では、インターネット学習ができるよう工夫されている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○本文などには、UD フォントが使用されている。            ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。            ○学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示したりするために、10 個のマークが活用されている。         </p>	
総 括	<p>           ○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。            ○学習の筋道が見える構成に加え、マスコットが学習のヒントを提示している。            ○興味・関心に応じて学びを深め広げることができる資料や各章末の発展的資料、「巻末スキルブック」により、個別最適な学びにつながるよう工夫されている。         </p>	

書名 項目	<h1>中学校保健体育</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">大日本</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間の学習の流れを「学習のねらい」「つかもう」「課題を解決しよう」「深めよう」「まとめよう」「活かそう」と構成し、資料を活用しながら学習できるように工夫されている。</li> <li>○資料やイラスト、実技の写真、一覧性の高い折り込みを活用して、技能の習得に役立てるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「つかもう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「活用して深めよう」では、課題の発見・解決・学習したことを生かすなどの様々な活動により、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。</li> <li>○「学びを活かそう」では、学習したことを理解し、生活に生かすための課題を設定し、対話による思考を深める活動を通して、深い学びが実現できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○口絵では、生徒が自分のこととして捉えて学習する重要性を理解し、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>○「つかもう」では、身近な題材や生活について取り上げることで、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びを活かそう」では、各章に、自分で考え実践していく内容が設けられており、生涯にわたって実践する資質や能力を養うことができるよう工夫されている。</li> <li>○各単元の学習内容を「保健編」「体育編」「他教科」のリンクに分けて示し、関連が深められるように工夫されている。</li> <li>○トピックスやミニ知識を掲載し、より深い学びと理解をすることができ、生涯にわたる健康の保持増進や豊かなスポーツライフを実現できるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○章末の「学びを活かそう」では、記入欄を設け、自分の意見を書き入れることができ、表現力を高められるよう工夫されている。</li> <li>○写真や、現代的なテーマの口絵に加え、「教科書の使い方」や「1時間の学習の主な流れ」が示され、見通しをもって学習できるよう工夫されている。</li> <li>○ウェブサイト内で動画を使ったインターネット学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文などには、UDフォントが使用されている。</li> <li>○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。</li> <li>○学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示したりするために、10個のマークが活用されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。</li> <li>○本文と資料が明確に分かれた構成となっており、参照性を高める作りとなっている。</li> <li>○「学習のまとめ」では豊富な関連資料等を基に幅広い知識を習得し、発展させるような内容が示されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>最新 中学校保健体育</h1>	50 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大修館</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学習項目で見開き1ページを1単位時間とし、学びを3ステップ構成「つかむ(章とびら)」「身につける・考える(本文・実習)」「まとめる・振り返る(章のまとめ)」とすることで、知識の定着が図れるよう工夫されている。</li> <li>○イラストや図表、実習ページが豊富に掲載されており、視覚的にも知識と技能の習得に役立つよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」の三つのステップで構成するとともに、多様な導入活動を提示し、学習課題につながる気付きや思考を促す学習過程を通じて、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。</li> <li>○「学習のまとめ」では、様々な表現活動を提示し、多様な考え方を理解したり、集団としての考えを形成したりすることができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「保健体育の学び方」や「デジタル教材の使い方」が掲載されていることで、生徒が教科書をより効果的に活用して学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○「課題をつかむ」から「学習のまとめ」という構成の中に、写真や図が効果的に掲載されていることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;生涯にわたる心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成し、「学習のまとめ」で学んだことを生かせるよう工夫されている。</li> <li>○社会の急速な変化に対応するため、今日的な課題を「コラム」や「特集資料」として取り上げ、生涯にわたって実践する資質や能力を養えるよう工夫されている。</li> <li>○共生社会や多様性に関連するテーマを重視して説明していることで、自己に合った様々な立場でスポーツや健康増進に取り組んでいけるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章末に設けられている「章のまとめ」には、基礎・基本の習得や確認の問題が示されていて、観点別に振り返りができるよう工夫されている。</li> <li>○「教科書の使い方」や学びを生活や社会につなげる口絵、様々な現代課題に対応した豊富な「特集資料」「コラム」を設け、深く学習できるよう工夫されている。</li> <li>○デジタル教材によって、インターネット学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文などには、UDフォントが使用されている。</li> <li>○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。</li> <li>○学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示したりするために、8個のマークが活用されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。</li> <li>○図や資料などが豊富に掲載され、レイアウトが見やすく構成されている。</li> <li>○学びをサポートする章のまとめや、全ての生徒が支障なく学習できるような配慮がされ、個別最適な学びを実現することができるよう工夫されている。</li> </ul>	

<p>書名 項目</p>	<h1>新・中学保健体育</h1>	<p>2 2 4 学 研</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○「課題の発見」「学習の課題」「課題の解決」「学びの活用」で構成され、「キーワード」を記載することで学習の見通しをもちながら、その時間で習得した知識を活用する学習活動ができるよう工夫されている。          ○身に付けるべき技能には「技能」のマークを付し、イラストや写真・動画を活用して、学習を深められるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○「課題の発見」「学習の課題」「課題の解決」「学びの活用」では、体育や保健の「見方・考え方」を働かせて、各項目で設けられた課題の解決に向けて考えたり話し合ったりしながら、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。          ○「学びの活用」では、身に付けた知識・技能や課題解決の道筋を基にした協働的な活動を通して、思考力、判断力、表現力等が身に付くよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○項目の最後にある「とりくもーター」によって主体的に取り組めたかを自己評価し、記録することができ、メタ認知に関わる力を育むことができるよう工夫されている。          ○「協働マーク」が付いた教え合いや学び合いの課題が提示されていて「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の基礎を養うことができるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;生涯にわたる心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○「学びの活用」によって日常生活の課題に対応する実践力が身に付くようにし、関係ある職業にはJOBマークを提示して実生活に結び付くよう工夫されている。          ○「情報サプリー」「探求」「発展」等のマーク掲載によって、生涯にわたる健康増進や豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成できるよう工夫されている。          ○「ウェルビーイング」の向上が重視されており、一人一人が自分自身の価値観や生き方を考えながらよりよく生きることを意識することができるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○各章末に「探求しようよ！」という補足資料や、学習を振り返り、生活に生かすことができる「章のまとめ」、学年の終わりに「学年のまとめ」が設けられている。          ○関心を高める工夫がされた口絵に加え、「教科書の使い方」や「さまざまな学習方法」についてイラスト付きで具体的に示されている。          ○デジタルコンテンツがあり、インターネット学習ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。          ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。          ○学習を深めたり、他教科等や他ページとのつながりを示したりするために、11 個のマークが活用されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。          ○3つのステップ学習の流れに沿って、学習内容の要素が見やすく構成されている。          ○各章末に「探求しようよ！」を設け、興味・関心をもちやすい課題が取り上げられており、個別最適な学びにつながるよう工夫されている。</p>	

保健体育科 調査資料 2

○分量について

内容	東書	大日本	大修館	学研
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	198	196	206	206
2 体育理論、保健分野のページ数 (体育理論/保健分野)	32/124	39/122	40/140	38/132
3 絵・巻末の総ページ数	36	27	23	28

○単元別ページ数

東書	○体育編 32 ページ 「運動やスポーツの多様性」 11 ページ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 11 ページ 「文化としてのスポーツの意義」 10 ページ ○保健編 124 ページ 「健康な生活と疾病の予防」 54 ページ (①14 ページ②20 ページ③20 ページ) 「心身の機能の発達と心の健康」 28 ページ 「傷害の防止」 22 ページ 「健康と環境」 20 ページ
大日本	○体育編 39 ページ 「運動やスポーツの多様性」 12 ページ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 16 ページ 「文化としてのスポーツの意義」 11 ページ ○保健編 122 ページ 「健康な生活と疾病の予防」 50 ページ (①14 ページ②18 ページ③18 ページ) 「心身の機能の発達と心の健康」 25 ページ 「傷害の防止」 29 ページ 「健康と環境」 18 ページ
大修館	○体育編 40 ページ 「運動やスポーツの多様性」 12 ページ 「運動やスポーツの効果・学び方・安全」 16 ページ 「文化としてのスポーツ」 12 ページ ○保健編 140 ページ 「健康な生活と病気の予防」 60 ページ (①14 ページ②22 ページ③24 ページ) 「心身の発達と心の健康」 32 ページ 「けがの防止と応急手当」 26 ページ 「環境の健康への影響」 22 ページ
学研	○体育編 38 ページ 「スポーツの多様性」 12 ページ 「スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 12 ページ 「文化としてのスポーツ」 14 ページ ○保健編 132 ページ 「健康な生活と疾病の予防」 56 ページ (①16 ページ②22 ページ③18 ページ) 「心身の発達と心の健康」 28 ページ 「傷害の防止」 28 ページ 「健康と環境」 20 ページ



○領域別教材数等について

内容		東書	大日本	大修館	学研
領域別教材数	運動やスポーツの多様性	3	3	3	3
	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	3	3	3	3
	文化としてのスポーツの意義	3	3	3	3
	健康な生活と疾病の予防	21	17	20	15
	心身の機能の発達と心の健康	10	9	12	8
	傷害の防止	8	8	8	6
	健康と環境	5	6	8	7

○その他

内容		東書	大日本	大修館	学研
1	体育分野と保健分野の関連をもたせた教材数 ※「欲求やストレスへの対処」と「体ほぐしの運動」等	42	43	36	43
2	主体的・対話的で深い学びを促すための教材数 ※「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」等	249	153	127	191
3	発展的内容の教材数	20	15	13	18
4	QRコードの数	87	29	131	87

## 技術・家庭科（技術分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫&gt;</b>                  ○技術と生活や社会、環境との関わりについて、より一層の理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫&gt;</b>                  ○安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○資料と本文の関係及び資料の配置には、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<p style="text-align: center;"><b>新編 新しい技術・家庭 技術分野</b> <b>未来を創る Technology</b></p>	<p style="text-align: center;">2 東 書</p>
内容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○技術の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図などが掲載され、科学的な思考に基づく知識が習得できるよう工夫されている。                  ○問題解決をするために身に付ける必要がある技能は、副題材の実践例や「TECH Lab」にまとめられ、問題に応じて習得した技能を適切に選択できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○各内容とも最初に基本的な知識の習得を行い、その後「技術の問題解決の工夫」「問題の発見と課題の設定」を行う学習内容で構成されている。そして第2章の最後に「問題解決の評価、改善・修正」を取り上げ、自分たちの学習過程を振り返らせるよう工夫されている。また、生徒自身の問題解決に導くため、「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れを統一的に示されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「技術のめがね」「最適化の窓」という欄が設けられている。</p> <p><b>&lt;技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫&gt;</b>                  ○各内容の「社会と発展と技術」では、「技術の光と影」について示されており、持続可能な社会のためにどのようなことができるか考えさせるよう工夫されている。                  ○巻頭の「SDGs と Technology」では、持続可能な社会の構築のために技術が果たしている役割について分かりやすくするよう工夫されている。                  ○巻末の「Society5.0 のその先へ」では、AIやIoT、ビッグデータについて示されており、持続可能な未来のためにどのようなことができるか考えさせるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫&gt;</b>                  ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて最適化について考慮し、これからの新しい技術の開発と持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。</p>	
資料	<p>○問題解決例が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。                  ○各編の最終章には、生徒が、技術を評価し、適切に簡易・運用したり、新たな発想に基づいて改良・応用したりするためのワークシートが掲載されている。                  ○技術に携わる人を紹介する「技術の匠」や、先進的な分野の「技術の匠」を紹介する「すごいぞ！技術」が掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。                  ○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。</p>	
表記・表現	<p>○書体はUD書体が使用されている。また、可読性を高めるとともに、重要語句は太字で表現されている。さらに、カラーバリアフリーの観点から、配色とデザインについて、色覚に関する校閲を受けるなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。</p>	
総括	<p>○各内容は、「理解する」、「問題解決に取り組む」、「つなげる、広げる」のまとまりで構成されている。                  ○「統合的な問題解決」では、新しい技術イノベーションにつながる問題解決になるために、四つの技術を統合するよう工夫されている。</p>	

書名 項目	<b>新 技術・家庭 技術分野</b> <b>明日を創造する</b>	6 教 図
内 容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○基礎・基本の知識と技能を1章で習得するように構成され、2章の「プチ問題解決にチャレンジ!」の製作題材は基礎技能が学べる題材になるよう工夫されている。                      ○教科書と別冊「スキルアシスト」により、技能を身に付けることができるようにし、加工法の確認や実習中に作業を確認できるよう工夫されている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○各内容とも第1章で基本的な知識と技術の工夫について学び、その後第2章で設計や計画について学習するよう構成されている。また、1章と2章の最後の「学んだことをまとめよう」で、身近な地域の取組を調べて自分たちの学習過程を振り返らせるよう工夫されている。問題解決の流れを「イメージしよう」「設計(計画)しよう」「完成させよう(育てよう)」「活用しよう(振り返ろう)」の4ステップで統一的に示されている。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「未来をつくろう」「やってみよう」という欄が設けられている。                 </p> <p>                     &lt;技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫&gt;                      ○各内容の「社会と発展と技術」では、「技術のプラス面とマイナス面」について示されており、「技術の誠実ないかしかた」を考えさせるよう工夫されている。                      ○SDGsの17の目標のマークが関連する学習内容に示されており、日本や社会で起こる諸問題を、自らに関わる課題として捉えさせるよう工夫されている。                      ○巻末の「未来の社会を創造しよう!」では、3年間で学んだことを振り返り、未来にどのような技術があったら役に立つか考えさせるよう工夫されている。                 </p> <p>                     &lt;よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫&gt;                      ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて今ある技術のプラス面・マイナス面を考慮し、未来のために持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○実習題材が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。                      ○生徒自身の設計や計画を記入できる「設計・計画シート」「計画・育成シート」が用意されている。                      ○技術に携わる人を紹介する「技ビト」や、様々な製品に込められた技術などを紹介する「スゴ技」が掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。                      ○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。                 </p>	
表記 ・ 表現	<p>                     ○書体はUD書体が使用されている。また、カラーバリアフリーの観点から、色覚に関する校閲を受けるとともに、重要語句は青太文字にし、視認性を上げるように配慮されている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○各内容は、「技術を見つめよう」、「技術をいかそう」、「未来をつくろう」のまとまりで構成されている。                      ○「夢をかなえる技術」では、夢を形にしたり、工夫し創造することの大切さを伝えたりするために、領域を横断した様々な技術を紹介するよう工夫されている。                 </p>	

書名 項目	<b>技術・家庭 技術分野</b> <b>テクノロジーに希望をのせて</b>	9 開隆堂
内容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに、「生活の中の真理」を追究できるようになるために、科学的な根拠を基に技術を理解・習得できるよう工夫されている。                      ○適宜「実験」や「調べ学習」を取り上げ、科学的な根拠を伴い技術を理解できるよう工夫されている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順（内容A）」「技術による問題解決（内容BCD）」について学習するよう構成されている。また、技術の学習で行う問題解決の流れを見開きで表記されており、ガイダンスでは漫画形式で問題解決の流れが示され、各内容では「問題の発見と課題の設定」「構想と設計（計画）」「製作（制作、育成）」「成果の評価と改善」で統一的に示されている。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「技術と私たちの未来」「学習を振り返ろう」という欄が設けられている。                 </p> <p>                     &lt;技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫&gt;                      ○各内容の「社会と発展と技術」では、技術の「可能性」と「課題」について示されており、これからの技術とその活用について考えさせるよう工夫されている。                      ○各内容のワークシートに、「技術とSDGsとの関連」について考えさせたり、「SDGsの実現に向けてどのようにかかわっていたか」振り返らせたりするよう工夫されている。                      ○巻末の「命を守る防災、医療・介護の技術」では、自然災害や病気・けがなどについて、3年間で学んだことを生かし、解決策について考えさせるよう工夫されている。                 </p> <p>                     &lt;よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫&gt;                      ○各内容の最終章では、学習内容から技術の見方・考え方を働かせて社会とのつながりについて考慮し、新しい技術の開発と持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。                 </p>	
資料	<p>                     ○実習例が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。                      ○既存の製品を調べて技術の見方を働かせるためのワークシート、問題解決について技術の見方・考え方を基に振り返るためのワークシートが掲載されている。                      ○技術に携わる人が「Interview」として紹介され、仕事内容や仕事に就いたきっかけが掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。                      ○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○書体はUD書体が使用されている。また、重要語句は(ゴシック体)太字にして、表記のメリハリがつけられるよう工夫されている。さらに、カラーユニバーサルデザインに関して、校閲を受け、人によって受ける情報に差が出ないように配慮されている。                 </p>	
総括	<p>                     ○各内容は、「基礎・基本」、「問題解決」、「技術と私たちの未来」のまとまりで構成されている。                      ○「技術の出口」では、社会の問題に技術で対応するために、様々な技術を組み合わせた考え方を深められるよう工夫されている。                 </p>	

## 技術・家庭科（技術分野） 調査資料 2

### ○分量について

	内容	東書	教図	開隆堂
1	総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	305	339	302
2	QRコードの数（※「教図」は別冊も含む）	136	61	113

### ○項目別ページ数について

#### < A 材料と加工の技術 >

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	生活や社会を支える材料と加工の技術	27	19	22
(2)	材料と加工の技術による問題の解決	15	31	48
(3)	社会の発展と材料と加工の技術	9	4	4

#### < B 生物育成の技術 >

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	生活や社会を支える生物育成の技術	15	13	18
(2)	生物育成の技術による問題の解決	15	23	20
(3)	社会の発展と生物育成の技術	9	4	4

#### < C エネルギー変換の技術 >

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	32	22	28
(2)	エネルギー変換の技術による問題の解決	22	32	16
(3)	社会の発展とエネルギー変換の技術	6	4	4

#### < D 情報の技術 >

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	生活や社会を支える情報の技術	20	18	34
(2)	ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	18	28	16
(3)	計測・制御のプログラミングによる問題の解決	18	22	12
(4)	社会の発展と情報の技術	6	4	4

### ○キャリア教育との関連にかかわる箇所と例

東書	33 技術の匠 プロダクトデザイン 建設家 文具メーカー 農福連携 林業 自動車部品メーカー 化学工業メーカー メタバース ボディシェアリング 学んだことを社会に生かす
教図	21 技ビト 先輩からのメッセージ 木工作家 盤師 水産技術 養豚農家 電動車椅子 整備サポート 筋電義手 音声合成技術 日本の技術を支える人々の想い
開隆堂	7 家具 造船 栽培・飼育・養殖・林業 アシストギア トイレ用リモコン ロボット Toy プログラミング教材 Interview

### ○企業などとの連携にかかわる箇所と例

東書	31 持続可能な未来を目指して 未来を創る技術による問題解決 燃料自動車 新幹線 発電エネルギー問題 自動販売機 チャットボット 自然災害に備える AI ボディシェアリング
教図	23 建築技術 町工場技術 環境調節の技術 選抜育種 水産生物の飼育 編む技術 電気の安定供給 ロボット メタバース 生体認証 ドローン 宇宙から水産業・農業を支える
開隆堂	22 自動運転技術・ナビゲーションアプリ等 企業の製品開発 CAD 3Dプリンタ CLT 完全養殖 品種改良 複合飼育 酪農教育ファーム 地域の公的機関や教育機関、企業 エネルギーの有効利用 フィルタリング オープンソース

### ○安全指導にかかわる箇所（※安全にかかわるマークの数）

東書	19 作業 工具 機械 塗装 農薬 飼育 水産生物 電気機器 情報の学習
教図	47 実習 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 情報セキュリティ
開隆堂	25 作業 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検

### ○その他

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	題材数	15	15	14
(2)	製作品の例示数	12	18	32
(3)	観察・実験、見学、調査・研究の例示数	187	157	178
(4)	技術にかかわる倫理観(知的財産、生命倫理、情報モラル等)について取り上げている箇所数	27	33	48

## 技術・家庭科（家庭分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにするため、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</b>                      ○調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識及び技能を生徒自らの生活に生かすことができるようにするために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○挿絵・写真・図表等、資料と本文の関係及び資料のレイアウトには、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○家庭分野における学習方法の特質である衣食住などに関する実践的・体験的な活動を安全かつ効果的に進めるために、どのような工夫が見られるか。 ○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;"><b>新しい技術・家庭 家庭分野</b> <b>自立と共生を目指して</b></p>	<p style="text-align: center;">2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○「いつも確かめよう」で基礎的な技能がまとめて掲載され、基礎的な知識・技能が習得できるように工夫がされている。                  ○各編の最後に「学習のまとめ」、「大切な用語の確認」が掲載され、学習の振り返りができる構成になっており、基礎的な知識・技能が習得できるように工夫がされている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○小学校で学んだことが示してあり、学びの系統性が一目で分かるようになっており、各編の導入では、課題設定が記入できるように工夫がされている。                  ○家庭分野の見方・考え方の例が示してあり、問題解決に生かすことができるように工夫がされている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○自分自身の生活を振り返ったり、自分の考えを深めたりする場面が多く設けられており、生活に生かそうとする態度を育成できるように工夫がされている。                  ○各章末に学習のまとめ「生活に生かそう」が設けられており、主体的に学習に取り組む態度の育成ができるように工夫がされている。                  ○教科書の最後に「選択」が設けられており、これまでの学習を基によりよい生活を創造しようとする態度を養うための工夫がされている。</p> <p><b>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</b>                  ○実習や生活で必要となる基礎的な技能が分かりやすく掲載されている。                  ○選択できる実習例が多く掲載されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○本文と資料は「資料マーク」で区別され、ページ下には学習内容の関連豆知識を「せいかつメモ」として記載され、レイアウトが工夫されている。                  ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ、コンピュータを用いたワークシートやシミュレーションや思考ツール等、学習効果を高めるための工夫がされている。                  ○基礎的・基本的な実習例のほか、生徒の実態に合わせて資料を選択することができるように工夫がされている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○見開きごとに「目標」と「学習課題」が掲載されている。                  ○実習例では写真や図を使用し、安全・衛生の注意事項にマークを表記している。食物アレルギー物質を含む食材には記号が表記されている。                  ○ユニバーサルデザインフォントや、色彩特性に配慮されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○ガイダンス後、B(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)、A(家族・家庭生活)の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。</p>	



書名 項目	<p style="text-align: center;"><b>技術・家庭 家庭分野</b> <b>暮らしを創造する</b></p>	<p style="text-align: center;">6 教 図</p>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きごとに、「見つめる」「見つめてみよう」「学ぶ」「振り返る」の4段階で構成され、問題解決的な学習を進めれば知識・技能が習得できるように工夫がされている。</li> <li>○学習のまとめりごとに「学習の振り返り」が掲載され、学習の振り返りができる構成になっており、基礎的・基本的な知識・技能が習得できるように工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実習題材では中学生に身近なレシピを多数示してあり、家庭生活につながるよう工夫がされている。</li> <li>○自分ごととして捉えられる内容の導入から始まり、問題解決的な学習の流れを明確にするような工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分の課題を見つけ工夫し生活する」ための実践例が多く記載されており、実践しやすいように工夫がされている。</li> <li>○学習内容に関わりのある人からのメッセージやインタビューを紹介し、QRで動画も視聴できるなど、社会とのつながりについて考えられるように工夫がされている。</li> <li>○問いかけが多く設けられており、自分の生活から課題を見つけるきっかけになるように工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実態に応じて活用できるように、様々な実習例が分かりやすく掲載されている。</li> <li>○他領域と関連付けた実習例が多く掲載されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文と資料はマークで区分されて、視覚的な資料を掲載するなどレイアウトに工夫がされている。</li> <li>○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ、コンピュータを用いたワークシートや計算ツール、食品シールの付録等、学習効果を高めるための工夫がされている。</li> <li>○調理の実習例では、食物アレルギーに対応した代替レシピが記載され、生徒の多様性に沿った工夫がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二次元コードの横にデジタルコンテンツの内容が表記されている。</li> <li>○実習例では写真や図を使用し、衛生の注意事項にマークを表記している。食物アレルギー物質を含む食材には下線が記され、代替食材も記載されている。</li> <li>○色遣いや図の見やすさ等、ユニバーサルデザインに配慮されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンス後、A(家族・家庭生活)、B(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。</li> </ul>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;"><b>技術・家庭 家庭分野</b> <b>自立しともに支え合う生活へ</b></p>	<p style="text-align: center;">9 <b>開隆堂</b></p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○「調理の基礎」や「製作の基礎・基本」で基礎的な技能がまとめて掲載され、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫がされている。                  ○内容のまとめりに「学習のまとめ」が掲載され、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫がされている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○タイトルで何を学ぶのかが示され、科学的根拠に基づき、視覚的に理解しやすいようにまとめられており、学習の見通しがもてるように工夫がされている。                  ○興味・関心・疑問から、人やもの、事柄と対話し課題解決に向かう力を培えるように工夫がされている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○ロールプレイングや触れ合い体験、高齢者インタビューや実際の中学生の取組や地域の取組など、人との関わりについて考えることができるように工夫がされている。                  ○各章末に学習のまとめを設けており、その中で「やってみたい、もっと知りたい、深く考えてみたい」と感じさせるように工夫がされている。                  ○生活の中での課題を考える場面が多く設定されており、自身の課題を見つけ主体的に取り組めるように工夫がされている。</p> <p><b>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</b>                  ○実習例だけでなく、個に応じて深められる内容が掲載されている。                  ○資料が豊富で発展的な学習につながるような工夫がされている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○本文と資料は「参考マーク」で区別され、奇数ページの右上に学習内容の関連写真や名称、各ページ下には豆知識が掲載され、レイアウトに工夫がされている。                  ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツが参照でき、基礎縫い動画は左利きの生徒にも対応し、学習効果を高めるための工夫がされている。                  ○科学的な見方・考え方が示してあったり、統計資料やグラフを用いて説明の根拠が示してあったりして、学習効果を高めるための工夫がされている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○見開きごとに「学習の目標」が記載されている。                  ○調理実習例では写真や図を使用し、衛生の注意事項のマークを表記していたり、食物アレルギー物質を含む食材には黄色を付したりして注意を促す表記がされている。                  ○読みやすい文章や書体、大きさ、カラーバリアフリーに配慮されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○ガイダンスの後、A(家族・家庭生活)、B(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)の順の内容の配列になっており、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。</p>	

## 技術・家庭科（家庭分野） 調査資料 2

### ○分量について

内容	東書	教図	開隆堂
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	298	296	314
2 QRコードの数	144	73	91

### ○項目別ページ数について

#### <A 家族・家庭生活>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 自分の成長と家族・家庭生活	2	2	4
(2) 幼児の生活と家族	34	31	36
(3) 家族・家庭や地域との関わり	16	21	26
(4) 家族・家庭生活についての課題と実践	2	2	2

#### <B 衣食住の生活>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴	6	12	16
(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事	16	20	10
(3) 日常食の調理と地域の食文化	52	56	56
(4) 衣服の選択と手入れ	24	22	26
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作	20	20	16
(6) 住居の機能と安全な住まい方	18	20	22
(7) 衣食住の生活についての課題と実践	3	4	5

#### <C 消費生活・環境>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 金銭の管理と購入	14	24	10
(2) 消費者の権利と責任	8	16	16
(3) 消費生活・環境についての課題と実践	1	2	1

### ○学習指導要領との関連について

内容	東書	教図	開隆堂
(1) ガイダンスに関する内容のページ数	8	8	14
(2) 日本の生活文化に関する内容の掲載箇所	16	30	22
(3) 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容の掲載箇所	25	6	5
(4) 問題解決的な過程を重視した学習の充実を図る内容の掲載箇所	84	143	93
(5) 言語活動の充実を図る内容の掲載箇所	103	80	61

### ○配慮事項について

内容	東書	教図	開隆堂
(1) キャリア教育についての配慮がされている箇所	17	13	18
(2) コンピュータや情報通信ネットワークの活用を図った箇所	144	73	91
(3) 防犯意識を高める工夫がされている箇所	8	12	14
(4) 特別支援の観点への配慮がされている箇所	教科書全体	教科書全体	教科書全体

### ○その他

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 題材数	19	11	27
(2) 製作品・調理実習の例示数	14・53	7・52	11・50
(3) 観察・実験、見学、調査・研究の例示数	60	66	56
(4) 安全・衛生に配慮する項目を取り上げている箇所数	13	45	27

## 外国語科（英語）調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発行者名</span>
項目		
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解することができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p>○聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○単元などの時間のまとまりごとに、五つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるよう、どのような工夫をしているか。</p> <p>○文、文構造及び文法事項について、言語活動と効果的に関連付けて取り上げており、用語や用法の指導に偏ることのないよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○必要となる語彙を言語活動と効果的に関連付けて取り上げられており、実際のコミュニケーションにおいて活用されるよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○図書の内容と一体のものとして、視聴覚教材などが相互に適切に関連が図られるよう、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真等の資料にはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○字体、記号・符号、用語等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○文字の大きさ・行間等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）※学習者用デジタル教科書について記述する。	

<p>書名 項目</p>	<p>NEW HORIZON English Course</p>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各単元は「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」で構成されている。各「Part」の「Activity」をスモールステップで積み上げて「Unit Activity」へつなげ、統合的な言語活動として年3回の「Stage Activity」が設定されている。          ○「Read and Think」では3回視点を変えて読む「ラウンドリーディング」で英文を適切かつ効率的に読めるよう工夫されている。また、実生活に即した題材を通して、4技能の習得を図ることができるように「Real Life English」が設定されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○単元の「Preview」で目的や場面、状況を捉え、「Read and Think」では3段階読みで概要や詳細を理解、整理し、「Unit Activity」で表現につなげるよう構成されている。また、「Stage Activity」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばすよう構成されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○各単元の「Activity」で積み上げた表現を生かして、目的や場面、状況を踏まえた発信活動を行うよう構成されている。「Language Focus」や「デジタル用例辞典」では、言葉への興味・関心を高め、「ダイバーシティメモ」では多様な文化や価値観への気付きを促すなど、生徒の主体的な言語活動を支えるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○各「Part」の「Activity」で積み上げた表現を生かし、単元末の「Unit Activity」に向かって、目的や場面、状況を踏まえた系統的な活動ができるようになっている。また、いずれもパフォーマンス評価を行うことができるよう工夫されている。          ○どの「Unit」も音から導入して文字に向かう順序で4技能をバランスよく扱うよう工夫されている。また、小学校の学びを中学校につなげられるように、聞く、話す、読む、書く活動に何度も触れることができるよう工夫されている。          ○言語活動において必要な語彙が「Key Sentences」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」において、発信語彙が太字で表記されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、1年間の学習の流れが示され学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「語順カード」が掲載されており、絵・色・形で分類された単語カードをヒントに文が組み立てられるよう工夫されている。          ○単元ごとに、QRコードが掲載されており、単語やスライド、本文などがスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記 ・ 表現</p>	<p>○1年生ほぼ全編を通して手書きに近い独自のフォントを使用し、2年生以降は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を青色で併記している。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「Activity」を軸として、英語で伝え合う心豊かな体験を積み上げ、自分の言葉で他者とコミュニケーションできる喜びを実感できることに重点を置いている。積極的に世界とつながろうとする心を育てようとする内容となっている。          ○学習者用デジタル教科書では、スピードや再生方法を変えながら音声を聞いたり、マスク機能を活用したりするなど、個別最適な学びに取り組めるよう工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p>SUNSHINE SUNSHINE ENGLISH COURSE</p>	<p>9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各単元は「とびら」「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review and Retell」「Action」で構成されている。マンガ形式で提示された新出表現を、4技能を通して繰り返し学習することで使い方に慣れさせ、学期末の協働学習「Our Project」に繋げるよう構成されている。          ○「Power-Up」では、実生活に即した場面設定で4技能を伸ばせるよう工夫されている。また「Step」では発表のコツに関することや簡単な表現の言い換え、簡単なディスカッションの進め方など英語学習における重要な技能が系統的に扱われている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○単元の「Tuning in」で題材の予備知識を習得し、各「Part」で題材内容について考え、「Review &amp; Retell」で内容を整理し、「Action」で自己表現活動につなげるよう構成されている。また、「Our Project」では、「Program」の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○「Our Project」に向けて、スモールステップで基礎・基本の着実な定着を促すよう構成されている。「Our Project」は協働学習を軸としており、対話を通して課題解決に向かう活動が設定されている。単元で十分に扱えない英語表現や異文化情報を深掘りした「Coffee Break」を新設し、生徒の異文化理解を深めるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○目的や場面、状況を大切に言語活動ができるようになっている。本文の内容を振り返る「Review &amp; Retell」では、相手意識や目的意識をもった表現活動につながり、また「Action」や「Our Project」など単元末の活動ができるよう工夫されている。          ○「とびら」の目標確認から始まり、「Scenes」で新表現が学習でき、「Tuning in」で題材について考え、まとめにつなげる仕組みになっている。その際に、「Step」で簡単な表現への言い換えなども学習できるよう工夫されている。          ○言語活動において必要な語彙が「Expression Box」「Word Box」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」において、発信語彙が太字で表記されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、3年間を通した目標と、1年間の学習の流れが示されており、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には絵や単語がかかれた「アクションカード」が掲載され、ペア学習や会話活動時に使えるよう工夫されている。          ○単元ごとにQRコードが掲載されており、本文の音声や単語、アニメーションをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記 ・ 表現</p>	<p>○1年生前半は小学校と同じ手書き書体、後半は手書きに近い独自のフォントを使用している。2、3年生では一般的な書体を使用している。各学年共通で、アクセントは各単語に赤色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「Our Project」を軸として、習得した知識・技能を使って自ら考え行動し、目標に向かって自己表現することに重点を置いている。学びに向かう力と豊かな人間性を育て、国際社会に寄与する意識を育てようとする内容となっている。          ○学習者用デジタル教科書では、白黒反転やルビふりなど生徒の多様なニーズへ配慮され、リンク機能を活用し、インターネットのサイトに容易にアクセスできるよう工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p>NEW CROWN English Series</p>	<p>15 三省堂</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各単元は「とびら」「Part」「Side Story」「Small Talk Plus」「Goal Activity」で構成されている。「Goal Activity」に向けて段階的に学びを積み重ね、習得した技能を統合して年3回の「Project」で総合的な英語力が習得できるよう工夫されている。          ○「Take Action」では、「Talk」「Listen」「Read」の3つの領域があり、実際の場面や状況に応じた即興のやり取りや、会話を継続する活動、必要な情報をつかむ活動、情報を整理して概要や要点を捉える活動が組み込まれている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○単元の「Part」では、意見・説明・物語文で構成された「Scene」で情報を整理し、「Goal Activity」では、目的や場面、状況に応じた自己表現活動につなげるよう構成されている。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○「Goal Activity」に向かうまでに、目的や場面、状況に応じた表現を学び、伝える内容を考え、使える語句や表現を身に付け、適切な文章で書くことができるなど、4技能がバランスよく身に付くよう構成されている。教科書の題材に関連した動画を「Lesson」ごとに設け、異文化に対する理解や学びを深めるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○各単元の最初のページの「Lesson Preview」や「Small Talk」では、身近なことについて、伝え合う場面が設けられている。単元末の「Goal Activity」では構成や話し方を工夫して取り組むことができるよう配慮されている。          ○「Talk」では特有の表現を使ってやり取りし、「Listen」では、概要や要点を聞き取り、「Read」では必要な情報を読み取ることができ、巻末資料の中に各活動の充実を図るためのロールプレイシートやスクリプトがある。          ○言語活動において必要な語彙が「Word Bank」「Tips!」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」において、発信語彙が太字で表記されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、この教科書の「しくみと学び方」が示されており、1年間の学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「会話表現」が掲載され、会話に有効な表現が紹介されている。          ○単元ごとにQRコードが掲載され、単語や本文の音声、アニメーションをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記 ・ 表現</p>	<p>○1年生全編を通して手書き文字に近い独自のフォント、2年生以降は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に黒色で付記し、発音記号は巻末に青字で掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を併記している。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「Project」を軸として、言葉を使って表現・理解を深めて伝え合い、多様な学び方を通じた考える力の育成に重点を置いている。国際社会に対応できる資質・能力と豊かな人間性を育てようとする内容となっている。          ○学習者用デジタル教科書では、白黒反転、総ルビ表示など特別支援教育の視点で配慮され、フリーハンドペンやふせんなど紙の教科書と同様に学べるよう工夫されている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">ONE WORLD English Course</p>	<p style="text-align: center;">17</p> <p style="text-align: center;">教出</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元は「扉」「Part」「Task」「Grammar」で構成されている。「Grammar」ページの「How to Use」で、文法の解説と整理、対話練習が設定されている。学期末の「Project」では、これまで学んできた知識・技能を活用できるよう工夫されている。</li> <li>○「Tips」では4技能の技能を高めるためのコツを扱い、各技能の本質に関わるアドバイスが提示されている。「Useful Expressions」では日常的な場面を設定し、「生きて使える英語」に直結する表現を学ぶことができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の「Part」で言語材料を習得し、「Think &amp; Try!」と「Read &amp; Try!」を読んで理解を深め、「Task」で自己表現活動につなげるよう構成されている。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元末に「Task」と「Grammar」を設置して、各単元で学習した内容の確実な定着を促すよう構成されている。「Project」では、学んだ知識や表現を生かし4技能を統合的に活用し課題解決に取り組めるよう構成されている。生徒がアクセスできる「まなびリンク」では、生徒の多様な興味や学びを促すよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生きて英語」の習得に向けて、「即興的なやり取り」を伸ばす「Activity Plus」や4技能の力を高めるためのコツ「Tips」が扱われている。また、「Useful Expressions」の活動で日常的な場面設定での表現を学習できるよう工夫されている。</li> <li>○「Think &amp; Try!」では、内容理解を深めた本文を利用してやり取りの練習ができるようになっている。また「Task」では、話したり、書いたりする活動を通じて、自分の考えなどを発表し、クラスメイトと共有する活動ができるよう工夫されている。</li> <li>○言語活動において必要な語彙が「Tool Kit」「Tips」等に取り上げられている。新出語句を扱う「Word &amp; Phrases」において、発信語彙が太字で表記されている。</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には1年間の学習の流れが示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、学習到達目標を自分で確認することができるよう「Can-Do 自己チェックリスト」が掲載されている。</li> <li>○単元ごとにQRコードが掲載され、本文や単語の音声をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
<p>表記 ・ 表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生前半は独自の手書き風書体、後半はブロック体を使用している。2年生以降はローマン体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を併記している。</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「Project」を軸として、明確な目標を意識しながら主体的に学び、考え、伝え合うことに重点を置いている。学びの力で人と社会を未来へつなぐ力を育み、英語を使って世界で生きていく人材を育くもうとする内容となっている。</li> <li>○学習者用デジタル教科書では、録音・再生機能を設けられており、自分の声を録音して、ネイティブ音声と比較することができるよう工夫されている。</li> </ul>	



書名 項目	Here We Go! ENGLISH COURSE	38 光村
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元は「扉」「Part」「Goal」で構成され、3年間ひと続きのストーリーを中心に学ぶようになっている。また、ラウンドシステムの授業にも対応できるよう構成されている。スパイラルに学習しながら統合的な活動「You Can Do It!」につながられるよう工夫されている。</li> <li>○実社会の言語使用場面で役立つ力を身に付ける「Daily Life」では、領域統合型の活動も設定されている。また、自分の言葉で表現する力や、実社会で役立つ即興力を継続的に養えるよう、「Let's Talk!」や「Story Retelling」が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の「Part」で目的や場面、状況を捉え、各「Part」を読んで理解を深めた後、情報整理、発表の「Goal」で構成されている。また、「You Can Do It!」では、「Unit」の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間のストーリーを読み進めることで、英語の使用目的や場面を理解し、話題を自分事にし、生徒の主体的な発信につながりやすくするよう構成されている。「Idea Hunt」や「TIP」では、生徒が本文を活用しながら自分なりに表現できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や場面、状況に応じて、英語を聞くことを重視し、各単元では、本文に加え、「Part」や「Goal」にも豊富な聞く活動が設定されている。また、段階的に文字量や扱う文種を増やし、豊かなインプットの機会を確保できるよう配慮されている。</li> <li>○各単元で、基本文に関連した即興的なやり取りを練習できる活動が設けられている。「Let's Talk!」では、即興的なやり取りの力を継続的に高め、「You Can Do It!」では、発表活動を通してスピーキング力を育てられるよう工夫されている。</li> <li>○言語活動において必要な語彙が「Key Phrases」「Key Words」等に取り上げられている。新出語句を扱う「Words」において、発信語彙が太字で表記されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には、教科書の構成と、3年間を通しての到達目標が示され、1年間の学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「Let's Talk!」が掲載されており場面に応じて会話する力が付けられるよう工夫されている。</li> <li>○単元ごとにQRコードが掲載され、本文の音声や単語、アニメーション、実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生前半は独自の手書き体、後半はブロック体とセリフ体を併用して2年生以降につなげている。1年生では、アクセントは各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を青色で併記している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「You Can Do It!」を軸として、互いの違いを尊重し、他者と協働しながら確かな英語の力を育むことに重点を置いている。ラウンドシステムにも対応し、よりよい未来を切り拓く力を身に付けた自律的学習者を育もうとする内容となっている。</li> <li>○学習者用デジタル教科書では、教科書のストーリーを映像化した実写ドラマが用意されているほか、活動の内容に関連したスピーキングテストに取り組めるよう工夫されている。</li> </ul>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>BLUE SKY English Course</p>	<p>6 1</p> <p>啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元は「とびら」「Part」「Read / Listen &amp; Think」「Think &amp; Speak / Write」で構成され、各学期末には技能統合型の言語活動として「Project」が設定されている。ラウンドシステムにも対応しており、スパイラルに学べるよう工夫されている。</li> <li>○各技能領域に特化した活動の「Let's」シリーズでは、各技能領域の力を実生活に即し場面や状況設定で学習できるよう工夫されている。また、各「Part」の「Enjoy Chatting」では即興で話し、伝え合う力を育成できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の「Part」で目的や場面、状況を捉え、「Read / Listen &amp; Think」でテーマに沿った英文を読んだり聞いたりして自分の考えをもち、「Express Yourself」で自己表現する機会が設けられている。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元で4技能の課題に取り組むことを通して、基礎・基本が定着しやすく、技能統合型の言語活動「Project」に取り組みやすくするよう構成されている。「Notes」などの解説を充実させ、生徒の興味・関心や異文化理解を深めることができるよう工夫されている。デジタルコンテンツを活用し、自律的な学習を促すよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の最初のページの「とびら」では Input と Output のそれぞれの目標を「Unit Goal」に示している。次の各「Part」では知識・技能の定着を図り、最終的に自分の意見を表現する活動につなげられるよう工夫されている。</li> <li>○各単元の「Express Yourself」では、ここまでの言語活動を踏まえて、自分の感想や考えを表現する力が身に付くよう工夫されている。また、「Unit」の4技能の活動でメモを基に発表したり、まとまりのある文章を書いたりできるようになっている。</li> <li>○言語活動において必要な語彙が「Tool Box」に取り上げられている。新出語句を扱う「Words」において、発信語彙が太字で表記されている。</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には、教科書の使い方が示されており、1年間の学習の進め方が分かるよう工夫されている。巻末には「CAN-DO List」が掲載されており、学習の達成度を自己評価できるよう工夫されている。</li> <li>○単元ごとにQRコードが掲載され、単語や本文の音声、アニメーションなどがスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
<p>表記 ・ 表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生はUDフォント、2年生以降は Century Schoolbookを使用している。1年生はアクセントを各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセントと発音記号を併記している。</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「Project」を軸として、スパイラルな学びを通して定着した力を活用して即興力を養い、自分の考えを表現することに重点を置いている。ラウンドシステムにも対応し、持続可能な社会の担い手となるための資質・能力を育もうとする内容となっている。</li> <li>○学習者用デジタル教科書では、白黒反転や読み上げ機能など、学習支援機能が搭載されているほか、音声や動画の速度変更機能で各自のペースで学習が進められるよう工夫されている。</li> </ul>	

外国語科（英語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	170	182	188	182	194	166
	2年	158	166	172	182	194	170
	3年	158	166	172	182	194	154
2 新出総単語数	1年	993	997	1030	1194	1268	1130
	2年	589	663	860	975	671	801
	3年	717	577	933	1024	634	644
	合計	2299	2237	2823	3193	2573	2575

○領域別教材数等（言語活動）について

※ 2は3の合計 3③は言語活動と本文を合わせた教材数

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館	
1 単元数 (Lesson, Program, Unit等)	1年	27	31	26	33	28	26	
	2年	21	27	25	36	29	26	
	3年	19	25	25	34	21	19	
2 総教材数	1年	156	195	179	189	189	240	
	2年	162	186	160	196	186	249	
	3年	142	180	150	156	168	197	
3 領域別教材数	① 主に聞くこと	1年	38	64	61	73	71	86
		2年	31	62	58	72	68	79
		3年	29	54	58	55	55	62
	② 主に読むこと	1年	43	39	37	48	32	24
		2年	65	41	38	57	37	49
		3年	55	38	32	46	39	40
	③ 主に話すこと【やり取り】	1年	31	15	33	38	39	59
		2年	31	10	19	32	42	45
		3年	22	22	20	20	29	35
	④ 主に話すこと【発表】	1年	8	38	15	14	19	14
		2年	17	35	14	18	10	16
		3年	19	28	11	22	16	14
	⑤ 主に書くこと	1年	36	39	33	16	28	57
		2年	18	38	31	17	29	60
		3年	17	38	29	13	29	46

○文種別教材数（本文）について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 物語・詩	1年	1	1	3	3	1	1
	2年	4	1	2	2	1	2
	3年	0	1	1	2	1	1
2 説明文・意見文・感想文	1年	8	6	10	4	4	10
	2年	10	8	18	10	4	17
	3年	10	17	7	7	6	12
3 対話文・スキット	1年	23	34	18	25	27	28
	2年	12	28	18	22	24	17
	3年	9	16	18	16	15	11
4 その他 (伝言・手紙・メール文を含む)	1年	6	4	15	8	10	4
	2年	18	14	11	13	16	12
	3年	21	12	13	15	18	12

○その他

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 世界の人々や日本人の日常生活や風俗習慣に関する題材	①ニュージールランドの学校生活、ハワイでの生活、世界の年末年始 ②シンガポールへの旅行、日本と外国の食文化、アメリカへのホームステイ、ユニバーサルデザイン ③日本のポップカルチャー、防災、国際協力	①日本の食文化、バジャマデー、世界の果ての通学路、世界の年末年始、フィンランドでの生活 ②世界の屋台 ③日本の弁当文化、睡眠、パラスポーツ、手話、ロボット開発、イグノーベル賞	①イギリスでの生活、アメリカの学校生活、中華街、標識・記号・バスケットボール、防災 ②ピーターラビット、中国の文化、シンガポールの姉妹校 ③インド映画、公平、行動心理、インドの言語	①オーストラリアの学校生活、中華街、標識・記号・ピクトグラム、北海道の自然 ②しまなみ海道、松山市、補助犬、ユニバーサルデザイン、サンタ・ラン、ジェスチャー、手話 ③バンクーバーでの生活、ドギーバッグ	①アメリカの学校生活、世界の屋台、日本の年末年始 ②防災、盲導犬、ボランティア活動 ③京都への修学旅行、AIテクノロジー、ロボット開発、アフリカの女性教育、ノルウェーの選挙	①カナダでの生活、ニューヨークの年末年始 ②防災、食の多様性 ③だまし絵、動物との共存、ユニバーサルデザイン
2 世界や日本の伝統文化に関する題材	①外国人落語家、落語 ③風呂敷	①日本食	①将棋、神社、漫画・アニメ、着物、茶道、旅館、そば、和太鼓、昔話 ②書道、折り紙、落語、中国茶 ③漫画とアニメ	①中華料理 ②俳句、ハロウィーン、お盆、鎌倉の大仏、日本の城、落語、風呂敷、餅、こたつ、将棋、獅子舞、富士山、日本料理 ③和食	①日本の夏祭り ②絵文字、かるた、食品サンプル、アイヌ文化	①和菓子 ②青森ねぶた祭、台湾の平溪天燈説、ペルーのインティ・ライミ、長岡まつり大花火大会、たい焼き、花見
3 世界の地理や歴史に関する題材(平和に関する学習を含む)	①イギリス、世界の諸問題 ②時計の歴史、世界遺産 ③原爆、ガンディー	①オーストラリア ②アフリカ甲子園、日本とトルコの友好、原爆、佐々木禎子 ③バスケットボール、チョコレート の歴史、マララ・ユスフザイ、中村哲	②オーストラリア、シンガポール ③原爆、佐々木禎子、マーサー・キング・ジュニア、飢餓	②グラント・キャニオン、アンテロープ・キャニオン ③中村哲、原爆、人種差別、児童労働	②シンガポール ③南アフリカ、広島平和記念公園、原爆、杉原千畝、人種差別	①ハワイ、ロンドン ②シンガポール、世界遺産 ③原爆、佐々木禎子、モザンビークの貧困問題
4 自然科学に関する題材	①世界の水問題 ②アラスカの問題 環境問題 ③エシカルファッション、絶滅危惧種、エネルギー問題	②バンフ国立公園、生物をヒントにした技術、動物の生態 ③野生動物の命、海のごみ問題	②世界の水問題 ③環境問題、自然から学ぶ	①SDGs ②環境問題、地球温暖化、再生可能エネルギー ③野生動物の命、宇宙のごみ問題	③絶滅危惧種、環境問題、SDGs	①海洋ゴミ問題 ③動物保護、気候変動、地球温暖化
5 最長読み物教材総単語数( )は付録読み物	①239 ②397 ③556	①247 ②326 ③376 (1384)	①190 (217) ②304 (355) ③488 (299)	①217 (235) ②516 (541) ③488 (605)	①112 (154) ②377 (325) ③516 (466)	①332 ②540 ③930
6 スピーチの取扱い	①6 ②6 ③4	①6 ②11 ③11	①9 ②8 ③8	①12 ②8 ③6	①7 ②8 ③4	①5 ②6 ③10
7 文法事項の説明に関するページ数	①11 ②7 ③6	①10 ②8 ③8	①10 ②10 ③10	①15 ②10 ③6	①7 ②8 ③5	①13 ②11 ③6
8 QRコードの数	①88 ②86 ③78	①78 ②71 ③67	①86 ②81 ③74	①69 ②76 ③62	①83 ②79 ③72	①72 ②70 ③51

※①は1年生、②は2年生、③は3年生を表している。

## 道徳科調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="font-size: 2em; margin: 0;">○○○○ ○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳的価値の意義及びその大切さなどを自分との関わりで理解させるために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めさせるために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度）を育成するために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現代的な課題についてどのように取り上げ、その解決に向けて考え続ける意欲や態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発達の段階に即し、ねらいを達成する上で、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えるために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実するために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習に関して、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲を喚起するために、読み物教材にはどのような工夫が見られるか。</li> <li>○効果的に活用するために、挿絵や写真、図などにはどのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の内容を把握しやすくさせるために、仮名遣いや用語などにはどのような工夫が見られるか。</li> <li>○主な記述（読み物教材など）と道徳科の内容項目との関係の示し方にはどのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新編 新しい道徳</h1>	2 東 書
内 容	<p><b>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ねらいとする内容項目がぶれないようにするために、全ての教材の冒頭に学習のテーマが設定されている。教材末尾の発問と呼応させることで、教材の全体を通して道徳的価値の意義について考えを深めることができるよう工夫されている。</li> <li>○全ての教材に自己を見つめるための発問が用意されている。多面的・多角的に考える力を育むため、一つの事象について複数の立場から考えさせる教材が配置されており、対話を通して問題解決を図ることができるよう工夫されている。</li> <li>○教材末尾の「考えよう」「見つめよう」の問いの後に、「ぐっと深める」の問いがあり、人間としての生き方を考えられるよう工夫されている。また、教科書の巻末資料の心情円を活用することで、自分の気持ちを可視化できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ問題」や「情報モラル」について、イラストや漫画、グラフ等を活用した教材を通して、考えが深まるよう工夫されている。</li> <li>○各学年に「生命の尊さ」に関する教材を配置し、防災教育と道徳を合わせた教材が掲載されている。</li> </ul> <p><b>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発達の段階を考慮して教材を配置することで、小学校との関連や学年間での連携を意識して取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>○各学年に、生徒が自分自身の成長と向き合い、思考が深まるよう教材の構成が工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての教材に考えたことを記入できる「つぶやき」が設けられ、記述した内容を基に、話し合いなどに活用できるよう工夫されている。</li> <li>○生徒に身近な題材やソーシャルスキルに関する教材を通して、考えを深めたり、広げたりできるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やポスター、グラフから考える教材や漫画を活用した教材、導入で教材の内容に関わる漫画や挿絵を見ながら考える教材など、多様な教材が掲載されている。</li> <li>○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解を促すよう工夫されている。</li> <li>○全ての教材に二次元コードがあり、朗読音声やデジタル心情円、教材の補足資料などを見ることができる。教材文と同じ内容の映像を視聴できる教材が掲載されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。</li> <li>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。</li> <li>○目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。巻末で、現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材と関連したテーマをより深く広く考えられるよう、発達の段階に応じた内容で、日常生活や他教科と関連させて生かせるよう工夫されている。</li> <li>○巻末に設けられている心情円で、自分の考えを可視化できるよう工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学道徳 とびだそう未来へ</h2>	<div style="text-align: center;">17 教出</div>
内 容	<p><b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材に設定された導入で学習の見通しをもち、道徳的価値を意識付けできるよう工夫されている。教材末尾の「学びの道しるべ」により、三つの問いを通して段階的に道徳的価値の意義について理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>○巻頭には話し合いを進めるためのポイントや考えを深めるための学習過程や方法を例示し、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。また、教材末尾には思考を促す問いが設定されている。</li> <li>○教材末尾の「学びの道しるべ」の問いを通して、これからの生き方について考えを深められるよう工夫されている。巻末に『『よりよく生きる』って、どういうことだろう?』を設け、自分の成長を実感し、課題や目標が見つけれられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ問題」「情報モラル」「生命の尊さ」について、多様な教材を通して、様々な視点から問題の本質について考えを深めていくことができるよう工夫されている。</li> <li>○各学年に災害や防災を題材とした教材が掲載され、日々の生活の中で、安全への意識を高められるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての学年に発達の段階に応じた取り組みやすさを重視した教材が掲載され、考え、議論する時間がとれるよう工夫されている。</li> <li>○各学年に小学校との関連や学年間での連携を意識した教材が扱われ、生徒の思考が深まるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材に適宜記入欄を設けることで、自分の考えをまとめ、それを基に話し合う言語活動を充実させるよう工夫されている。</li> <li>○「やってみよう」の活動では、直前の教材に関連した体験的な学習を通して、学びが深められるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考える時間を確保できる教材や、写真やポスター、グラフから考える教材、漫画や絵本を活用した教材など、多様な教材が掲載されている。</li> <li>○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解を促すよう工夫されている。</li> <li>○全ての教材に二次元コードがあり、教材解説や補足資料、心情メーターなどをウェブサイトで見ることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。</li> <li>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。</li> <li>○目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。巻頭末に現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材内容の理解がしやすい多様な教材が設定され、二次元コードから心情メーターを読み込むことで思考を可視化し、対話を促す工夫がされている。</li> <li>○ねらいとする道徳的価値について学べるよう「学びの道しるべ」が設けられている。</li> </ul>	

書名 項目	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 光村
内 容	<p><b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間の学習過程が分かる「てびき」が設けられ、教材を通して何を学ぶのか意識ができるよう工夫されている。課題の設定や中心となる発問により、道徳的価値の意義や意味について考えを深めることができるよう工夫されている。</li> <li>○自己を見つめ、友達と話し合いながら自分の考えを深めていく重要性が分かる第一教材が設定されている。教材末尾に「考えよう」の発問とは視点を変えた「見方を変えて」を設け、多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。</li> <li>○教材末尾の「考えよう」の問いを通して、教材の学びのテーマを意識し、授業の最後にもう一度振り返ることができるよう工夫されている。「つなげよう」では、日常生活や他教科と関連して考えることを通して、自分の考えが深まるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ」「情報モラル」について、生徒自身に関わる身近な問題を取り上げた教材を掲載するとともに、生徒が自ら問いを立て、考えられるよう工夫されている。</li> <li>○全学年に「防災」をテーマとした教材を掲載し、教材を通して過去に学び、生徒の防災意識を高められるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての学年で学びのポイントを示し、生徒が発達の段階に応じて主体的に学ぶことができるよう配慮されている。</li> <li>○各学年に小学校との関連や学年間での連携を意識した教材が扱われ、生徒の思考が深まるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他者との話し合いを通して、身の回りの当たり前を問い直し、新たな考えを生み出すことができるよう工夫されている。</li> <li>○対話を通して問題を解決するための段階を示し、道徳的価値に対する考えが深められるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やグラフから考える教材や漫画を活用した教材、自分の考えを書き込む教材など、多様な教材が掲載されている。</li> <li>○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解を促すよう工夫されている。</li> <li>○二次元コード付いている教材では、朗読音声や教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。</li> <li>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。</li> <li>○目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。巻末で、現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の内容に応じて、「見方を変えて」や「つなげよう」で他教科や日常生活につなげて自分のこととして考えられるよう工夫されている。</li> <li>○協働的な学びが実現できるように生徒が自ら問いを立て、考える教材が設けられている。</li> </ul>	



書名 項目	中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート	1 1 6 日 文
内 容	<p><b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材の冒頭に「学びのキーワード」を明示し、見通しをもち主体的に学習に臨めるよう工夫されている。教材末尾の「自分にプラスワン」の発問を通して、学んだことを前向きに生かし、道徳的価値を自分との関わりで理解できるよう工夫されている。</li> <li>○巻頭に対話的・協働的な学習場面が例示され、多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。教材末尾の「考えよう」の発問を通して、人間としての生き方について多様な意見が出せるよう工夫されている。</li> <li>○別冊の道徳ノートが付属しており、年間を通して使用することで自分の成長が実感できるよう工夫されている。話合いの過程で自分や他の生徒の考えを記入することができ、広い視野から自己を見つめられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての学年で「多様性の尊重」に関わる教材を掲載し、共生社会や人権教育、相互理解に関わる内容について、自他の尊重への意識を高められるよう工夫されている。</li> <li>○「いじめ問題」「情報モラル」「防災」に関する教材を複数配置し、考える機会を設けることで一人一人が自分事として捉えられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間で系統的・発展的な学習ができるように、各学年でテーマ（1年生「である」2年生「みつめる」3年生「ひらく」）が設定されている。</li> <li>○各学年に小学校との関連や学年間での連携を意識した教材が扱われ、生徒の思考が深まるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話合いの手法や整理方法を示した教材を掲載し、対話的・協働的な学びが実現できるよう工夫されている。</li> <li>○「学びを深めよう」のページでは、問題解決的な学習や体験的な学習を通して、考えを深めることで納得解を得られるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やポスター、グラフから考える教材や漫画を活用した教材など、多様な教材が掲載されている。</li> <li>○教材の場面理解を促す大小様々な挿絵や写真が掲載されている。</li> <li>○全ての教材に二次元コードがあり、朗読音声や心情メーター、思考ツールを活用でき、補足資料などをウェブサイトで見ることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。</li> <li>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。</li> <li>○巻末で学習指導要領の四つの視点（学びのキーワード）や他教科・領域との関連が示されている。目次と巻末で現代的な課題等との関わりが示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○別冊の道徳ノートには自分の意見や話合いの内容を記入することができ、それらを通じて、自らの成長を実感し、協働的な学びを積み重ねられるよう工夫されている。</li> <li>○二次元コードを活用し、思考を可視化するツールを設けられている。</li> </ul>	

書名 項目	<b>新版 中学生の道徳 明日への扉</b>	224 学 研
内 容	<p><b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「考えを深めるための4つのステップ」に、道徳的価値を自分との関わりで理解ができるよう、学びのヒントとして具体的な展開例を示している。テーマについて、自ら関心を持ち、学びが深められるよう発問が工夫されている。</li> <li>○巻頭に多面的・多角的に考えを深める方法の例示があり、話し合いを自己の生き方につなげられるよう工夫されている。「クローズアップ」に、教材に関連した様々な視点からの情報などを扱い、多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。</li> <li>○教材の後に適宜「深めよう」があり、対話的な活動を通して道徳性の育成につながるよう工夫されている。巻末には「未来への扉」を設け、1年間を振り返り、今年度の学びを次年度へつなげる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様性を大きなテーマとし、様々な視点で考えられる教材が掲載され、多様な考えを引き出せるよう工夫されている。</li> <li>○「情報モラル」や「防災教育」、「いじめ問題」に関する教材を各学年で掲載しており、一人一人が自分事として考えられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発達の段階や学校生活等における生徒の問題意識を尊重し、自ら考え、議論する時間の確保ができるよう教材の構成や発問が工夫されている。</li> <li>○同じ内容項目を扱う教材を通して、生徒が自分の成長と向き合い、生徒の思考が深まるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材に適宜書き込み欄を設け、気が付いたことや考えたことを記入することを通して、思考を整理できるよう工夫されている。</li> <li>○「考えを深める4つのステップ」として問題解決的な学習の手立てを示し、生徒が考えを深める学習過程が工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やグラフから考える教材や漫画や紙芝居を活用した教材など、多様な教材が掲載されている。教材への関心や問題意識が高まる言葉が全ての教材の冒頭に記されている。</li> <li>○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解を促す工夫がされている。</li> <li>○二次元コードが付いている教材では、教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。</li> <li>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。</li> <li>○目次と教材冒頭と巻末で、学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。目次や教材冒頭で現代的な課題等との関わりが示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材を基に考え、周りの人と話し合いながら自分のこととして多面的・多角的に考えを深められるよう、現代的な課題について議論できる手立てが提示されている。</li> <li>○テーマについて考えを深められるよう系統的な学習内容が設けられている。</li> </ul>	

<p>書名 項目</p>	<h1>中学生の道徳</h1>	<p>2 3 2 あか図</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b>                  ○ねらいがぶれないようにするために学習活動がイメージできる授業の流れを意識した発問が設定されている。教材末尾の「自分との対話」は、教材での学びを踏まえて、道徳的価値を主体的に考えられるよう工夫されている。                  ○主体的な学びを促すための「自分を見つめて考える」と対話的な学びを促すための「いろいろな見方で考える」発問を通して、多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。                  ○教材末尾の「考えを深める」の問いを通して、自分の意見や考え方を更に深められるよう工夫されている。全ての教材に「自分との対話」を設け、教材での学びを踏まえて、自分自身や道徳的価値について問い直すことができるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b>                  ○「生命尊重」と「いじめ防止」を最重要課題と位置づけ、学年ごとに複数の教材を設定している。「いじめ問題」は、3年間を通して、学びが深まるよう工夫されている。                  ○「情報モラル」について、ネットいじめに関する内容について、様々な視点から考えられるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b>                  ○発達の段階に応じて、学びを広げて思考が深まる構造になるよう教材の構成や発問が工夫されている。                  ○各学年の教材では発達の段階に合わせて資料が配置され、生徒の思考が深まるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b>                  ○各学年で「オリエンテーション」のページを設け、どんな内容をどのように学ぶのか、学年によって目的をもって学びに向かうことができるよう工夫されている。                  ○「マイ・プラス」のページでは、役割演技や話し合いを取り入れて、生徒が様々な立場で想像したり考えたりできるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○読み継がれてきた教材や、写真やグラフから考える教材、漫画や詩を活用した教材など、多様な教材が掲載されている。                  ○教材を読み進める上で生徒の思考を促せるような挿絵や写真が掲載されている。                  ○二次元コードが付いている教材では、教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。                  ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。                  ○教材冒頭と巻末に、学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。巻末で現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○現代的な課題に向き合えるよう発達の段階に応じた教材の配置と、多面的・多角的に考えられる視点を持ち、学びを広げ、深められるよう工夫されている。                  ○各学年に役割演技や問題解決的な学習、体験的な学習などができるよう工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>道徳 中学校</h1>	2 3 3 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 科</div>
内 容	<p><b>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内容項目「4つの視点」を基に、発達の段階別にテーマを設けている。道徳的価値の理解のために、巻末の「ウェルビーイングカード」を活用し、自分との関わりについて考えられるよう工夫されている。</li> <li>○巻頭に道徳の授業の流れや今までの自分を振り返るページがあり、自己を見つめることができるよう工夫されている。「考えよう」を活用し、道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。</li> <li>○教材末尾の「深めよう」の問いを通して、自分の見方や考え方が変わったり深まったりすることが実感できるよう工夫されている。「ウェルビーイングカード」を活用することで、よりよく生きるための基盤となる資質を育成できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「情報モラル」について、身近に起こりうるネットトラブルから、どう身を守るかを喫緊の課題と捉え、生徒にとって現実味のある教材が工夫されている。</li> <li>○「いじめ問題」については、学校生活の中で、「いじめ」に陥りやすい場面を掲載しており、生徒が自分事として捉えられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生は自己理解、2年生は自己啓発、3年生は自己実現について、それぞれのテーマに向き合う課題が設定されている。</li> <li>○教材の配置を工夫し、発達の段階や学校生活及び他教科との関連で、組み換えができるよう配慮されている。</li> </ul> <p><b>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他者との話し合いを通して、当たり前を疑い、深く考えることができるような視点がもてるよう工夫されている。</li> <li>○「思考」を重視した授業展開へと転換をするために、自分自身への「問い」から、話し合いをもとに課題解決ができるよう発問が工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やグラフから考える教材や動画や漫画を活用した教材、自分の考えを書き込む教材など、多様な教材が掲載されている。</li> <li>○教材の場面理解を促す大小様々な挿絵や写真が掲載されている。</li> <li>○二次元コードが付いている教材では、教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。</li> <li>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。</li> <li>○教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。目次で現代的な課題等との関わりについて、様々なテーマで系統的に示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的・対話的で深い学びに対応できるよう、各学年の巻末の「ウェルビーイングカード」を活用し、意見を伝え合える環境になるよう工夫されている。</li> <li>○社会的・文化的な多様性、多面性を意識した教材や話題の工夫がされている。</li> </ul>	

道徳科 調査資料 2

○総ページ数

※「日文」は、道徳ノートが別冊となっている。

※ 目録掲載  
のページ数

学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
1年	202	209	191	178+42	190	194	163
2年	201	201	199	186+42	194	194	167
3年	201	201	199	194+42	198	194	171

○内容項目の配当数

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
自主、自律、 自由と責任	1年	2	2	2	2	2	4	2
	2年	2	2	2	2	2	4	2
	3年	2	2	3	2	2	4	2
節度、節制	1年	3	2	2	1	2	2	1
	2年	3	2	1	1	2	1	1
	3年	2	1	1	1	2	1	1
向上心、 個性の伸長	1年	1	2	1	2	1	1	1
	2年	1	2	2	1	1	1	1
	3年	1	2	2	2	1	1	2
希望と勇氣、 克己と強い意志	1年	1	1	1	1	2	2	2
	2年	1	1	1	2	1	2	2
	3年	1	1	2	1	1	2	2
真理の探究、 創造	1年	1	1	1	1	1	1	2
	2年	1	1	1	1	2	1	1
	3年	1	1	2	1	2	1	2
思いやり、感謝	1年	3	3	3	2	2	3	2
	2年	2	2	1	2	2	3	2
	3年	2	1	1	2	2	3	2
礼儀	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	1	1	1
	3年	1	1	1	1	1	1	1
友情、信頼	1年	2	2	1	2	3	3	2
	2年	3	2	3	2	2	3	2
	3年	2	2	1	2	2	2	2
相互理解、寛容	1年	2	2	2	2	1	2	2
	2年	2	2	3	2	2	1	1
	3年	2	2	3	2	2	1	2
遵法精神、 公德心	1年	2	1	3	2	2	3	2
	2年	2	2	3	1	2	2	2
	3年	2	1	2	2	2	2	2
公正、公平、 社会正義	1年	2	2	3	2	2	3	2
	2年	2	2	3	2	1	3	2
	3年	3	2	3	2	2	3	2
社会参画、 公共の精神	1年	2	1	1	2	1	2	2
	2年	2	2	1	2	2	1	2
	3年	3	3	1	3	2	1	1
勤労	1年	3	1	1	1	1	1	1
	2年	2	1	1	2	1	1	1
	3年	2	1	1	2	1	1	2
家族愛、 家庭生活の充実	1年	1	2	1	1	1	3	1
	2年	1	1	1	1	1	2	2
	3年	1	1	1	1	1	3	2
よりよい学校生 活、集団生活の 充実	1年	1	1	1	1	2	1	1
	2年	1	1	1	1	2	2	1
	3年	1	1	1	1	1	1	1
郷土の伝統と文 化の尊重、郷土 を愛する態度	1年	2	2	1	2	1	1	1
	2年	1	2	1	1	1	1	1
	3年	1	1	1	1	1	2	1

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	2	1	1	2	1	2	2
	3年	1	2	1	1	1	1	1
国際理解、国際貢献	1年	1	1	1	2	2	1	2
	2年	2	2	1	2	1	2	2
	3年	3	1	1	2	2	1	2
生命の尊さ	1年	3	3	3	3	3	3	2
	2年	3	2	3	3	3	3	2
	3年	3	2	3	3	3	5	1
自然愛護	1年	2	1	1	2	1	1	1
	2年	1	1	1	2	2	1	1
	3年	1	3	1	1	1	1	1
感動、畏敬の念	1年	1	1	2	2	1	1	1
	2年	1	1	1	1	1	1	1
	3年	2	2	1	1	1	1	1
よりよく生きる喜び	1年	2	2	2	1	2	3	2
	2年	3	2	2	2	2	4	2
	3年	2	2	2	2	2	3	1
※ その他	1年	0	0	2	0	0	2	1
	2年	0	0	2	0	0	2	1
	3年	0	0	2	0	0	2	1

※「その他」の数は、内容項目が示されていない教材数を表す。

### ○教材総数に占める四つの視点ごとの割合

視点	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
教材総数	1年	39	35	37	36	35	45	35
	2年	39	35	37	36	35	44	35
	3年	39	35	37	36	35	45	35
A 主として自分自身に関すること	1年	21%	23%	19%	19%	23%	22%	24%
	2年	21%	23%	19%	19%	23%	20%	21%
	3年	18%	20%	27%	19%	23%	20%	26%
B 主として人との関わりに関すること	1年	21%	23%	19%	19%	20%	20%	21%
	2年	21%	20%	22%	19%	20%	18%	18%
	3年	18%	17%	16%	19%	20%	16%	21%
C 主として集団や社会との関わりに関すること	1年	38%	34%	35%	39%	37%	38%	38%
	2年	38%	40%	35%	39%	34%	39%	44%
	3年	44%	37%	32%	42%	37%	36%	41%
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	1年	21%	20%	22%	22%	20%	20%	18%
	2年	21%	17%	19%	22%	23%	23%	18%
	3年	21%	26%	19%	19%	20%	24%	12%

※ %は、当該学年の教材総数に占める割合を表す。（端数処理のため、合計が100%にならないことがある。また、一つの教材において視点が複数にまたがり両方の視点でカウントしている場合や、教材の内容項目が示されていない場合があるため、合計が100%にならないことがある。）

○各学年で取り上げている題材延べ数に占める題材ごとの割合

題材	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
題材のべ数	1年	123	68	75	78	68	54	37
	2年	109	66	74	84	84	54	41
	3年	105	49	61	95	73	57	36
生命の尊厳	1年	6%	9%	8%	9%	10%	9%	8%
	2年	7%	11%	4%	8%	8%	9%	5%
	3年	4%	10%	5%	16%	7%	16%	8%
社会参画	1年	20%	16%	5%	10%	7%	11%	16%
	2年	10%	18%	9%	8%	8%	15%	15%
	3年	15%	31%	10%	14%	5%	14%	14%
自然	1年	6%	7%	5%	6%	3%	4%	8%
	2年	5%	5%	7%	8%	5%	9%	7%
	3年	3%	10%	3%	5%	3%	9%	6%
伝統と文化	1年	5%	9%	9%	9%	4%	6%	5%
	2年	3%	5%	12%	10%	5%	7%	5%
	3年	4%	10%	10%	6%	8%	9%	6%
先人の伝記	1年	2%	4%	0%	3%	0%	0%	5%
	2年	6%	8%	1%	4%	4%	1%	5%
	3年	6%	4%	0%	6%	3%	4%	6%
スポーツ	1年	2%	3%	1%	4%	7%	7%	3%
	2年	5%	3%	0%	6%	7%	9%	2%
	3年	5%	2%	0%	4%	8%	7%	3%
現代的課題等	1年	30%	34%	45%	47%	32%	31%	46%
	2年	27%	32%	26%	48%	26%	22%	46%
	3年	30%	20%	30%	39%	30%	25%	50%

※ %は、当該学年で取り上げている題材延べ数に占める割合を示す。

※ 現代的課題等： いじめ、情報モラル、消費者教育、防災教育、食育、人権、環境など

○QRコードの数について

題材	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
QRコードの数	1年	47	55	31	46	14	13	28
	2年	47	58	27	46	13	17	24
	3年	46	52	27	46	12	17	16

## 根拠法令

### 義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律（抄）

（昭和三十八年法律第百八十二号）

#### 第三章 採択

（都道府県の教育委員会の任務）

第十条 都道府県の教育委員会は、当該都道府県内の義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択の適正な実施を図るため、義務教育諸学校において使用する教科用図書の研究に関し、計画し、及び実施するとともに、市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く。）の校長の行う採択に関する事務について、適切な指導、助言又は援助を行わなければならない。

（教科用図書選定審議会）

第十一条 都道府県の教育委員会は、前条の規定により指導、助言又は援助を行なおうとするときは、あらかじめ教科用図書選定審議会（以下「選定審議会」という。）の意見をきかなければならない。

2 選定審議会は、毎年度、政令で定める期間、都道府県に置く。



(教科用図書の採択)

第十三条 都道府県内の義務教育諸学校（都道府県立の義務教育諸学校を除く。）において使用する教科用図書の採択は、第十条の規定によつて当該都道府県の教育委員会が行なう指導、助言又は援助により、種目（教科用図書の教科ごとに分類された単位をいう。以下同じ。）ごとに一種の教科用図書について行なうものとする。

2 都道府県立の義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択は、あらかじめ選定審議会の意見をきいて、種目ごとに一種の教科用図書について行なうものとする。

(同一教科用図書を採択する期間)

第十四条 義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令で定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。

## 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（抄）

### （昭和三十九年政令第十四号）

（教科用図書選定審議会の設置期間）

第七条 教科用図書選定審議会（以下「選定審議会」という。）を置く期間は、四月一日から八月三十一日までとする。

（選定審議会の所掌事務）

第八条 選定審議会は、都道府県の教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議し、及び必要と認めるときは、これらの事項について都道府県の教育委員会に建議する。

一 市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く。）の校長の行う教科用図書の採択に関する事務について都道府県の教育委員会の行う採択基準の作成、選定に必要な資料の作成その他指導、助言又は援助に関する重要事項

二 都道府県の設置する義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択に関する事項

（同一教科用図書を採択する期間）

第十五条 法第十四条の規定により種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間（以下この条において「採択期間」という。）は、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）附則第九条第一項に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年とする。



令和6年4月17日

埼玉県教育委員会 様

埼玉県教科用図書選定審議会  
会長 柿沼光夫



### 教科用図書採択に関する答申（一次）

令和6年4月4日開催の教育委員会で決定された諮問事項について、下記のとおり答申いたします。

#### 【諮問事項】

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について
- 2 県立義務教育諸学校において使用する教科用図書採択の基本的考え方について

#### 記

#### 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

諮問の際に提示のあった別紙「県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方」を適当であると認めるとともに、以下の点について特に留意すること。

- (1) 「採択基準」や「参考資料」の作成に当たっては、引き続き、市町村教育委員会等の一般的な指針となるように配慮すること。
- (2) 「静ひつな環境の確保」と「会議の公開・議事録の公表」は両立できることであり、今後も引き続き、ガイドラインを踏まえ、より一層教科用図書採択の公正性・透明性を高めること。
- (3) 特別支援学校及び特別支援学級の教科用図書の採択については、児童生徒にとって教育上効果的なものとなるよう、児童生徒の障害の状態や教育的ニーズ等を考慮すること。

#### 2 県立義務教育諸学校において使用する教科用図書採択の基本的考え方について

諮問の際に提示のあった別紙「県立義務教育諸学校において使用する教科用図書採択の基本的考え方」を適当であると認めるとともに、以下の点について特に留意すること。

- (1) 義務教育諸学校の教科用図書の採択については、児童生徒にとって教育上効果的なものとなるよう、学校の特色や児童生徒の実態に即したものにすること。
- (2) 県立特別支援学校の教科用図書の採択については、引き続き、児童生徒の障害の状態や教育的ニーズ等を考慮すること。